

目 次

1 年次生対象授業科目

形態・生理学A（生命維持の基本構造）	1
形態・生理学B（環境適応と行動）	3
生化学	5
分子生物学	7
栄養学	8
病態病理学	9
免疫学	11
医療保健学入門	13
看護学概論	15
看護理論	17
基本援助技術論	19
基礎看護学早期体験実習	21
成人看護学概論	22
老年看護学概論	24
小児看護学概論	26
母性看護学概論	28
精神看護学概論	30
さぬきの暮らしと健康実習	32

2 年次生対象授業科目

微生物学総論	33
微生物学各論A	35
微生物学各論B	37
疾病論 I	39
疾病論 II	42
疾病論 III	44
疾病論 IV	46
疾病論 V	48
看護薬理学	50
看護と法規	52
社会福祉・社会保障論	54
基礎看護方法論	56
生活援助技術論	58

基礎看護技術論	60
基礎看護学実習	62
成人慢性期・終末期援助論	64
成人急性期・リハビリテーション援助論	66
老年保健対象論	69
老年援助論	71
小児保健対象論	73
精神保健対象論	75
精神援助論	77
在宅看護学概論	80
在宅対象論	82
家族看護学	84
公衆衛生学	86
地域看護学概論	88
看護統計論	90

3年次生対象授業科目

成人看護技術論	92
看護実践技術論（フィジカル等）	94
小児援助論	96
母性援助論	99
母性保健対象論	101
在宅援助論	103
看護クリティカルシンキング	105
看護倫理	107
看護と国際社会	109
学校保健	111
養護原論	113
成人急性期・リハビリテーション期看護実習	115
成人慢性期・終末期看護実習	117
老年生活援助実習	119
老年看護学実習	121
小児看護学実習	123
母性看護学実習	125
在宅看護学実習	127
精神看護学実習	129

4年次生対象授業科目

看護マネジメント学	131
救急・災害看護	133
統合実習	135
臨床高度実践技術論	137
クリティカルケア看護論	139
がん・緩和ケア論	141
スピリチュアルケア論	143
コミュニティーケースワーク論	145
産業保健・看護論	147
離島保健・看護論	149
健康危機管理論	150
ヘルスプロモーション演習	152
組織連携論	153
公衆衛生看護管理論	155
公衆衛生看護学基礎実習	157
公衆衛生看護学実習	159
教育実践演習C	161
教職実践演習（養護教諭）	163
養護実習	165
看護研究	168

1～4年次生対象授業科目

ボランティア活動	170
国際交流活動	172

ナンバリングコード B1NRS-bcaM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762012) 形態・生理学A (生命維持の基本構造) Morphology / Biology A	科目区分	時間割 前期月2, 集中3	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 3	
担当教員名 塩田 敦子, 加藤 育子, 三木 崇範	関連授業科目 形態生理学B、看護薬理学、疾病論、病態病理学 履修推奨科目		
学習時間	形態・生理学A: 講義90分 × 30回 + 自学自習(準備学習60時間 + 事後学習60時間)		
授業の概要			
<p>看護とは、健康上のあらゆる問題、すなわち健康の増進、維持、回復に関する人間の反応に対処し、個人ないし集団が自立してゆくことを援助することにある。そのための基礎として、まず正常な人間の生命現象を科学的に理解し、さらには人間が病気になるとはどういうことかが理解することが必要である。</p> <p>人体の形態や構造と機能には密接な関係があるといえる。例えば骨では、上下に可動する関節は左右に動くような構造にはなっていない。すなわち、形態や構造はその器官の機能を規定しており、さらには形態と機能は表裏一体の関係であると言うことができるかもしれない。このような観点から、人体の構造と機能をよりよく理解するためには、構造と機能を同時に学習し、その有機的な関係について理解することが重要である。</p> <p>この授業においては、まず生命を維持するための基本構造とその機能についての知識を習得し、疾病による身体の異常と正常の判別が行えるよう基礎知識を身につける。</p>			
授業の目的			
適切な臨床看護を行うことが出来るようになるために、まず人体の形態と構造に関する基礎知識を身につける。その上で、人体の諸器官の機能が正常に営まれている健康な状態とはいかなるものであるかを理解し、その上で疾患による身体の異常の概要についての知識を習得する。さらには、将来必要とされる臨床看護上の問題や疾病を理解した上で、研究としての展開が行えるような科学的思考能力を身につける。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な人体諸器官の形態、構造、機能について説明できる (DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応)。 2. 正常な人体器官の形態と構造およびそれらの機能が障害された場合、どのような病的状態が引き起こされるかを説明できる (DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応)。 3. 代表的疾病により招来される身体の変化を推察し、身体状態の正常と異常の大まかな判別ができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
1年前期末に筆記試験を行う。講義の途中に行う小テストや、提出されたレポートまたは課題発表により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によって講義をオンラインに変更する可能性があります。			
(この順序では行わないことがあります)			
1 人体の概要、解剖学用語、人体各部の名称 (塩田)			
2 細胞と組織 (塩田)			
3 血液の成分と造血 (塩田)			
4 血液の機能 (塩田)			
5 体液 (塩田)			
6 電解質 (塩田)			
7 気道系の構造 (塩田)			
8 肺・胸部内臓器 (塩田)			
9 呼吸の生理 (塩田)			
10 内分泌総論 (塩田)			
11 内分泌器官の構造 (塩田)			
12 下垂体ホルモン (塩田)			
13 甲状腺ホルモン (塩田)			
14 副腎ホルモン (塩田)			
15 性腺ホルモンと生殖器 (塩田)			
16 消化器総論、口、歯、唾液腺 (加藤)			
17 食道、胃の構造と機能 (加藤)			
18 小腸の構造、機能 (加藤)			

- 19 消化と吸収 (加藤)
- 20 大腸の構造、機能 (加藤)
- 21 肝臓の構造 (加藤)
- 22 肝臓の機能 (加藤)
- 23 胆道と膵臓 (加藤)
- 24 循環器系総論 (加藤)
- 25 心臓の構造、心臓壁と刺激伝達系 (加藤)
- 26 心臓の拍動、心電図 (加藤)
- 27 血管系、胎児の血液循環 (加藤)
- 28 循環動態 (加藤)
- 29 循環調節 (加藤)
- 30 リンパ系 (加藤)

人体器官の形態、構造、位置及びそれぞれの名称を覚えるだけでなく、常に生理機能と関連づけて学習する。又、出来る限り臨床看護に必要な臨床上の問題や疾病とのかかわり合いの中で、生化学、病理学（疾病論）をも含めた総合的な学習を行う。事前学習を行い学生による発表を実施することがある。また事後学習を行うことで習得した知識を確認するために小テストを適時実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

授業と関連する事項について、事前にインターネットなどにより情報収集を行う。また、次の授業までに前回の授業内容について、参考書等を用いて復習する。（各回4時間）

教科書・参考書等

教科書

人体の構造と機能 第5版 内田さえ・佐伯由香・原田玲子 編（医歯薬出版、2019）

カラーで学べる病理学 第5版 渡辺照男 編（ヌーヴェル・ヒロカワ、2020）

参考書

わかりやすい人体の構造と機能 塩田浩平 編（中山書店、2013）

人体の構造と機能① 解剖生理学 第4版 林正健二 編（メディカ出版、2016）

トータル人体の構造と機能 第5版 桑木共之 他、共訳（丸善、2019）

看護のための臨床病態学 第4版 浅野嘉延、吉山直樹 編（南山堂、2020）

オフィスアワー 毎週月曜日午後

直接部屋にきていただくことも可能ですが、不在のこともあるため可能であれば事前にアポイントメントをお願いします。webclass上でのやり取りも可能です。

看護学科教育研究棟2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

質問がある場合には、対面もしくはwebclassやメールにて受け付けます。

shiota.atsuko@kagawa-u.ac.jp（塩田）

kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp（加藤）

教員の実務経験との関連

塩田と加藤は医師として臨床経験を積んできており、専門医の資格も有する。現在も香川大学医学部附属病院の外来を担当している。

ナンバリングコード B1NRS-bcaM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762022) 形態・生理学B (環境適応と行動) Morphology / Biology B	科目区分	時間割 後期月2, 集中3	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 3	
担当教員名 塩田 敦子, 加藤 育子, 三木 崇範	関連授業科目 形態・生理学A、看護薬理学、疾病論、病態病理学 履修推奨科目		
学習時間	形態・生理学B: 講義90分 × 22回 + 自学自習 (準備学習44時間 + 事後学習44時間)		
授業の概要			
<p>看護とは、健康上のあらゆる問題、すなわち健康の増進、維持、回復に関する人間の反応に対処し、個人ないし集団が自立してゆくことを援助することにある。そのための基礎として、まず正常な人間の生命現象を科学的に理解し、さらには人間が病気になるとはどういうことかが理解することが必要である。</p> <p>人体の形態や構造と機能には密接な関係があるといえる。例えば骨では、上下に可動する関節は左右に動くような構造にはなっていない。すなわち、形態や構造はその器官の機能を規定しており、さらには形態と機能は表裏一体の関係であると言うことができるかもしれない。このような観点から、人体の構造と機能をよりよく理解するためには、構造と機能を同時に学習し、その有機的な関係について理解することが重要である。この授業においては、まず前期で習得した生命を維持するための基本構造とその機能についての知識(形態・生理A)を活用し、外界に対する適応能力や刺激に対する反応系に関する知識を習得する。生命現象としての人体を理解したうえで、疾病による身体の異常と正常の判別が行えるような基礎知識を身につける。</p>			
授業の目的			
<p>適切な臨床看護を行うことが出来るようになるために、まず人体の形態と構造に関する基礎知識を身につける。その上で、人体の諸器官の機能が正常に営まれている健康な状態とはいかなるものであるかを把握し、その上で疾病による身体的変化の概要を理解する。さらには、将来必要とされる臨床看護上の問題や疾病を理解した上で、研究としての展開が行えるような科学的思考能力を身につける。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な人体諸器官の形態、構造、機能について説明できる (DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応)。 2. 正常な人体器官の形態と構造およびそれらの機能が障害された場合、どのような病的状態が引き起こされるかを説明できる (DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応)。 3. 代表的疾患により招来される身体の変化を推察し、身体状態の正常と異常の大まかな判別ができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
1年後期末に筆記試験を行う。講義の途中に行う小テストや、提出されたレポートまたは課題発表により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行う。状況によってはオンラインに変更する可能性がある。			
(この順序通りには行わないことがある)			
1	骨の構造と機能 (塩田)		
2	骨格 (塩田)		
3	関節 (塩田)		
4	骨格筋 (塩田)		
5	神経系の構造 (塩田)		
6	中枢神経系 脳の基本構造と脳室 (塩田)		
7	中枢神経系 大脳新皮質と機能局在 (塩田)		
8	中枢神経系 大脳辺縁系、大脳基底核と間脳 (塩田)		
9	中枢神経系 脳幹、小脳と睡眠 (塩田)		
10	中枢神経系 脊髄と伝導路 (塩田)		
11	末梢神経系 脊髄神経 (塩田)		
12	末梢神経系 脳神経 (塩田)		
13	末梢神経系 自律神経系 (塩田)		
14	感覚器系 体性感覚、内臓感覚 (塩田)		
15	感覚器系 味覚器、嗅覚器、聴器、平衡器、視器 (塩田)		
16	腎臓の構造、髄質と皮質、腎小体、尿細管、ネフロン (加藤)		
17	尿の生成 (加藤)		
18	腎臓の機能 (加藤)		

- 19 尿管・膀胱・尿道、排尿の機序、排尿（加藤）
- 20 皮膚と膜の構造（加藤）
- 21 皮膚の機能（加藤）
- 22 体性感覚、深部感覚、内臓感覚（加藤）

上記に加えて、解剖学実習見学（三木、塩田、加藤）を行う。

人体器官の形態、構造、位置及びそれぞれの名称を覚えるだけでなく、常に生理機能と関連づけて学習する。又、出来る限り臨床看護に必要な臨床上の問題や疾病とのかかわり合いの中で、生化学、病理学（疾病論）をも含めた総合的な学習を行う。事前学習を行い学生による発表を実施することがある。また事後学習を行うことで習得した知識を確認するために小テストを適時実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

授業と関連する事項について、事前にインターネットなどにより情報収集を行う。また、次の授業までに前回の授業内容について、参考書等を用いて復習する。（各回4時間）

教科書・参考書等

教科書

人体の構造と機能 第5版 内田さえ・佐伯由香・原田玲子 編（医歯薬出版、2019）

カラーで学べる病理学 第5版 渡辺照男 編（ヌーヴェル・ヒロカワ、2020）

参考書

わかりやすい人体の構造と機能 塩田浩平 編（中山書店、2013）

人体の構造と機能① 解剖生理学 第4版 林正健二 編（メディカ出版、2016）

トトラ人体の構造と機能 第5版 桑木共之 他、共訳（丸善、2019）

看護のための臨床病態学 第4版 浅野嘉延、吉山直樹 編（南山堂、2020）

オフィスアワー 毎週月曜日午後

直接部屋にきていただくことも可能ですが、不在のこともあるため可能であればアポイントメントをお願いします。webclass上でのやり取りも可能です。

看護学科教育研究棟2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

質問がある場合には、対面もしくはwebclass、メールにて受け付けます。

shiota.atsuko@kagawa-u.ac.jp（塩田）

kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp（加藤）

教員の実務経験との関連

塩田と加藤は医師として臨床経験を積んできており、専門医の資格も有する。現在も香川大学医学部附属病院の外来を担当している。

ナンバリングコード B1NRS-baxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762032) 生化学 Biochemistry	科目区分	時間割 前期月3	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 baxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤井 豊	関連授業科目 分子生物学、栄養学		
	履修推奨科目 化学A、化学B、生物学A、生物学B		
学習時間	講義90分 x 15回 + 自学自習(復習 60時間)		
授業の概要			
<p>人体は、生命を維持するために、様々な化学反応を続けています。生化学では、人体はどのような物質からできていて、どのような反応が起きているのかを教えます。</p> <p>学んだ知識は、分子生物学や栄養学を理解するために必要な基本知識となります。</p>			
授業の目的			
<p>人体を構成している物質の生成と分解の反応機構を理解し、その異常及び変動によって生ずる疾患の発症機序を考える基礎知識を身につける。</p>			
到達目標			
<p>1. 人体構成成分の化学的性質と生理機能を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応)</p> <p>2. 人体で行われている代謝を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応)</p> <p>3. 代表的な代謝性疾患の病態生理を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応)</p> <p>講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布し示します。</p>			
成績評価の方法と基準			
<p>期末試験により到達度を評価します。試験は記述式で行い、単なる知識の丸暗記では合格点に達するのは困難です。</p> <p>対面講義時に提出するリアクションペーパーは、成績評価の対象とはしません。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>この授業は対面講義で行います。新型コロナウイルス感染症の流行状況により、オンデマンド収録配信となる場合があります。</p>			
<p>1 生化学を学ぶための基礎知識その1</p> <p>2 生化学を学ぶための基礎知識その2</p> <p>3 生化学を学ぶための基礎知識その3</p> <p>4 糖質</p> <p>5 脂質</p> <p>6 アミノ酸と蛋白質</p> <p>7 酵素</p> <p>8 糖質代謝その1</p> <p>9 糖質代謝その2</p> <p>10 脂質代謝その1</p> <p>11 脂質代謝その2</p> <p>12 アミノ酸代謝</p> <p>13 ポルフィリン代謝</p> <p>14 代謝性疾患</p> <p>15 先天性代謝異常症</p>			
<p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <p>講義前の予習は義務づけていません。講義を受けてわかった所、わからなかった所を講義終了時に毎回自問し、わからなかった所はリアクションペーパーにて質問をしてください。その質問は、まとめて講義で説明する形で講義を進めて行きます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。復習を中心とした自主学習で講義を進めますので、各講義で4時間の復習を心がけてください。</p>			
教科書・参考書等			
<p>教科書 わかる! 身につく! 生物・生化学・分子生物学 南山堂</p>			
オフィスアワー 月曜日、火曜日、月・火曜日の振り替え講義日、午後4時10分～午後5時			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義は、高校で化学または生物を勉強していない人を対象としたレベルで行い、単位の認定をします。より高度な内容も講義しますが、その部分は、「わかる人だけわかる」のでかまいません。どこが大事で、どこを聞き流して良いのかは、講義に出席していれば判断できるように話します。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1NRS-baxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762043) 分子生物学 Molecular biology	科目区分	時間割 後期前半月3	対象年次及び学科 1~1 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 baxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 藤井 豊	関連授業科目 生化学、微生物学各論B 履修推奨科目 生物学C		
学習時間	講義90分 x 7.5回 + 自学自習 (復習 30時間)		
授業の概要 分子生物学の講義では、遺伝子の構造、複製、転写、翻訳について解説し、遺伝子変異により病気が起こる仕組みを学びます。2年次の微生物学で学ぶウイルスは、正常細胞の仕組みを使って増殖するため、正常を学び理解しておくことはとても大切です。			
授業の目的 核酸代謝、及び、遺伝子の構造、複製、転写、翻訳の仕組みを理解し、遺伝子が原因となる病気について基礎知識を身につける。			
到達目標			
1. 遺伝子の複製、転写、翻訳の仕組みを説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 2. 遺伝子病や癌が発生する仕組みを説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布し示します。			
成績評価の方法と基準 期末試験により到達度を評価する。 対面講義時に提出するリアクションペーパーは、成績評価の対象とはしない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この授業は対面講義で行います。コロナウイルス感染症の流行状況により、オンデマンド収録配信となる場合があります。			
1 核酸とは 2 核酸代謝 3 遺伝情報とその発現 (複製) 4 遺伝情報とその発現 (転写) 5 遺伝情報とその発現 (翻訳) 6 遺伝情報とその発現 (糖蛋白質と分泌蛋白質) 7 がん遺伝子、遺伝子異常 8 期末試験とその解説			
【自学自習のためのアドバイス】 講義前の予習は義務づけていません。講義を受けてわかった所、わからなかった所を講義終了時に毎回自問し、わからなかった所はリアクションペーパーにて質問をしてください。その質問は、まとめて講義で説明する形で講義を進めて行きます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。復習を中心とした自主学習で講義を進めますので、各講義で4時間の復習を心がけてください。			
教科書・参考書等 教科書 わかる! 身につく! 生物・生化学・分子生物学 南山堂 (生化学で購入済み)			
オフィスアワー 月曜日、金曜日、月・金曜日の振り替え講義日、午後4時10分 ~ 午後5時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 分子生物学は、高校で化学、あるいは生物を履修していない学生がいることを前提として、講義をします。高度な内容を含みますが、丸暗記ではなく理解することを求めます。2年生後期の微生物学各論Bは、この科目を十分に理解していることを前提とし開講しているので、しっかりと勉強してください。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B1NRS-baxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762044) 栄養学 Nutritional science	科目区分	時間割 前期後半月4	対象年次及び学科 1~1 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 baxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 藤井 豊	関連授業科目 生化学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 x 7.5回 + 自学自習 (復習 30時間)			
授業の概要 ヒトが活動し、成長するために、どのように栄養を取るかその基本を学びます。 糖尿病、脂質異常症、痛風、動脈硬化などの生活習慣病では、食事療法が最も大切な治療法と言えます。 臨床各科で学ぶ食事療法、栄養指導の基となる知識と基本的な考え方を学びます。			
授業の目的 人間にとっての食事、栄養の意義、食事療法と健康保持に関する基本的考え方を、代謝反応と関連づけて身につける。			
到達目標			
1. 栄養状態の評価方法を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 2. 各ライフステージにおける栄養学的な問題点を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 3. 各種疾患の病態と食事療法を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布し示します			
成績評価の方法と基準 期末試験により到達度を評価する。 対面講義時に提出するリアクションペーパーは、成績評価の対象とはしない。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この授業は対面講義で行います。 コロナウイルス感染症の流行状況により、オンデマンド収録配信となる場合があります。			
1 ビタミン 2 ミネラル 3 栄養状態の評価 4 ライフステージと栄養 1 5 ライフステージと栄養 2 6 疾患別の食事療法 1 7 疾患別の食事療法 2 8 期末試験とその解説 【自学自習のためのアドバイス】 講義前の予習は義務づけていません。講義を受けてわかった所、わからなかった所を講義終了時に毎回自問し、わからなかった所はリアクションペーパーにて質問をしてください。その質問は、まとめて講義で説明する形で講義を進めて行きます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。復習を中心とした自主学習で講義を進めますので、各講義で4時間の復習を心がけてください。			
教科書・参考書等 教科書 系統看護学講座 栄養学 医学書院			
オフィスアワー 月曜日、火曜日、月・火曜日の振り替え講義日、午後4時10分 ~ 午後5時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 栄養学の講義は、生化学の代謝の知識と密接に関係しています。			
教員の実務経験との関連			

ナンバリングコード B1NRS-bcaM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 764010) 病態病理学 Diagnostic Pathology	科目区分	時間割 後期後半水2	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 塩田 敦子, 加藤 育子, 辻 晃仁, 村尾 孝児, 野間 貴久	関連授業科目 形態生理学A&B、看護薬理学、疾病論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 8 時間 + 事後学習 8 時間)	履修推奨科目		
授業の概要			
<p>看護とは、健康上のあらゆる問題、すなわち健康の増進、維持、回復に関する人間の反応に対処し、個人ないし集団が自立してゆくことを援助することにある。そのための基礎として、まず正常な人間の生命現象を科学的に理解し、さらには人間が病気になるとはどのようなことが理解できるようにならなければならない。</p> <p>形態・生理学において、正常な生命現象としての人体の形態や構造と機能を学習した上で、各臓器系の障害が引き起こす疾病と、それによる形態の変化(病理学的変化)及び機能の異常について学習し、身体の正常と異常の判別が行えるように疾病の病態生理や病態病理の基礎知識を身につける。</p>			
授業の目的			
<p>適切な臨床看護を行うことが出来るようになるために、まず人体の形態と構造に関する基礎知識を身につけた上で、人体の諸器官の機能が正常に営まれている健康な状態とはいかなるものであるかを把握し、その上で疾病による身体的変化の概要を理解する。さらには、将来必要とされる臨床看護上の問題や疾病を理解した上で、研究としての展開が行えるような科学的思考能力を身につける。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な人体器官の形態と構造およびそれらの機能が障害された場合、どのような病的状態が引き起こされるかを説明できる (DP の「知識・理解」「言語運用能力」に対応)。 2. 代表的疾患における病理学的変化と機能異常について説明できる。DP の「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 3. 疾病により招来される身体の変化を推察し、身体状態の正常と異常の大まかな判別ができる (DP の「問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
授業終了後に筆記試験を行なう。自己学習課題についてはレポートの提出により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
(この順序では行わないことがある)			
第1回 総論 細胞・組織の障害と再生及び修復 (塩田)			
第2回 感染症と炎症 (塩田)			
第3回 先天異常、再生医療、老化と死 (塩田)			
第4回 体温の調節と異常 体温、発汗、発熱 (加藤)			
第5回 ホメオスタシス フィードバック機構 (加藤)			
第6回 腫瘍 (辻)			
第7回 内分泌・代謝 (村尾)			
第8回 循環器 (野間)			
【自学自習に関するアドバイス】			
出来る限り臨床看護に必要な臨床上の問題や疾病とのかかわり合いの中で、生化学、病理学(疾病論)をも含めた総合的な学習を心掛けること。関連する解剖、生理を、事前に予習しておくこと。(各回4時間)			
教科書・参考書等			
教科書			
カラーで学べる病理学 第5版 渡辺照男 編 (ヌーヴェル・ヒロカワ、2020)			
人体の構造と機能 第5版 内田さえ・佐伯由香・原田玲子 編 (医歯薬出版、2019)			
参考書			
わかりやすい人体の構造と機能 塩田浩平 編 (中山書店、2013)			
人体の構造と機能① 解剖生理学 第4版 林正健二 編 (メディカ出版、2016)			

トートラ人体の構造と機能 第5版 桑木共之 他、共訳 (丸善、2019)
看護のための臨床病態学 第4版 浅野嘉延、吉山直樹 編 (南山堂、2020)

オフィスアワー 毎週月曜日午後

直接部屋にきていただくことも可能ですが、不在のこともあるため可能であれば事前にアポイントメントをお願いします。webclass上でのやり取りも可能です。
看護学科教育研究棟2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

質問がある場合には、対面もしくはwebclassやメールにて受け付けます。
shiota.atsuko@kagawa-u.ac.jp (塩田)
kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp (加藤)

教員の実務経験との関連

教員はいずれも大学卒業後は医師として臨床経験を積んできており、専門医の資格も有する。現在も香川大学医学部付属病院の外来を担当している。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762081) 免疫学 Immunology	科目区分	時間割 後期前半水1	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 加藤 育子	関連授業科目 微生物学 履修推奨科目		
学習時間	講義90分×8回+自習学習(準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
伝染病(疫病)から免れる、すなわち「免疫」の仕組みを解明しようとして免疫学が発展してきた。そして免疫学は感染症の予防や治療だけではなく、感染症以外の検査手技への応用、免疫が関わる疾患の病態解明、がん治療から臓器移植にいたるまで実際の臨床の現場において広く応用されている。看護の現場でも、基礎的な免疫学の知識が求められている。免疫学の基礎を身につけることにより、臨床現場で求められる免疫学的な考え方の基本を学ぶ。			
授業の目的			
感染症から身を守るために備わっている免疫のしくみ、免疫が関わる疾患の病態、免疫を応用した治療、臓器移植など、医療の基礎となる生体の免疫反応を理解するために、免疫学の基礎知識を習得する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 抗体の構造と機能、抗体の多様性、抗体産生とその調節機構を説明できる。 2. 輸血を例とした血液型の基本を理解し、その抗原抗体反応の原理が説明できる。 3. 補体の機能を説明できる。 4. 免疫系各臓器の構造と機能を述べることができる。 5. 免疫担当細胞の種類と機能、産生される種々の生理活性因子の作用が理解できる。 6. ヒトの主要組織適合抗原であるHLA(MHC)抗原について理解できる。 7. 感染に対する生体防御機構について具体的に述べるができる。 8. アレルギー、自己免疫疾患の種類と疾患、その発現機序を説明できる。 9. 腫瘍抗原、腫瘍と宿主の免疫学的相互関係について説明できる。 10. 抗原抗体反応を応用した臨床検査が説明できる。 11. 免疫学的にHIV感染症、AIDSの発症を説明できる。 (全てDPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応、2. 11.は「倫理観・社会的責任」にも対応) 			
成績評価の方法と基準			
基本的に期末テストによる評価を行う。 適宜、講義内で行われる小テストやレポート、発表の評価を加味する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行う。状況によってはオンラインに変更する可能性がある。			
第1回 血液型と輸血 第2回 免疫に関わる細胞たち (副読本第1-3幕) 第3回 抗体 (〃第4-5幕) 第4回 免疫学的寛容 (〃第6-8幕) 第5回 アレルギー(過敏反応) (〃第9-10幕) 第6回 関節リウマチ、がん免疫 (〃第11-12幕) 第7回 HIVとAIDS (〃第13幕) 第8回 まとめと試験			
【自学自習に関するアドバイス】 授業と関連する事項について、事前にインターネットなどにより情報収集を行う。また、次の授業までに前回の授業内容について、参考書等を用いて復習する。(各回4時間)			
教科書・参考書等			
参考書 好きになる免疫学 第2版 萩原清文 著 (講談社 2019) 講義中に使用するので必ず購入のこと			
オフィスアワー 毎週月曜日午後 直接部屋にきていただくことも可能ですが、不在のこともあるため可能であれば事前にアポイントメントをお願いします。webclass上でのやり取りも可能です。 看護学科教育研究棟2階			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

質問がある場合には、対面もしくはwebclassやメールにて受け付けます。

kato.ikuko@kagawa-u.ac.jp

教員の実務経験との関連

内科診療を行っており、実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B1NRS-bdaM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762201) 医療保健学入門 Introduction to Medical Health	科目区分	時間割 前期前半2	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 bdaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 武智 尚子, 前田 智徳	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分 × 8回 (+ 医学科合同授業6回) + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)		
授業の概要			
<p>今日では新聞・雑誌はもとより、テレビの医療系番組、インターネットなどにより、一般市民が入手できる医学情報は以前とは比較にならないほど豊富になっている。しかしながら情報・知識を持つことと、それらを活用・統合して意味のある結果を生み出すことの間には大きな隔たりがあり、後者を達成するために必要な要件として、学問的体系に裏打ちされた専門知識の習得が重要であることは言うまでもない。</p> <p>一方で、社会経済状況の変化、科学技術の進歩、価値観の多様化、急速なグローバル化の進展により、医学・医療のあり方は大きく変容を遂げている。急速に進行する少子高齢化、認知症や介護の問題、地域医療や救急医療の危機的状況も、様々な社会環境の変化と密接に関連している。医療に従事する者は個々の患者・生命に真摯に向き合うだけでなく、時には患者の家庭環境・社会環境の改善に取り組んだり、より多くの人々の健康を守るために行動し、社会に発信する役割も担っている。将来、医療に携わる学生諸君には、医療の専門知識だけではなく、幅広い学問領域の様々な考え方に触れることで、社会や人間の営みについて深く考察し、高い倫理観と社会的使命感を培って欲しい。</p> <p>医療保健学入門では、医学科、臨床心理学科と合同で(6回)、異なるテーマについて専門の講師が講義を行う。講義では単なる知識の習得ではなく、様々な現場で実際に活躍している講師の話から、各自が自分にとっての成長の糧となるヒントを得ることを目的としている。レポートを書いて終わりにするのではなく、関連する本を読んだり、講師にさらに詳しい話を聞かせてもらうなど、自分から積極的に学ぶ姿勢が求められる。この機会を大いに活用して、より広い視点から医学・医療を学ぶためのモチベーションを高めて欲しい。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 現代の医学・医療事情を理解する項目として、AI時代の医療、チーム医療、医療従事者としての心構え、地域医療、ITと医療、医療安全に関する知識を習得する 2) 医学・医療における生命倫理に関する項目として、医の倫理、インフォームドコンセントと臓器移植、安楽死と尊厳死に関する知識を習得する 3) 学生生活と将来への展望に関する項目として、医学生の学びとモラル、危険ドラッグ等の薬物問題、ジェンダー意識と性の尊重、心と体の健康、医師としての生涯設計、国際化する医学教育に関する知識を習得し、医学部生として社会生活を送るための態度について考える 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療従事者に求められるものについて説明することができる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)。 2) 医療従事者の学びとモラルについて説明することができる (DPの「倫理観・社会的責任」、「問題解決・課題探求能力」に対応)。 3) 医療従事者の倫理について説明することができる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)。 4) チーム医療について説明することができる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)。 5) AI時代の医療について説明することができる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応)。 6) 麻薬・覚醒剤・危険ドラッグ等の薬物問題について説明することができる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「問題解決・課題探求能力」に対応)。 7) ジェンダー意識と互いの性の尊重について説明することができる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「問題解決・課題探求能力」に対応)。 8) 医学部生の心と体の健康について説明することができる (DPの「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
<p>受講態度・レポート50%、小テスト50% 総合的に評価する。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>授業計画 この授業はハイブリッド形式にて実施予定です。</p>			
第1回 医のこころ -AI時代の医療を考える- 筧 善行 (学長) (合同授業)			

- 第2回 看護のこころ -看護が必要な場面- (看護学科棟209)
 第3回 チーム医療 (病院長) (合同授業)
 第4回 医療従事者に求められるもの (香川大学附属病院看護部長) (合同授業)
 第5回 乱用薬物の基礎知識 芳地 一 (薬剤部長) (合同授業)
 第6回 大学生のジェンダー意識と互いの性の尊重 村上 弥生
 (男女共同参画推進室) (合同授業)
 第7回 医学部生の心と体の健康 永尾 幸・高田 純 (保健管理センター)
 (合同授業)
 第8回 医療・看護のモラル・倫理 (看護学科棟209)

【授業及び学習の方法】

必要に応じて講義資料を配付する。講義内容の理解度をみるために毎回講義終了時にミニレポートを提出し、レポート提出をもって出席とみなす。遅刻者に対しては遅刻時間に応じた減点を科す。講義を聞きながらレポートを書くことになるため、相当の集中力を要する。遅れて提出されたレポートは採点対象外となる。

講義内容に興味をもったら、積極的に関連の本を読むことをすすめる。

改めて講師に質問したい場合は、必ず事前にアポイントを取る。わからなければコーディネータ(新井)に相談するとよい。

【自学自習のためのアドバイス】

- 1) 各回の授業内容に関連した新聞記事やニュースを事前に調べて、授業時に質問できるように準備する。(各回1.5～3時間)
- 2) 授業担当者が紹介した参考図書や文献を読んで理解を深める。(各回1.5～3時間)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

8回のうち6回(第2回・第3回以外)は医学科・臨床心理学科との合同授業であり、臨床講義棟2階講義室で実施する。離れた教室への移動となるので開始時間に遅れないよう行動すること。合同授業の一部は3大学連携事業の一環として実施する。

教科書・参考書等

教科書：

- ・ <系統看護学講座 専門分野 I > 基礎看護学 看護学概論 : 医学書院
- ・ 「看護覚え書」 フロレンスナイチンゲール：湯槇ます他訳 : 現代社

参考図書：

- ・ 「看護の基本となるもの」 ヴァージニア・ヘンダーソン：湯槇ます他訳 日本看護協会出版会

オフィスアワー 水曜日：13:00～14:00：看護学科棟5階517室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義・課題に積極的に取り組んでください。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B1NRS-bdaM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762200) 看護学概論 Introduction to Fundamental Nursing	科目区分	時間割 前期後半水3	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 bdaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 武智 尚子, 前田 智徳	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分 × 8回+ 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)		
授業の概要			
<p>本科目は、専門科目としての看護学を学ぶ導入部分として、人間、生活、環境、健康、看護の概念について講義する。また、保健・医療・福祉における看護の役割と安全についてや、関連職種との連携についても講義する。</p> <p>看護の歴史の変遷を通して、社会における看護の役割を理解するとともに、看護実践活動の基本となる看護過程や看護倫理と法的側面について講義する。</p>			
授業の目的			
看護および看護学に関する理解を深め、看護観を構築する基盤形成のための知識、技術、態度を身につける。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史の変遷を通して、看護の役割機能、安全のとらえ方、現代社会における諸問題について説明することができる。(DPの知識・理解、言語運用能力、倫理観・社会的責任に対応) 2. 看護の構成要素である人間、生活、健康、環境、看護のとらえ方について説明し、各概念間の関係性について解釈することができる。(DPの知識・理解、言語運用能力に対応) 3. 保健・医療・福祉を構成する人々の役割機能について説明することができる。(DPの知識・理解、言語運用能力に対応) 4. 看護過程の構成要素について述べるができる。(DPの知識・理解、言語運用能力に対応) 5. 看護の倫理的側面と法的側面について解釈することができる。(DPの知識・理解、倫理観・社会的責任に対応) 			
成績評価の方法と基準			
・各回授業参加度・レポート20%、期末テスト80%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業計画			
この授業は、社会情勢により、ハイブリッドにて実施予定です。			
第1回…ガイダンス：学習目的、目標、学習方法と評価について 看護学概論の位置づけ、看護の役割と機能について			
第2回…看護の対象の理解：対象となる人間、生活、環境、看護の概念、 生活体としての人間の側面について			
第3回…健康の捉え方、国民の健康、生活の全体像の把握、 ヘルスプロモーション、ライフサイクルについて			
第4回…看護師の歴史の変遷、職業としての看護のはじまり・確立・充実・発展、看護師の教育・ 養成制度について			
第5回…看護の構成要素：医療・看護における倫理の必要性、インフォームドコンセント、看護実践におけ る倫理、ジレンマ、倫理的課題について			
第6回…看護サービスの提供と政策・経済・評価・管理について			
第7回…看護の活動領域(国際協力・国際保健・災害看護など)について			
第8回…まとめ			
【自学自習のためのアドバイス】			
・第1回…入学時配布されたシラバスの該当科目ページに目を通しておく。(1.5時間)			

・第2回～第8回・・・授業計画にある授業項目を下記のテキストをもとに、関連箇所を予習し質問項目の準備をする。(各回1.5時間)
授業で学んだことを自分の生活、将来像にあてはめて復習する。
看護に関する興味を抱いた関連書籍を読んでみる。(各回1.5～3時間)。

教科書・参考書等

教科書：

- ・〈系統看護学講座 専門分野 I〉 基礎看護学 看護学概論 : 医学書院
- ・「看護覚え書」 フロレンスナイチンゲール：湯槇ます他訳 : 現代社

参考図書：

- ・「看護の基本となるもの」 ヴァージニア・ヘンダーソン：湯槇ます他訳 日本看護協会出版会

オフィスアワー 水曜日：13:00～14:00：看護学科棟 5階517室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

事前学習や自学自習が必要な科目です。講義・課題に積極的に取り組んでください。

教員の実務経験との関連

看護師の資格を有し、実務および長年の基礎看護学の教育経験をもとに講義を行う。

ナンバリングコード B1NRS-bcxM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762210) 看護理論 Nursing Theory	科目区分	時間割 後期前半水2	対象年次及び学科 1～ 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 bcxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 武智 尚子, 前田 智徳	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分 × 8回 + グループワーク・自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)		
授業の概要			
主として看護実践に用いられる看護の概念モデル、看護理論について講義する。			
授業の目的			
理論とはについて理解を深め、看護実践に活用する方法を理解する。			
到達目標			
1. 看護理論について説明することができる。(DPの知識・理解、問題解決・課題探求能力に対応) 2. 看護の概念モデル、看護理論の看護実践への活用方法について説明することができる。(DPの知識・理解、言語運用能力に対応) 3. 看護の概念モデルならびに看護理論と看護過程との関係について説明することができる。(DPの知識・理解、言語運用能力、問題解決・課題探求能力に対応)			
成績評価の方法と基準			
課題(課題発表も含む) 50%、(到達目標2、3に対応)、 筆記試験50%、(到達目標1、2に対応)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
この授業はハイブリッド形式にて実施予定です。			
第1回: 理論とは、理論と概念モデル、看護理論とは、看護理論の歴史的背景 第2回: 看護の挑戦(看護実践が成し得たこと) 第3回: 看護理論家とその理論について、グループ発表 第4回: 看護過程について			
【科学的看護論(ナイチンゲール、ニード論(ヘンダーソン))】			
第5回～第8回: 事例を元に看護過程の展開、ゴードンの機能的健康パターンを用いた患者情報整理、 アセスメント、全体関連図、看護問題抽出、看護計画立案、看護実践、評価			
【授業及び学習の方法】			
第1回から第3回は、講義内容をもとに、看護理論家について調べ、グループワークを行い、発表・共有し学ぶ。第4回からは、看護過程における情報収集について、理論をもとに3方法で実際に行い、その中のゴードンの枠組みを用いて、看護過程の展開をグループで行う。グループワークの前に必ず自己学習課題(ワークシート)を行い、グループでディスカッションする。講義・グループワークで学習した内容を追加、修正し、一通りの看護過程の展開を行う。各ステップごとに、自己学習課題の実施状況を確認します。 (グループ学習ができない場合は、自己学習)			
【自学自習のためのアドバイス】			
・理論家については、文献をもとに理論家の背景、理論の内容、理論が生まれる元となった事柄、実践における理論の応用例など調べる。(3時間)			
・事例用いた看護過程の展開では、事例に出てくる疾患の意味、身体(組織・器官)の変化、生活面へ影響などを事前に文献を用いて調べてくる。専門用語やデータの読み方なども事前に学習してグループワークに臨む。 (各回2～3時間)			
教科書・参考書等			
教科書 ・筒井真優美, 看護理論-看護理論20の理解と実践への応用-改訂第2版, 南江堂.			

・石川ふみよ, Nursing Canvas Book 2看護過程の解体新書, 学研.

オフィスアワー 水曜日: 10:00~12:00: 看護学科棟5階517室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

必ず, 毎回課題を行い, グループワークできる準備をしてきてください.
事前課題をしていないとグループワークに参加できません.

教員の実務経験との関連

看護師の資格を有し, 実務および長年の基礎看護学の教育経験をもとに講義を行う.

・演習後は自己の技術の振り返りを行い、課題を明確にする。

教科書・参考書等

【教科書】

- ・茂野香おる，他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 第18版，医学書院，2021.
- ・任和子，他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 第18版，医学書院，2021.
- ・医療情報科学研究所：看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版，メディックメディア，2018.
- ・藤野智子監：基礎と臨床がつながるバイタルサイン，学研，2014.

※参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー

水曜日（第2は除く）講義終了後 ～ 18:00 看護学科教育研究棟5階 515号室（西村）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 初回講義時に詳細な授業ガイダンスを行いますので、必ず出席してください。
2. 各技術の演習の機会は限られています。健康管理を十分に行い、欠席しないようにしてください。

教員の実務経験との関連

国立大学医学部附属病院にて臨床看護師としての実務経験のある専任教員が講義・演習を行います。

ナンバリングコード B1NRS-abcM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 762261) 基礎看護学早期体験実習 Clinical Practice of Fundamental Nursing (Early Experience)	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1～医(看・臨) 看護学 学科
	水準・分野 B1NRS	DP・提供部局 abcM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子, 武智 尚子, 前田 智徳	関連授業科目 看護学概論 医療保健学入門 精神看護学概論		
	履修推奨科目 医療保健学入門 精神看護学概論		
学習時間	実習1単位(45時間)×1単位+自学自習(準備学習 15時間+事後学習 15時間)		
授業の概要			
<p>香川大学医学部附属病院における下記の実習を通して、授業目標の達成を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部からの臨床講義、病院見学、病棟オリエンテーションに参加します。 2. 入院患者の生活環境である病棟の観察や環境測定を行います。 3. 病棟看護師に随行(シャドーイング)し、看護師の実際の活動を観察します。 4. 入院患者とのコミュニケーションを行い、患者の体験や気持ち、日常生活の変化について話を聴きます。 5. 1～4の学びについてカンファレンスでディスカッションを行い、理解を深めます。 			
授業の目的			
看護の場としての病院の機構・概要や、看護師の活動、看護の対象者(患者)の体験や生活環境を知り、看護に関する理解を深める。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の機構・概要、看護部の概要について知る。(DP「知識・理解」に対応) 2. 病院の役割と機能および各病棟の概要や安全について知る。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 対象者(患者)とのコミュニケーションや生活環境の観察を通して、健康障害が日常生活に与える影響と、対象者の体験や気持ちを、対象者の視点に立って理解する。(DP「言語運用能力」、「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 医療チームにおける看護師の活動の実際を知る。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 対象者(患者)に関わる医療チームメンバーの各々の役割と、メンバー間の連携のあり方について知る。(DP「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 今後の看護の学習を進めるために、自己の学習課題を明確にする。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
実習への取組状況、課題レポート、カンファレンス・成果発表会の参加態度を総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>詳しい内容は、看護学実習の手引き-「基礎看護学早期体験実習」を参照してください。 この授業は対面にて実施予定です。</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、書籍、文献などを使用して事前にまとめ、これまでの学習を応用する(各回2～3時間)。 ・見たこと、聞いたこと、新しく体験したことを記録し、書籍、文献を使用しながら考察する(各回2～3時間)。 			
教科書・参考書等			
関連授業科目で使用・紹介されたテキスト、参考図書			
オフィスアワー 実習期間中は毎日16:00～17:00、各担当教員の研究室あるいは実習室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
健康管理を十分に行い、体調不良が疑われる時は速やかに担当教員に申し出るようにしてください。			
教員の実務経験との関連			
看護師の資格を有し、実務および長年の基礎看護学の教育経験をもとに実習指導を行います。			

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード:762280) 成人看護学概論 Adult Health Nursing theory	科目区分	時間割 後期前半月4	対象年次及び学科 1～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 清水 裕子	関連授業科目 成人慢性期援助論、成人急性期援助論、成人終末期援助論		
	履修推奨科目 成人慢性期援助論、成人急性期援助論、成人終末期援助論		
学習時間	講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>本科目は基礎看護学で学んだ看護の哲学・理念、目的、方法に関する知識をさらに発展させて、ライフサイクルにおける「成人期」という特定の対象に対する看護実践の基本的考え方について学ぶ。</p> <p>ライフサイクルにおける成人期は生活経験の蓄積や加齢に伴って健康上の問題をきたしやすい時期であり、いったん健康を障害されると成人のみならず成人を取り巻く周辺の人々に多大な影響を及ぼす。一方、成人期は自立し、自律性、生産性に優れ、発達課題や生活経験に根ざした独自の価値観や考え方を持ち、健康上の問題に対する反応(身体および考え方や取り組み方)は健康障害の違いのみならず、各々の生活経験や生活背景の違いによって個人差がある。</p> <p>そこで、本科目ではこのような成人の特徴を理解するとともに、成人を取り巻く社会や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能、文化的背景、社会福祉、資源の動向などから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題を理解する。さらに、発達課題や生活経験の蓄積という観点から健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する保健医療システムとそのあり方、看護方法について学ぶ。</p> <p>本授業をとおして学生は、後続する2年次の成人慢性期援助論、成人急性期援助論、成人リハビリテーション期援助論、成人終末期援助論、さらに3年次・4年次の成人看護学実習の基盤となる考え方を学び、看護の実践的知識・技術・態度を統合していくことが期待されている。</p>			
授業の目的			
<p>本授業ではこのような成人の特徴を理解するとともに、成人を取り巻く社会や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能、文化的背景、社会福祉、資源の動向などから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題と解決方法を理解する。</p> <p>さらに、発達課題や生活経験の蓄積という観点から健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する保健医療システムとそのあり方、看護方法について学ぶ。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけとその意義・重要性を説明できる。(DPコードb:知識・理解に対応) 2. 成人各期にある人(家族を含む)の一般的な身体的特徴、社会心理的特徴(発達課題・生活課題)、生活の特徴を説明できる。(DPコードb:知識・理解に対応) 3. 成人期にある人の保健の動向および成人各期の保健問題とライフスタイルの関連性について説明できる。(DPコードb:知識・理解に対応) 4. 成人各期にある人に起こりやすい健康障害とその要因を説明できる。(DPコードb:知識・理解に対応) 5. 成人期にある人の健康障害の各期の反応パターンの特徴とその反応パターンの特徴に応じた看護の目的・方法の特徴を説明できる。(DPコードc:問題解決・課題探求能力に対応) 6. あらゆる健康レベルの成人期にある人の健康を支援するための保健政策と保健・医療・福祉システム、社会資源について説明できる。(DPコードb:知識・理解に対応) 7. 成人期にある人の看護の目的・役割・活動の場・課題について説明できる。(DPコードd:倫理観・社会的責任に対応) 			
成績評価の方法と基準			
課題レポートと授業への参加度(20%)を評価資料とし、試験(80%)を実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 成人看護学の位置づけ、成人看護の対象と特徴			
第2回 青年期・壮年期・向老期の特徴と保健問題、ライフサイクル論			
第3回 青年期・壮年期・向老期の特徴と保健問題、成人各期の身体的・社会心理的特徴			
第4回 疫学統計からみた成人保健の動向と保健医療福祉対策			
第5回 健康な生活を送るために必要な保健医療福祉対策～「路上で生活する人々」の視聴から			
第6回 健康概念の起源からみた生活援助、			

第7回 成人看護に用いる理論—基礎編：ニード論、適応理論、ストレス理論、危機理論、学習理論他
第8回 国際看護の場と国際感染症、まとめ

【自学実習へのアドバイス】

第1回 自分と異世代のライフサイクルをレポートする (3時間)
第2回 指定図書を精読し、不明点を明らかにしておく (3時間)
第3回 国民生活基礎調査の関心のある箇所をレポートする (5時間)
第4回 ホームレスの生活と回復を視聴するので、新聞等でこれらの方々の情報と自立支援法についての学習を準備する。(5時間)
第5回 教科書を精読し、不明点を明らかにしておく(3時間)
第6回 ヒポクラテスについて調べる(4時間)
第7回 理論とは何かを調べておく (4時間)
第8回 近年話題になる新型コロナウイルス感染症の体験を振り返り、看護の国際化に関する情報を整理しておく。最後にあたり、不明点を明らかにしておく(3時間)

この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

指定図書

大西和子ほか. 成人看護学概論. 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2019.

参考書

清水裕子. ヒューマンケアと看護学. ナカニシヤ出版. 2013年.

安酸史子ほか. 成人看護学概論第2版. メディカ出版, 2015.

林直子. 鈴木久美. 酒井郁子. 梅田恵. 成人看護学概論. 改訂第3版. 南江堂, 2019.

小松浩子ほか. 成人看護学総論. 第14版, 医学書院, 2014.

黒江ゆり子編. 成人看護学概論/成人保健第6版. メヂカルフレンド社, 2018.

メヂカルフレンド社, 2007, (新体系看護学全書

ミルトン・メイヤロフ/田村真・向野宜之訳 (2002) ケアの本質—生きることの意味、ゆみる出版.

オフィスアワー 講義日の16:30-18:30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業時必ず出欠を確認する

教員の実務経験との関連

臨床看護、在宅看護での経験を元に授業を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762361) 老年看護学概論 Introduction to Gerontological Nursing	科目区分	時間割 後期後半月4	対象年次及び学科 1～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 山本 美輪, 西村 美穂, 森河 佑季	関連授業科目 疾病論Ⅱ 老年援助論 老年保健対象論 履修推奨科目		
学習時間	講義+グループワーク+演習90分×15回+自学自習(事前学習30時間 事後学習30時間)		
授業の概要			
<p>老年看護の目的は、老年期にあるその人の生命・生活の質が、その人をとりまく環境や条件の中で最大に保たれるように援助することである。老年看護学における対象は、人生の最終段階にある人で、これまでの生活背景や社会・文化的背景などから身体的・心理・社会的変化の個人差とその影響を考察する。また、高齢者の特徴を捉えるとともに、その高齢者が生活している超高齢社会の現実を正確に把握し、課題を考察する。</p>			
授業の目的			
<p>超高齢社会における保健・医療・福祉の現状と課題を踏まえた、老年看護の理念・目標・役割を理解する。その上で、健康・生活機能障害のある高齢者と家族の特徴とともに、看護に用いる理論や援助を考察する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老いのとらえ方と加齢による影響について説明できる。(DPの知識・理解に対応) 2. 老年期の各発達段階における特徴を説明できる。(DPの知識・理解に対応) 3. 高齢者の体験や生活の実態について説明できる。(DPの知識・理解に対応) 4. 高齢者に対する高齢社会の影響を説明できる。(DPの知識・理解に対応) 5. 高齢者医療の動向について説明できる。(DPの知識・理解と倫理観・社会的責任に対応) 6. 老年看護の理念・目標について説明できる。(DPの問題解決・課題探求能力に対応) 			
成績評価の方法と基準			
試験70%、レポート、出席状況30%により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面+遠隔形式にて実施予定です。			
<p>それぞれを90分とし、講義、演習、グループワーク、自己学習、レポート形式で行う。</p> <p>第1回 授業ガイダンス 高齢者のからだ 加齢に伴う変化の理解 第2回 高齢者に与える住居環境の影響 第3回 高齢者のADL・IADLの援助 第4回 高齢者のADL・IADLの援助・福祉機器 第5回 高齢者へのアクティビティケア・高齢者への影響 第6回 老年期に生きる高齢者の生活・死生観 第7回 高齢者と高齢者を取りまく社会・老年観に対する考察 第8回 認知症高齢者とその家族へのケア</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 第1回 加齢に伴う変化をまとめ、高齢者の生活困難をふまえて看護を考察する (10時間) 第2～7回 超高齢社会と保健・医療・福祉や老年期の発達課題に関する情報を集め、まとめる (各回10時間)。 第8回 認知症 (10時間)。</p>			
教科書・参考書等			
<p>教科書 山本美輪, これからの高齢者ケア ～知る・識る・共感する～, シービーアール, 2018.</p> <p>参考書 堀内ふき: 高齢者の健康と障害, 第3版, メディカ出版, 2011, (ナーシング・グラフィカ, 26). 厚生労働統計協会: 国民衛生の動向2016/2017, 厚生労働統計協会, 2016.</p>			
オフィスアワー 前期・木曜日 17時00分～18時00分			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
<p>周囲の高齢者と積極的に関わりながら、また、高齢者の保健・福祉に関わるニュースにも関心を持って学んでほしい。</p>			

教員の実務経験との関連

高齢者の多い整形外科・泌尿器科病棟と認知症治療専門棟での看護経験があり、認知症ケア上級専門士、認知症予防専門士指導者の資格を持つ教員が、高齢者の保健・医療・福祉の現状や高齢者と家族への看護援助について講義します。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762411) 小児看護学概論 Introduction to Pediatric Nursing	科目区分	時間割 後期後半月3	対象年次及び学科 1～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 谷本 公重, 祖父江 育子	関連授業科目 小児疾病論、小児保健対象論、小児援助論		
	履修推奨科目 小児疾病論		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習8時間+事後学習22時間)			
授業の概要 <p>小児看護の目的は、子どもとその家族の幸福と健康を実現できるように援助することです。本科目では、小児看護の対象、理念と目標、小児医療・看護の変遷を伝えます。そして、みなさんがライフサイクルを通じた健康の実現を理解するよう、子どもの成長・発達に関する知識を伝え、各発達段階において子どもとその家族が心身ともに健やかに発達するための育成看護について学びを深めるよう教授します。さらに、子どもの最善の利益を守るための法律や条約に関して学習していきます。</p>			
授業の目的 <p>子どもとその家族の幸福と健康を実現する力を養うために、小児およびその家族、加えて小児看護学に関する学際的理論や考え方について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特性、理念と目標、役割について学際的に学習する 2. 小児各期の成長・発達における遺伝的素因や環境要因の影響について学習し、健康実現に関する包括的な取り組みの重要性について考究する 3. 子どもとその家族の身体的・心理社会的発達過程について理解し、健康の増進に必要な基本的知識、態度を習得する 4. 子どもの権利条約の成立背景、子どもの権利条約が小児の健全育成に果たす役割について学習し、小児の最善の利益にかなう医療・看護について考究する 5. 小児と家族を支援するための法律の概要と施策について理解する 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象、理念、目標について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 子どもの権利条約、入院中の子どもの権利、小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護について説明できる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 小児各期の成長・発達の特徴とその過程を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 4. 小児各期の認知の発達の特徴とその過程を説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 5. 小児各期の成長発達の評価方法について説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 6. 小児の愛着形成過程を母子相互作用の観点から説明できる。(DPの「知識・理解」に対応) 7. 小児と家族を支援するための法律と施策について説明できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準 <ol style="list-style-type: none"> 1. 発表及び討議 10% 2. 講義参加度 10% 3. 試験 80% 			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 第1回：小児看護の理念と目標 小児看護の対象、理念と目標 小児医療・看護の変遷 小児看護の課題と展望 第2回：小児の権利擁護（アドボカシー） 子どもの権利と歴史的背景・・・子どもの権利条約 入院中の子どもの権利 インフォームドアセント 第3回：子どもの成長と発達（1） 成長と発達 成長発達の原則 身長、体重、呼吸様式、粗大運動機能、微細運動機能 身体的発育評価 第4回：子どもの成長と発達（2） 認知の発達 ピアジェ、思考発達段階説 エリクソン自我発達理論			

- 遊びの発達
- 第5回：小児看護における法規と制度
児童福祉法、母子保健法
乳幼児健診
- 第6回：子どもの成長と発達（3）（非常勤講師 祖父江先生）
言語発達
愛着
- 第7回：子どもの成長と発達（4）（非常勤講師 祖父江先生）
基本的生活習慣
- 第8回：小児の病気・事故防止と健康増進
健やか親子21
予防接種
乳幼児医療費公費負担制度

【授業及び学修の方法】

授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるために発表と討議を取り入れる。また、一部、動画の視聴を行い、子どもに対する理解を促進するよう促します。
この科目は基本的に対面講義で行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習へのアドバイス】

本講義の自学としては、同時期にある小児疾病論との関連を重視しながら、各講義終了後の復習を中心に進め、知識の定着を図っていただきたい。（講義事、準備学習1時間と事後学習2時間 合計24時間）その過程で生じた疑問は、積極的に担当教員に質問をしてほしい。そのうえで小児看護の理念、目標に対して自己の考えを明確に説明できるようにする（6時間）。

教科書・参考書等

【教科書（必携）】

以下の2冊の教科書は、1年次から各学年の小児看護学の講義において使用します。

二宮啓子，今野美紀編集：小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 改定第4版，南江堂，2022年，¥3,600+税

二宮啓子，今野美紀編集：小児看護学Ⅱ 小児看護技術 改定第4版，南江堂，2022年，¥3,400+税

【参考書】

石黒彩子，浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図第2版，医学書院，2012年，¥3,800+税

【その他資料】

適宜配布、紹介します。

オフィスアワー 水曜日13時から15時
看護学科教育研究棟 谷本 4階 414号研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書として指定した図書は、講義に必ず持参してください。その2冊は、1年次から各学年の小児看護学の講義・実習において使用します。

教員の実務経験との関連

教員は、小児関連病棟における臨床経験を持ち、また小児の看護に関連する研究を行っている。それらをもとに子どもと家族の最善の利益に焦点をあてた授業を展開する。

ナンバリングコード B2NRS-bceM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762470) 母性看護学概論 Introduction to Maternity Health Nursing	科目区分	時間割 後期前半月5	対象年次及び学科 1～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bceM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子	関連授業科目	母性保健対象論, 母性援助論, 母性疾病論 母性看護学実習	
	履修推奨科目	母性保健対象論, 母性援助論, 母性疾病論 母性看護学実習	
学習時間	講義90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
母性看護学の基盤となる概念を理解する。 マタニティサイクルおよび各期ライフサイクルの特徴について学習し、母性看護の役割について理解する。 リプロダクティブヘルスアンドライツに基づく健康支援や、多様な性やジェンダーに対する権利保障の重要性について学ぶ。			
授業の目的			
母性看護の基盤となる知識を学習し、母性看護に特徴的な視点と思考の方向性について理解する。2年次3年次に履修する疾病とその予防や母性に特有な看護ケアを学ぶ基盤をつくる。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基礎となる概念について理解する。 母性看護の対象の身体的、心理・社会的特性について理解できる。 女性のライフサイクルにおける健康問題と看護の役割が理解できる。 多様な性やジェンダーの概念が理解できる。 (以上、DPの「知識・理解」に対応)			
成績評価の方法と基準			
講義終了時ミニレポート (40%) グループワーク (10%) 課題レポート (20%) 出席状況・学習態度 (30%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
本科目は対面形式にて実施予定。			
第1回	母性看護の基礎となる概念 母性看護の概念と役割 ウェルネスの概念		
第2回	女性のライフサイクルと健康 ライフサイクルにおける女性の身体的・心理的变化 各ライフステージの特徴と健康問題 家族の役割と形成		
第3回	母子を支援する社会体制 母子保健の動向と課題 母子看護学における関係法規 母子の健康をめぐる社会問題		
第4回	ジェンダーとヘルスプロモーション リプロダクティブヘルス/ライツの概念と課題 多様な性の理解		
第5回	周産期看護の基礎 妊娠・分娩・産褥期の概要 周産期における保健指導の目的と意義		
第6回	母子ケアにおける国際貢献		
第7回	周産期における母子の身体的・精神的・社会的変化の特徴 (DVD視聴)		
第8回	母性看護における対象と看護職の役割の理解 (グループワーク)		
【授業及び学習の方法】			
毎回の配付資料と教科書で予習・復習を行うこと			

【自学自習のためのアドバイス】

予習：各回のテーマについて、教科書と関連する資料を読んでおく
講義中、集中して積極的に臨む
復習：講義資料で学習する
講義中紹介する資料や情報を入手して学習する
わからない点があれば教員に質問し、解決して理解を深める

教科書・参考書等

教科書

1. 名古屋大学出版会 現在の母性看護 概論 2700円＋税

参考図書

1. 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院

オフィスアワー 毎回講義終了後18：30まで、看護学科教育研究棟4階416 川田研究室

希望があれば適宜対応いたしますので、メールで連絡ください。

kawata.kimiko@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義とグループ討議・発表、レポート等で学習を展開する。また、適時、資料やDVD教材を活用する。

教員の実務経験との関連

助産師の資格を有し、大学病院等の臨床における勤務経験をもつ。長年の妊産褥婦及び新生児の実務経験をもとに講義する。

ナンバリングコード B2NRS-bcaM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762621) 精神看護学概論 Introduction to Psychiatric Mental Health Nursing	科目区分	時間割 前期前半月4	対象年次及び学科 1～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 渡邊 久美, 蔵本 綾	関連授業科目 看護学概論、疾病論IV、精神保健対象論、精神援助論、看護倫理、精神看護学実習 履修推奨科目 ボランティア活動		
	学習時間 講義あるいは演習90分×8回+自己学習(受講時に提示する課題へのレポート提出、事前学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要 <p>精神看護学は、人の精神健康の保持増進に向けたセルフケア看護の実践に関わる実学です。主な対象は精神の健康障害をもつ人とその家族ですが、健康な人も対象となります。地域では、精神疾患の発症予防や早期発見・早期介入、社会復帰や再発予防を目的として、個人とその家族や組織、地域など大変幅広い領域で、保健医療福祉職との協働によって、その人らしさを尊重した支援が展開されています。</p> <p>本科目では、人間における心の健康の定義、精神の働きと構造、ライフサイクル各期の心の発達課題と危機等に関する基礎知識を習得した上で、精神保健福祉の歴史や現行制度をふまえつつ、精神看護の役割を学びます。特に精神障害者の社会復帰に向けた生活や就労支援の仕組みをフィールドワークにより体験的に理解し、当事者の声からリカバリーのプロセスを学んでいきます。</p>			
授業の目的 <p>人がより良く生きるには、精神の健康が欠かせません。複雑なストレス社会を背景に、精神の健康障害を持つ人の数は増加の一途をたどっています。超少子高齢社会の中で、認知症高齢者の増加や発達障害を背景とする引きこもりの増加など、社会問題は未解決のまま増え続けており、看護の立場から精神健康の保持増進や疾病予防、回復に向けたケアシステムを発展させていくことは急務となっています。現在のような価値観が多様化している社会において、人々の精神健康を支え、共生社会の実現を担う看護職になるためには、援助者自身の軸づくりが何よりも大切となります。そもそも人間とはどういう存在であるべきなのか、精神活動と自己実現との関連に目を向け、自らの客観視や自己認識により看護職としての自己理解を深めていきます。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康の定義やその影響要因を概説し、人間の精神の尊厳や意義について考察できる。(DP「知識・理解」に対応) 2. 心の構造、機能、成長発達に関する諸理論を説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 3. ライフサイクル各期における発達課題と危機、ストレスに関する諸理論を説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 4. 精神保健医療福祉の歴史の変遷と現行制度の概要と、現代社会における精神保健の課題を述べることができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 対人関係における自己の特徴や傾向に目を向け、対人援助職としての目標を述べるができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準 授業への参加態度、レポート内容、講義終了後に行う筆記試験から総合的に評価します。 期末試験は出席2/3以上を条件とします。 (授業后感想レポート+課題レポート40%、期末テスト60%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 本科目は基本的に遠隔授業(リアルタイム配信もしくは授業収録)とします。状況によっては一部の授業で少人数の対面授業を行います。変更時には連絡します。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神の健康の定義、人間とは何か、精神保健予防活動、セルフケア理論の基礎 2. 精神の働きと心の構造について: 知情意、心の構造論、愛着理論、自我と防衛機制 3. ストレス対処と危機: 発達理論・ライフサイクル各期に生じやすい心の問題(蔵本) 4. 精神保健医療福祉のあゆみ、社会と精神障害者の関係、スティグマ 5. 精神障害当事者: ピアサポーターに学ぶ 一多様性・共生社会・リカバリーについてー(協力: 香川県障害福祉課) 6. 精神障害当事者の地域生活や就労を支える精神保健福祉の仕組み(フィールドワーク) 7. 地域での生活や就労を働く仕組みと生活者としての当事者理解(発表、討議) 8. 試験、解説 <p>【自己学習へのアドバイス】()内は教科書の該当箇所です。事前事後に自己学習してください。自己学習は各回、事前学習2時間・事後学習2時間を目安とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化的な生物としての人間の特徴を考察しておく。精神健康を保つための予防活動の仕組み、オレム・ 			

アンダーウッドによるセルフケア看護理論について予習しておく。(精神看護学①pp. 2-14, 精神保健で扱われる現象、精神的健康の保持・増進としての精神保健、地域精神保健、精神看護学②pp. 234-243, 精神障害をもつ人のセルフケアの援助) (4時間)

2. 心の発達に影響を与える愛着について理解を深め、精神の働きを「知情意」の観点で捉え、統合していく。(①pp. 45-70, 精神の構造と働き, pp. 79-83, ボウルビイの愛着理論) 防衛機制スタイルや認知行動療法の自己ワークを通して、日頃、意識的、無意識的に行う考え方の特徴や自己概念との関係を客観視することを通して概念を理解する。(①pp. 45-70, 精神の構造と働き, p69, 認知行動療法) (4時間)

3. 青年期の発達課題であるアイデンティティの確立を起点に、ライフサイクルの中で心の問題がどのように現れるのか問題意識を持ち、人や社会との関わりが心の健康に与える影響を考察する。(①pp. 72-78, エリクソンの漸近的発達理論, pp. 150-170, 精神の危機状況と精神保健) (4時間)

4. 精神障害者への処遇や地域生活支援への考え方の変遷を知る。精神保健福祉の歴史や関連法規について予習する。(①pp. 226-245, 精神医療の歴史) (4時間)

5. 他者との会話において自分の価値判断を挟まず、相手の話を聴くことの意味を考える。自分の持つ精神障害者へのイメージを見つめ、考えておく。(①pp. 1-25, 「精神看護学」で学ぶこと, ②pp. 2-20, 「精神(心)を病む」とはどういうことか, ②pp. 367-369, 当事者の力量を生かす相互支援) (4時間)

6. 精神障害当事者の地域生活を支える仕組みについて、就労支援事業所等の様々な事業所の種類やその違いを理解する。身近にある精神保健福祉施設に関心を持ち、調べておく。(②pp. 352-421, 精神障害をもつ人の地域における生活への支援) (4時間)

7. 社会に目を向け、現代社会における心のケアの重要性の高まりの背景を考え、心を健全に保つために必要なことを、多角的に考える。性(セクシュアリティ)と精神保健についての現代的課題についても考察する。フィールドワークや当事者の体験談からの学びを統合して、プレゼンテーションする準備を行う。(①pp. 100-120, 家族と精神の健康, pp. 122-147, 暮らしの場と精神の健康) (4時間)

8. 試験に備えて、全般を見直す。該当する教科書や学生による発表スライドなど全てが出題対象となる。(4時間)

教科書・参考書等

- 1) 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 メヂカルフレンド社 岩崎弥生他編
- 2) 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 岩崎弥生他編
- 3) 執行草舟著『生きる』講談社

オフィスアワー 月曜日 17:00 ~ 18:00 6階 (616) 渡邊研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

【履修上の注意】

Zoom等、香川大学で規定された遠隔講義システムを用いたリアルタイム配信を基本としますので、時間厳守で参加してください。場合により対面講義もしくは講義収録によるオンデマンド聴講としますが、その際には事前に連絡します。事前にネット環境の確認をしておいてください。授業感想レポートの提出をもって出席としますので、提出期限にご留意ください。感想レポートの内容や、レポートとしての体裁など、提出物は全て評価対象に含みます。

事業所への訪問学習に参加できない場合は、グループ編成に影響するため、事前に申し出てください。

【担当教員からのメッセージ】

精神看護学は、精神看護学概論、精神保健対象論、疾病論Ⅳ、精神援助論、看護倫理、精神看護学実習等の科目を通して基本的知識が得られるよう構成しており、本科目はその導入として重要です。精神看護の裾野はとて広く、看護実践の下支えとして文学や芸術に対峙し、先哲から学ぶ姿勢も必要です。心の健康問題を身近な問題として関心を持つと同時に、古今東西の名著から重層的な人間の精神構造や機能への理解を深めてください。参考図書等は研究室HPを参照してください。(http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~seisin/)

教員の実務経験との関連

老人病院の認知症専門病棟での勤務経験があります。教育研究職として、地域の専門職と協働で摂食障害の家族支援や愛着障害の当事者支援を行ってきた事例から、これからの精神看護を皆さんと共に考えていきたいと思っております。

ナンバリングコード B3NRS-bcdM-20-Pg 授業科目名 (時間割コード: 762357a) さぬきの暮らしと健康実習 Field Practice for Health promotion in Kagawa	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 1~1 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Pg	単位数 1	
担当教員名 芳我 ちより, 松本 啓子, 辻 京子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	実習45時間 1日9時~17時(休憩1時間)を5日間(事前学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
入学後に学修した共通教育科目や専門基礎科目、専門科目の知識と技術を基に、高齢者が健康長寿を延伸するための居場所づくり支援事業(通称「通いの場」)において、看護の視点をもって生活捉え、暮らしと健康の関連を学ぶ。			
授業の目的			
私たち自身の生活の場所に目し、その環境、生活文化の理解を深め、それが暮らしや健康に与える影響をについて考えることができる。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々が生活する地域の特性および環境(気候、風土、地理、人口、産業など)を、学生自身の生活環境と比較しながら、看護の視点で説明することができる。 2. 地域で生活する人の発達段階や生活スタイル(様式、方法など)、健康レベル(心身の状態)、健康を護るための行動(知識の求め方やそれに基づく行動など)を学生自身の経験と比較しながら説明することができる。 3. 地域で生活する高齢者が健康長寿・介護予防のために通う場を運営する機関や組織の役割と人々の健康を護るための方法(行事や具体的な関わり方など)について説明することができる。 4. これまでに培ってきたコミュニケーションスキルを用い、倫理的に配慮しながら対象者と関わり、地域の人々や仲間同士のディスカッションを通し、客観的に分析する。 5. 地域包括ケアシステムを構成する一つの場として「通いの場」の持つ意義を説明できる。 6. 実習での学びを既習の知識と関連付けて、看護の役割について考察し、説明することができる。 			
成績評価の方法と基準			
実習目標の到達度50%, レポート25%, カンファレンス等での発言内容25%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
本実習は対面形式にて実施予定です。また、基礎看護学早期体験実習と合わせて2週間で行います。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 高松市内の高齢者通いの場など 2. 実習時間 通いの場 9:00~17:00 学内カンファレンス 3. 実習期間 2022年8月29日(月)~9月9日(金) 4. 実習グループ 1クール10グループ 各グループ3~4名 5. 引率教員 地域看護学2名、在宅看護学2名 			
※詳しい日程については、初日オリエンテーションにて示します。			
教科書・参考書等			
※教科書については別に示す。			
参考書 高橋 紘士: 地域包括ケアシステム, オーム社, 2012, 3080円 辻 哲夫(監修): まちづくりとしての地域包括ケアシステム: 持続可能な地域共生社会をめざして, 東京大学出版会, 2017, 3850円			
オフィスアワー 実習期間中, 随時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
看護の基本となる, 対象者の暮らしと健康について考える機会とします。 ご自身の生活を見直し, 健康に暮らすためのヒントをたくさん見つけましょう。 主体的な学びを期待しています。			
教員の実務経験との関連			
担当教員は, 地域看護や在宅看護の専任教員として相応の経験もっています。 高齢者が健康な暮らしをどのように継続しているか, 皆さんが見聞したことをもとに実施するディスカッションをファシリテートします。			

ナンバリングコード B2NRS-baxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762110D) 微生物学総論 General Microbiology	科目区分	時間割 前期前半火3	対象年次及び学科 2~2 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 baxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 藤井 豊	関連授業科目 微生物学各論A、微生物学各論B 履修推奨科目 免疫学		
学習時間	講義90分 x 7.5回 + 自学自習(復習 60時間)		
授業の概要			
医療従事者は、どの分野であっても感染症と関係せずに仕事をすることはできません。その中でも特に看護師は、直接患者さんに医療行為を行う機会が多い職業であるため、微生物に対する十分な知識と技術を持たなければ、治療や感染予防が出来ず、場合によっては自分自身が感染してしまう危険性もあります。微生物学総論では、ヒトに感染症を起こす原因微生物である、細菌、真菌、ウイルス、原虫の特徴を理解し、それぞれの感染により起こる現象を勉強します。			
授業の目的			
看護師として、他の医療従事者と誤解なく意思疎通をするために必要な微生物学の知識を習得する。			
到達目標			
1. 微生物の種類と、それぞれの性質及び特徴を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 2. 微生物に対する宿主の反応を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 3. 感染予防法を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 4. 感染症の治療法を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布して示します。			
成績評価の方法と基準			
期末試験により到達度を評価します。試験は記述式で、知識の丸暗記としてプリントの項目を箇条書きにしただけでは、合格点に達するのは困難です。講義内容を理解し、文章で解答できることを求めます。対面講義時に提出するリアクションペーパーは、成績評価の対象とはしません。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面講義で行います。 コロナウイルス感染症の流行状況により、オンデマンド収録配信となる場合があります。			
1 微生物の種類、微生物学の歴史 教科書1章 2 微生物学の基礎 2章 3 微生物と感染症 3章 4 感染症の制御(ワクチン) 5章 5 感染症の制御(滅菌と消毒) 5章 6 化学療法 6章 7 化学療法と耐性菌 6章 8 期末試験とその解説			
【自学自習のためのアドバイス】 講義前の予習は義務づけられていません。講義を受けてわかった所、わからなかった所を講義終了時に毎回自問し、わからなかった所はリアクションペーパーにて質問をしてください。その質問は、まとめて講義で説明する形で講義を進めて行きます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。復習を中心とした自主学習で講義を進めますので、各講義で4時間の復習を心がけてください。			
教科書・参考書等			
教科書 感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学 羊土社			
参考書 シンプル微生物学 南江堂 図説人体寄生虫学 南江堂			
オフィスアワー 月曜日、火曜日、月・火曜日の振り替え講義日、午後4時10分 ~ 午後5時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
微生物学では、微生物の固有名詞などの専門用語がたくさん出てきます。まずは講義を聴いて耳から覚え、聞き取り間違いが無いのか、プリントや教科書で確認してください。深く理解することを否定するつもり			

はありませんが、専門用語は浅く、広く、たくさん、正しく覚えることも必要です。菌名は、講義ではラテン語の学名も使いますが、カタカナで覚えて書ければ充分です。

教員の実務経験との関連

担当教員は大学院卒業以後20年以上にわたり、国立大助手、私立医大の准教授、本学教授として、微生物学、分子生物学、生化学、疫学、栄養学の教育実務を行っている。微生物学領域及び生化学・分子生物学領域の研究成果が認められ、米国ウイソコンシン大学に文部省在外研究員として国費留学し、東京大学医科学研究所にも客員研究員として内地留学の経験がある。それらの研究実務経験に基づき、微生物学の講義を行う。

ナンバリングコード B2NRS-baxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762110E) 微生物学各論A Special Microbiology A	科目区分	時間割 後期前半金2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 baxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 藤井 豊	関連授業科目 微生物学総論、微生物学各論B 履修推奨科目 免疫学		
学習時間	講義90分 x 7.5回 + 自学自習(復習 60時間)		
授業の概要			
<p>医療従事者は、どの分野であっても感染症と関係せずに仕事をすることはできません。その中でも特に看護師は、直接患者さんに医療行為を行う機会が多い職業であるため、微生物に対する十分な知識と技術を持たなければ、治療や感染予防が出来ず、場合によっては自分自身が感染してしまう危険性もあります。微生物学各論Aでは、ヒトに感染症を起こす原因微生物である、細菌、真菌、原虫の特徴を理解し、それぞれの感染により起こる現象を勉強します。ウイルス学は各論Bで講義します。各論はいずれか一方の修得が進級要件ですが、看護師としていずれか一方を知っていれば良いという意味ではありません。両方とも学んで身につけてください。</p>			
授業の目的			
看護師として、他の医療従事者と誤解なく意思疎通をするために必要な微生物学の知識を習得する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の種類と、それぞれの性質及び特徴を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 2. 微生物に対する宿主の反応を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 3. 感染予防法を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 4. 細菌感染症の治療法を説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) <p>講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布して示します。</p>			
成績評価の方法と基準			
<p>期末試験により到達度を評価します。試験は記述式で、知識の丸暗記としてプリントの項目を箇条書きにしただけでは、合格点に達するのは困難です。講義内容を理解し、文章で解答できることを求めます。講義毎に提出するリアクションペーパーは、成績評価の対象とはしません。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>この授業は対面講義で行います。 コロナウイルス感染症の流行状況により、オンデマンド収録配信となる場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 様々な微生物 教科書7、8、9、10、11章 2 グラム陽性菌 7章、12章 3 グラム陰性菌 7章、12章 4 嫌気性菌、好気性菌 7章、12章 5 性行為感染症、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア 7章、12章 6 真菌学各論 9章、12章 7 原虫、蠕虫学各論 10章、11章、12章 8 期末試験とその解説 <p>【自学自習のためのアドバイス】 講義前の予習は義務づけていません。講義を受けてわかった所、わからなかった所を講義終了時に毎回自問し、わからなかった所はリアクションペーパーにて質問をしてください。その質問は、まとめて講義で説明する形で講義を進めて行きます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。復習を中心とした自主学習で講義を進めますので、各講義で4時間の復習を心がけてください。</p>			
教科書・参考書等			
<p>教科書 感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学 羊土社</p> <p>参考書 シンプル微生物学 南江堂 図説人体寄生虫学 南江堂</p>			
オフィスアワー 月曜日、火曜日、月・火曜日の振り替え講義日、午後4時10分～午後5時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
微生物学では、微生物の固有名詞などの専門用語がたくさん出てきます。まずは講義を聴いて耳から覚			

え、聞き取り間違いが無いか、プリントや教科書で確認してください。深く理解することを否定するつもりはありませんが、専門用語は浅く、広く、たくさん、正しく覚えることも必要です。菌名は、講義ではラテン語の学名も使いますが、カタカナで覚えて書ければ充分です。

教員の実務経験との関連

担当教員は大学院卒業以後20年以上にわたり、国立大助手、私立医大の准教授、本学教授として、微生物学、分子生物学、生化学、疫学、栄養学の教育実務を行っている。微生物学領域及び生化学・分子生物学領域の研究成果が認められ、米国ウイソコンシン大学に文部省在外研究員として国費留学し、東京大学医科学研究所にも客員研究員として内地留学の経験がある。それらの研究実務経験に基づき、微生物学の講義を行う。

ナンバリングコード B2NRS-baxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762120D) 微生物学各論B Special Microbiology B	科目区分	時間割 後期前半金3	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 baxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 藤井 豊	関連授業科目 微生物学総論、微生物学各論A、分子生物学 履修推奨科目 免疫学		
学習時間	講義90分 x 7.5回 + 自学自習(復習 60時間)		
授業の概要			
<p>微生物学各論Bでは、ウイルス学の講義をします。</p> <p>2020年初頭、新型コロナウイルスがアウトブレイクしました。それまでも、インフルエンザウイルス、エイズ、ノロウイルスによる食中毒、新しい抗ウイルス薬やワクチン、新型ウイルスの出現など、一般の人であっても毎日のようにウイルスに関するニュースを耳にするようになってきています。それは新たな問題の発生数が急速に増加しているからではなく、ウイルス学の進歩により、これまで存在すらわからずに目の前を通り過ぎていたことまで、人類が認識できるようになったという事実の裏返しでもあります。</p> <p>幾千年もの間、人類が微生物と闘いながら明らかにしてきた知見を、雑学の範疇も含めてお話しします。それら人類苦心の業績は、これから医療従事者として働く上で必要な基礎知識となります。入学時から学んできた、生化学、分子生物学、微生物学総論、各論Aの知識を総動員しながら聴いてください。各論はいずれか一方を修得すれば進級要件を満たします。しかし、看護師になるために、いずれか一方を学べば十分であるという意味ではありません。両方とも学んで身につけてください。</p>			
授業の目的			
看護師として、他の医療従事者と誤解なく意思疎通をするために必要な微生物学の知識を習得する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルスとは何かを説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 2. 様々なウイルス感染症について説明できる。(DPの「知識・理解」「言語運用能力」に対応) <p>講義毎の詳細な到達目標は、講義時にプリントを配布し示します。</p>			
成績評価の方法と基準			
<p>期末試験により到達度を評価する。</p> <p>対面講義時に提出するリアクションペーパーは、成績評価の対象とはしない。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>この授業は対面講義で行います。</p> <p>コロナウイルス感染症の流行状況により、オンデマンド収録配信となる場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ヘルペスウイルス 8章、12章 2 レトロウイルス 8章、12章 3 インフルエンザウイルス 8章、12章 4 小児の感染症 8章、12章 5 ウイルス性人獣共通感染症 8章、12章 6 新興・再興感染症 8章、12章 7 その他のウイルス感染症とプリオン病 8章、12章 8 期末試験とその解説 <p>【自学自習のためのアドバイス】 講義前の予習は義務づけていません。講義を受けてわかった所、わからなかった所を講義終了時に毎回自問し、わからなかった所はメールにて質問をしてください。その質問は、まとめて講義で説明する形で講義を進めて行きます。質問をした内容は、必ず自分でも調べて、次回講義を受けてください。復習を中心とした自主学習で講義を進めますので、各講義で4時間の復習を心がけてください。</p>			
教科書・参考書等			
教科書 感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学 羊土社			
オフィスアワー 月曜日、金曜日、月・金曜日の振り替え講義日、午後4時10分～午後5時			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
講義では、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。これは単なる出席用紙ではありません。自分で復習するために上手く利用してください。			
教員の実務経験との関連			
担当教員は大学院卒業以後20年以上にわたり、国立大助手、私立医大の准教授、本学教授として、微生物学、分子生物学、生化学、疫学、栄養学の教育実務を行っている。微生物学領域及び生化学・分子生物学領域の研究成果が認められ、米国ウイスコンシン大学に文部省在外研究員として国費留学し、東京大学医科学研究所にも客員研究員			

として内地留学の経験がある。それらの研究実務経験に基づき、微生物学の講義を行う。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762291) 疾病論 I Pathology, Diagnosis and Therapy I	科目区分	時間割 前期水1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 塩田 敦子, 西山 佳宏, 岡野 圭一, 三宅 啓介, 土橋 浩章, 白神 豪太郎, 門脇 則光, 辻 晃仁, 谷 丈二, 白神 豪太郎, 村尾 孝児, 南野 哲男, 黒田 泰弘, 坂東 修二, 岸野 貴賢, 浅野 栄 介, 祖父江 理, 阪本 浩助, 金正 貴美	関連授業科目 形態・生理学A(生命維持の基本構造)、形態・生理学B(環境適応と行動) 成人看護学概論 成人急性期・リハビリテーション期援助論 成人慢性期・終末期援助論 成人看護技術論 看護実践技術論(フィジカル等) 成人急性期・リハビリテーション期看護実習 成人慢性期・終末期看護実習		
	履修推奨科目 形態・生理学AB 看護薬理学 免疫学		
学習時間	講義90分×17回+自学学習(準備学習15時間+事後学習30時間)		
授業の概要			
看護とは、個人・集団の健康的な生活リズムを作ることを目標に、健康上のあらゆる問題に対して援助を行うことであり、健康の増進、維持、回復に関する人間の反応を診断し、かつそれに対処し、個人ないし集団が自立していくことを援助することにある。看護の役割を果たすためには、まず人間の生命過程、発達過程を理解することから始まり、人間の生命、健康に影響を与えるその環境を認識し、健康とはなにか、人間が病むとはどういうことかについて講義する。そして対象となる人間がもっとも必要としている援助の内容が理解でき、かつ実践できるだけの知識と技術について講義する。医学上、病気の成り立ちや仕組みについての知識を講義する。			
授業の目的			
人間の健康上の問題の反応を診断し処理するという看護の本来の役割を果たすためには、人間の構造と機能を理解することに始まり、各生体器官またはその機能の障害により発症する成人の代表的な疾患の病態・症状・診断技能・治療について理解し、看護の実践の場において看護上の問題点を認識する。また、疾患を理解することにより生活習慣病、難病、がん、感染症等の慢性病の日常生活維持に関する生活支援を行うための知識を深める。			
到達目標			
1. 成人病の診断法、基本的検査、治療法について説明できる。知識・理解(「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 外科的感染症、手術の侵襲・生体反応の病態について説明できる。知識・理解(「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. がん発症のメカニズム、病態、生体反応の病態について説明できる。知識・理解(「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 麻酔学、救急医学、外科治療学、放射線医学の概要を説明できる。知識・理解(「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 5. 呼吸器系、循環器系、脳神経系、血液・造血器系、腎・泌尿器系、消化器系、内分泌・代謝系、運動器系、脳・神経系、膠原病/アレルギー系における主要な成人病の概念、疫学、病態、臨床症状、検査所見、治療、経過について記述できる。問題解決・課題探求能力(「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
復習ノート作成20%、筆記試験80%で評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1. 授業ガイダンス (塩田、金正) 授業目的、到達目標、授業計画および成人疾病論と看護			
2. 「放射線医学」(西山) 1) 画像診断学、核医学 2) 放射線障害とその防護			
3. 「外科学概論、肝胆膵系」(岡野) 外科学概論、肝・胆・膵疾患の検査と外科的治療			
4. 「脳・神経系」(三宅) 脳出血、脳腫瘍、等			
5. 「指定難病(血管・筋炎など)」(土橋) 指定難病(血管・筋炎など)			

6. 「血液・造血器系」(門脇)
造血幹細胞と血球分化、貧血、造血器腫瘍、等
7. 「臨床腫瘍学Ⅰ」(辻)
腫瘍の概念と定義、発がん機序
8. 「消化器系Ⅰ」(谷)
肝炎、肝硬変、肝臓癌、膵炎、胆石症、等
9. 「麻酔学」(白神)
麻酔薬と手術
10. 「内分泌・代謝系」(村尾)
糖尿病、高脂血症、等
11. 「循環器系Ⅰ」(南野)
高血圧症、心不全、不整脈、等
12. 「救急医学」(黒田)
救急医療、外傷、中毒、熱傷、熱中症、ショックなど
13. 「呼吸器疾患全般」(坂東)
呼吸器疾患全般
14. (1). 「消化器系Ⅱ」(岸野)
胃癌、食道癌、胃・食道手術、等
14. (2). 「消化器系Ⅲ」(浅野)
大腸癌、直腸癌と人工肛門造設術、等
15. 「腎・泌尿器系」(祖父江)
腎臓病と人工透析、等
16. 「心臓血管外科」(阪本)
虚血性心疾患と心臓手術、等
17. 「運動器系」(整形外科学医師)
運動器疾患 等
18. 定期試験

【自学学習のためのアドバイス】

講義について教科書・参考書を用いて該当部分を、熟読し準備する。(15時間)
講義後に自己ノートを作成し復習として整理する。(15時間)

【講義について】

講義は基本対面で行われる。

1回目は授業ガイダンスであり、14回目(1)(2)の授業は、45分ずつとなる。

教科書・参考書等

教科書

浅野嘉延. 看護のための臨床病態学, 南山堂, 8800円, 2020

参考文献

- 1) 浅野嘉延. 看護師国試対策START BOOK 解剖生理と疾病の特性 第2版, 南山堂, 2018
- 2) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 第3・4章, 医学書院, 2017
- 3) 疾病の成り立ち(1): 病態生理学、ナーシング・グラフィカ、第4版、2014
- 4) 系統看護学講座 専門科目 成人看護学(2?14)、医学書院、2003
- 5) わかりやすい内科学 第2版、文光堂、2001
- 6) 疾患別看護過程セミナー

オフィスアワー できる限り講義終了後直接講師の先生に質問してください。
それ以外では火曜日11時~12時(塩田) 水曜日16時10分~17時(金正)

直接部屋にきていただくことも可能ですが、不在のこともあるため可能であればアポイントメントをお願いします。webclass上でのやり取りも可能です。看護学科教育研究棟2階 塩田研究室 3階 金正研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

学習目標を達成するためには講義内容を予習・復習を通じて確実に把握し、単なる記憶としてではなく、論理的に裏付けされた知識として習得されねばならない。疾病に対する基本的な考え方を理解し、これらの基礎的な知識を看護の問題として臨床の場に応用していく柔軟さと感性を養うことが重要である。また講義中の私語、居眠り、スマートフォンの使用は一切禁止する。

教員の実務経験との関連

臨床において最先端でトップレベルの診療を行う医師が講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bcaM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762371) 疾病論Ⅱ Pathology, Diagnosis and Therapy Ⅱ	科目区分	時間割 前期前半木4	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 山本 美輪, 中村 雄作, 張 性洙, 松 岡 祐貴, 逢坂 理恵, 星川 広史	関連授業科目 疾病論Ⅰ 老年看護学概論、老年保健対象論 履修推奨科目 機能再生医療学		
学習時間	講義90分 × 8回 + 自学自習(事前学習8時間 事後学習8時間)		
授業の概要			
<p>ニュートンによる老年看護の最初の定義(1950)では、「老年病学とは、高齢者における病的状態の治療とケアを扱う医学ならびに看護学の一分野である。これは健康の促進と疾病の予防も含まれる」と述べている。医学や看護の臨床の現場では単に疾病の治療やケアのみならず、日常生活動作や“生活の質”の向上を視野に入れた包括的な医療が要求されている。さらに老年看護と密接に関連する問題として認知症や老年精神病理学、老年社会学、生と死の問題などが挙げられる。このように老年看護学は、概念的にはかなり広範な内容を包含しているといえる。本講義では臨床老年看護学を学ぶ出発点として、高齢者の疾病について理解を深め、現在行われている治療や患者の辿る経過などを知り、看護へとつなげる学習が行えるようにする。</p>			
授業の目的			
<p>老年看護において看護が本来の目的を果たすためには、老年学の立場に立った加齢に伴う身体の変化をはじめ、高齢者特有の病態や症状を理解し、高齢者に特徴的な疾患に関する知識を習得し、高齢者に起こりうる身体的変化の異常に関して知識を深める。また、高齢者の治療を行う場合の注意点や起こりやすい副作用、合併症についても学習する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体の変化(老化)や健康問題について説明できる(DPの「知識・理解」、「言語運用能力」に対応)。 2. 記憶・認知機能障害、転倒、失禁など高齢者に特有な病態や、症状が非定型であることなど老年病の特徴について説明できる(DPの「知識・理解」、「言語運用能力」に対応)。 3. 高齢者が罹患しやすい代表的な疾病について、疫学・病理・症候・診断・治療・経過が説明できる(DPの「知識・理解」、「言語運用能力」に対応)。 4. 高齢者心理学、老年社会学について述べる事ができる(DPの「問題解決・課題探求能力」言語運用能力)に対応)。 5. 高齢者の治療を行う場合の起こりやすい副作用、合併症について述べる事ができる(DPの「知識・理解」、「言語運用能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
2年次前期末、講義終了時に筆記試験を行う。講義の出欠の状態も評価の対象とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は遠隔等にて実施予定です。			
<p>第1回 前立腺肥大・前立腺癌 疫学・病理・症候・診断・治療・経過 (松岡先生) 第2回 頭頸部癌等 疫学・病理・症候・診断・治療・経過 (星川先生) 第3回 耳鼻咽喉頭疾患－メニエール病、副鼻腔炎 疫学・病理・症候・診断・治療・経過 (星川先生) 第4回 老年外科 外科療法の適応、手術成績、術後の問題点 (張先生) 第5回 緑内障・網膜前膜・ 疫学・病理・症候・診断・治療・経過・白内障・黄斑円孔等 (逢坂先生)</p> <p>第6回、7回 認知症・その他 疫学・病理・症候・診断・治療・経過 (非常勤 中村先生) 第8回 老化と老年病(1) 老化の定義、加齢の過程、老化による身体的変化 老化と老年病(2) 高齢者の特性、老年病、診断上の問題、治療上の問題・薬物投与量 (非常勤 峠先生)</p>			
<p>学習目標を達成するためには講義内容を予習・復習を通じて確実に把握し、単なる記憶としてではなく、論理的に裏付けされた知識として習得されねばならない。疾病に対する基本的な考え方を理解し、これらの基礎的な知識を踏まえて看護の臨床の場に応用していく柔軟さと感性を養うことが重要である。</p>			
【自学実習に関するアドバイス】			
1. 学生は、次の授業までに前回の授業内容について、参考書等を用いて復習する。			

2. 授業と関連する事項について、インターネットなどにより文献検索を行う。
3. 課題に対するレポートの内容については教員の指導を受ける。

教科書・参考書等

系統看護学講座 専門2 1 老年看護病態・疾病論、医学書院、2014
ナースの内科学 第6版、奈良信雄 中外医学社、2013
ナースの外科学 第4版、磯野可一 中外医学社、2013
ベッドサイドの老年診断学 第1版、萩原俊男 南山堂、1994
老年医学への招待 中村重信、三森康世 南山堂 2010

オフィスアワー 木曜日 午後3-5時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中 飲食、私語禁止、携帯電話使用禁止

教員の実務経験との関連

講師の先生は香川大学医学部附属病院等での十分な実務経験があります。長年にわたる専門分野の実務経験をもとに、全ての講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bxxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762421) 疾病論Ⅲ Pathology, Diagnosis and TherapyⅢ	科目区分	時間割 前期前半木2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bxxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 日下 隆, 岩瀬 孝志, 小西 行彦, 小 谷野 耕佑, 近藤 健夫, 谷本 公重	関連授業科目 小児看護学概論、小児保健対象論、小児援助論		
学習時間	履修推奨科目		
講義90分 × 8回 + 試験 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要			
<p>小児科学は、胎生期から新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期までの小児期全体を扱う。病気に罹患した小児だけを対象にするのではなく、疾病予防等により国の将来を担う心身ともに健全な成人を育成することを目的としている。また小児期には、各臓器や精神の成長・発達の時期に一度それが障害されると一生を決定づける非可逆的な変化をもたらすcritical period (臨界期) があり、小児の疾病を取り扱う時の基本となっている。成長とは細胞の増殖を発達機能の分化をいい、あわせて発育という。このため、おのおのの時期の生理的、心理的等の発育を理解したうえで、疾病罹患した小児に接することが重要である。小児疾患と接する際には、小児のおかれている環境をよく理解して、将来の発育にどのような影響をおよぼすかについても考えなければならない。さらに、疾患の予防方法の有無などについても知ることが重要である。講義においては、出生前小児科学を初めとして発達の変化を時間軸として、感染症、神経、腎、内分泌、呼吸器、循環器、血液腫瘍、免疫アレルギー、消化器疾患などの病態生理、臨床症状、治療を中心に小児疾病を解説する。</p>			
授業の目的			
<p>近年、社会環境の変化、なかでも出生率低下や少子化など小児を取り巻く社会構造・環境の変化に伴い小児疾病構造にも大きな変化が現れており、特に母乳保育を軸とする母子相互作用の意義を理解する必要がある。この授業では、代表的な小児疾患の特徴を理解するとともに、その対応策を提示できるようにする。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 胎生期より新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各時期の正常な成長、発達および生理を理解できる。 2. 母子相互作用、予防小児科 (事故、生活習慣病、心身症)、予防接種、乳児健診、学校保健など社会小児科学を理解できる。 3. 小児に比較的良好に見られる疾病の病態生理、臨床症状、治療を理解できる。 (DP:b「知識・理解」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<p>ユニット終了時に試験を行う (一般目標・行動目標及び発育について再確認すること)。 場合により、レポートの評価を行う。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業計画】 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>第1回小児疾病論・総論「育児学の原点」 第2回 ・各論「成長・発達および生理、栄養および栄養障害代謝性疾患、内分泌疾患」 第3回 ・各論「社会小児科学、出生前小児科学、先天性代謝異常、新生児疾患」 第4回 ・各論「循環器疾患、小児保健、予防医学、母子手帳」 第5回 ・各論「生体防御総論 (免疫・アレルギー)、アレルギー性疾患、自己免疫疾患、感染症」 第6回 ・各論「血液および造血器疾患、腫瘍、腎・泌尿器疾患」 第7回 ・各論「神経系疾患、小児神経症」 第8回 ・各論「呼吸器疾患、消化器疾患」 第9回 ・試験</p> <p>【自学自習へのアドバイス】 教科書は特に指定しないが、講義資料は各回担当教員が配布する。下記にある参考書を適宜利用し、知識の定着に務めること。また、講義中に生じた疑問は、積極的に質問すること。 (自学自習は各回3時間とし、6時間を試験のためにあてること)</p>			

教科書・参考書等

- ・原 寿郎、編. 新生児・小児疾患. 第2版、中山書店、2005年
(看護のための最新医学講座 14)
- ・豊原清臣、編. 開業医の外来小児科学. 改訂6版、南山堂、2013年
- ・小川雄之亮、編. 新生児学. 第2版、メディカ出版、2000年
- ・飯沼一字、他、編. 小児科学・新生児学テキスト. 第5版、診断と治療社、2007年
- ・衛藤 義勝監修. ネルソン小児科学. 原著第19版、エルゼビア・ジャパン、2015年
原タイトル：Nelson textbook of pediatrics.

オフィスアワー 医学部小児科学講座**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

講義時間が限られているため、講義への参加は必須で、関連した事項を教科書や図書館などを利用して復習や自己学習を行うことが重要。

教員の実務経験との関連

各講義担当者は、小児科医として、大学病院及び香川県内の関連病院で診療にあたっている。また、研究にもあたっており、その経験をもとに小児の成育支援と疾病、治療について講義を行う。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762631) 疾病論IV Pathology, Diagnosis and TherapyIV	科目区分	時間割 前期前半火5	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 中村 祐, 安藤 延男, 渡邊 久美	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分 × 8回 + 自主学习(準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>精神障害者に対する医療・看護に際しては、“疾病を抱えた人間”と、“疾病そのもの”の両面を総合的に理解することが重要である。精神科看護においては、精神看護概念の理解、心の発達と心の健康、精神疾患についての理解、精神障害者とその家族への援助とその技術の習得、精神障害者の社会復帰についての仕組みと地域精神福祉保健についての理解などが必要とされる。本科目では、精神疾患についての知識の習得を主たる目標とする。</p> <p>授業構成は序論、診断学、症候学の総論から始まる。続いて代表的精神疾患である統合失調症、気分障害についての講義を行う。さらに物質依存、認知症などの器質性疾患、神経症、心身症などの疾患について講義する。また、近年重要な問題になっている児童青年期、老年期領域の諸問題、リエゾン精神医学について述べ、最後に精神科治療学について述べる。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 適切な精神科看護の実践を行うために、精神科疾患についての知識を習得する。 精神障害者およびその家族の援助を行うために、精神障害者への理解を深め、人権尊重の態度を身につけ、地域精神保健福祉の仕組みを理解する。 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 精神医学の歴史とその特徴について理解する(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 精神医学的状態像の捉え方を理解する(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 精神疾患の概念や精神科疾患の分類についての知識を習得する(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」および「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 代表的精神障害としての統合失調症、気分障害についての知識を習得する(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 物質依存、認知症などの器質性疾患、神経症、心身症について理解する(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 児童精神医学、老年期精神医学の特徴を理解し、それぞれの代表的精神疾患についての知識を習得する(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」および「地域に関する関心と理解力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
<ol style="list-style-type: none"> 講義終了後に筆記試験を行う 講義の出欠や勉学態度を重視する 			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
総論	1 序論・診断学 歴史、特徴	精神医学的面接、診断	中村
	2 精神科症候学	精神医学的状態像、疾病概念、分類	中村
各論	3 統合失調症	統合失調症	安藤
	4 気分障害	躁うつ病、うつ病	
	5 器質性精神障害	症状精神病、認知症、てんかん	
	6 神経症、人格障害	不安障害、解離性障害、人格障害	
	7 児童思春期精神医学	発達障害、精神遅滞、摂食障害	
	8 物質関連障害	アルコール依存症、薬物乱用	
	9 精神保健福祉	精神医療の歴史、精神保健福祉法	
【自学自習のためのアドバイス】			
準備学習としては、授業に対応する項目について教科書・参考書を読んで履修すべき点を整理しておく。(各回3時間)			
事後学習としては、項目と教科書・参考書を参考に小レポートを作成する。なお、授業に関連した項目をインターネット等で検索し、適宜整理をはかる。(各回3時間)			
教科書・参考書等			
STEP精神科：高橋茂樹、岸本年史(著)、海馬書房			
オフィスアワー 中村 祐 後期 火曜日 15時～16時 nakamura.yu@kagawa-u.ac.jp			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義内容を確実に把握すること。さらに深い理解には、図書館などに備えている関連図書を参考にするこ
と。

教員の実務経験との関連

ナンバリングコード B2NRS-bdxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762481) 疾病論V Pathology, Diagnosis and Therapy V	科目区分	時間割 後期前半金4	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bdxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 塩田 敦子, 金西 賢治, 川田 紀美子	関連授業科目 母性看護学概論, 母性保健対象論, 母性援助論	履修推奨科目 母性看護学概論, 母性保健対象論, 母性援助論	
学習時間	講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>女性はそのライフサイクルのなかで、胎生期における性の分化にはじまり、幼年期における母性の芽生え、思春期における女性としての心と身体の発育・発達、性成熟期における性と生殖および家族のケア、そして更年期・老年期にかけて加齢と老化など、内分泌的変化を基盤として心と身体の様々な変化に遭遇する。その間、遺伝的要因や環境、家族や社会との関連で女性特有の様々な疾患を生じうる。これら女性特有の疾患について、その背景・病態を理解し、予防および対処するための方法について学習する。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクル各期の特有な疾患とその背景を理解する 2. 妊娠期の診断から妊婦健診, 正常分娩, 正常産褥の流れと基本的知識を理解する 3. 妊娠・分娩・産褥期の主な異常について, 概念と基本的な管理方法を理解する 4. 周産期にある女性のメンタルヘルスの特徴について理解する 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性のライフサイクル各期の特有な疾患について, 病態生理および予防と医学的対応が説明できる 2. 妊娠期・分娩期・産褥期の正常な経過について説明できる 3. 妊娠期・分娩期・産褥期に起こる主な異常について, 危険性と管理方法を説明できる 4. 妊娠期・分娩期・産褥期の異常の予防と母子の看護援助について説明できる 5. 周産期にある女性のメンタルヘルスの特徴について説明できる (以上、DPの「知識・理解」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
ミニレポートまたは小テスト (10%) 出席状況 (5%) 最終試験 (85%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面形式にて実施予定です。			
第1回	女性の性機能と解剖 (塩田) 周産期・婦人科医学概論 女性の性機能 (性分化、排卵、受精、着床) など 婦人科診療における検査 など		
第2回	女性のライフサイクルと疾病 (塩田) 思春期 早発思春期 思春期摂食障害 など 成熟期 月経不順, 月経困難症, 月経前症候群 など 更年期 更年期障害 骨粗しょう症, 脂質異常症 老年期など		
第3回	正常妊娠・分娩・産褥 (塩田) 妊娠の診断, 予定日確認, 妊娠の生理的变化, 胎児胎盤系の生理 正常妊娠の管理と検査 リプロダクションに関わる検査 超音波、胎児心拍数陣痛図の評価 正常分娩機転 正常産褥の経過		
第4回	異常妊娠, 合併症妊娠 (1) (塩田) 妊娠悪阻の管理, 異所性妊娠の診断と治療 流産・早産の原因と切迫流早産の治療 過期妊娠・過期産の取扱と管理		
第5回	異常妊娠, 合併症妊娠 (2) (塩田) 多胎妊娠のリスクと双胎間輸血症候群の診断・治療 妊娠高血圧症候群の診断と管理 妊娠糖尿病の原因とリスク 母子感染 血液型不適合 など		

<p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p>	<p>羊水過少・過多症の原因 前置胎盤・低置胎盤のリスク など</p> <p>異常分娩・産褥（塩田） 常位胎盤早期剥離の診断と治療 その他付属物の異常 胎児発育不全の原因と管理 胎児機能不全の管理 分娩進行不良の評価と治療 産後の過多出血の判断と対応 産褥熱の定義と治療 産褥乳腺炎の症状と治療 産褥期精神障害の診断と管理</p> <p>不妊症，生殖医療 乳房の疾患 など（塩田）</p> <p>女性生殖器疾患（金西） 子宮、卵巣の良性・悪性腫瘍 など</p>
<p>【授業および学習の方法】 教科書および毎回配布する資料で予習・復習し，講義に臨む</p> <p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <p>第1回 女性の性周期と性功能についてまとめておく（3時間） 第2回 女性のライフサイクルにおける特徴的な疾患についてまとめる（6時間） 第3回 正常な妊娠・分娩・産褥経過の基礎的な知識についてまとめる（6時間） 第4回～6回 異常妊娠・分娩・産褥の特徴的な疾患について、病態生理と治療についてまとめる（6時間） 第7回 生殖補助医療の基礎的知識についてまとめる（3時間） 第8回 女性生殖器の疾患についてまとめる（6時間）</p>	
<p>教科書・参考書等</p> <p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> MCメディア出版 ネーシング・グラフィカEX 疾患と看護 女性生殖器 2600円＋税 メディックメディア 病気がみえる 産科 第4版 3960円税込 医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 3000円＋税 <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 岡村州博：看護のための最新医学講座第15巻 産科疾患 第2版，中山書店，2005. 神崎秀陽：看護のための最新医学講座第16巻 婦人科疾患 第2版，中山書店，2006. 井上裕美 他監修：病気が見えるVol110ー産科 第4版，メディックメ 	
<p>オフィスアワー 毎回授業終了後～18：30 直接部屋にきていただくことも可能ですが、不在のこともあるため可能であればポイントメントをお願いします。webclass上でのやり取りも可能です。看護学科教育研究棟2階塩田研究室</p>	
<p>履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業は講義で行うが，グループ学習をとり入れることもある。</p>	
<p>教員の実務経験との関連 産婦人科医師または助産師の資格を有し，大学病院等の臨床における勤務経験をもつ。長年の妊産褥婦及び新生児の診療および実務経験をもとに講義を行う。</p>	

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762052) 看護薬理学 Nursing Pharmacology	科目区分	時間割 後期月4	対象年次及び学科 2~2 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 加藤 育子	関連授業科目 疾病論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習			
授業の概要			
個々の患者に薬物療法が最も有効かつ安全に行われるよう、看護師は医師・薬剤師と協力して患者の治療、援助を行う必要がある。そのために体の機能や疾患の成り立ちを理解した上で、各種薬物の適切な使用法について体系的に学ぶ。			
授業の目的			
薬による治療が有効かつ安全に行われるよう、さらに患者が安心して積極的に治療を受けられるよう援助するために、人体の生理機能とその異常を理解した上で、薬および薬による治療の基礎知識を身につける。さらに、薬物の有害作用を認識し、薬物の薬効と有害作用を総合的に評価でき、将来臨床現場において早期に有害作用発見ができるような基礎学力を身につける。			
到達目標			
1. 薬物の性質、作用機序、生体内動態、血中薬物濃度および薬効に影響を及ぼす要因について説明し、薬物療法の意義を述べることができる。 2. 将来医療業務を行なう者として特に有害作用、および薬物依存を理解し、安全性を念頭において薬物療法を評価できるようになる。 3. 薬物を生体に与える際の剤形と適用方法について理解できる。 4. 医薬品の分類、名称、法令、処方箋、調剤、薬品の取り扱い方について具体的に述べるができる。 5. 各種疾患に対して使用される薬物の薬効と副作用を体系的に述べるができる。 6. 薬物療法に伴う薬害と医療倫理について常に配慮ができる。 (全て DP の「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応、2. 4. は「倫理観・社会的責任」にも対応)			
成績評価の方法と基準			
基本的に期末テストで評価を行う。 講義内での発表や、小テスト、レポートの内容を加味して総合評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行います。状況によってはオンラインに変更する可能性があります。			
第1～3回 総論 第1回 薬の性質等 第2回 薬理作用の基本、薬の投与経路 第3回 薬の有害作用、管理等			
第4～15回 各論 順序が変わることがあります。 第4回 末梢神経作用薬1 第5回 末梢神経作用薬2 第6回 中枢神経作用薬1 第7回 中枢神経作用薬2 第8回 心臓、血管作用薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に関する薬1 第9回 心臓、血管作用薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に関する薬2 第10回 心臓、血管作用薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に関する薬3 第11回 抗炎症薬、抗アレルギー薬 免疫治療薬 第12回 呼吸器系作用薬 第13回 消化器系作用薬 第14回 物質代謝作用薬、糖尿病治療薬、ホルモン関係の薬 第15回 抗がん薬			
【自学自習に関するアドバイス】			
授業と関連する事項について、事前にインターネットなどにより情報収集を行う。また、次の授業までに前回の授業内容について、参考書等を用いて復習する。(各回4時間) (自己学習は各回4時間) なお、抗感染症薬は2年時必修科目の微生物学で学習するため、当科目の履修範囲外とする。			

教科書・参考書等**教科書**

わかりやすい薬理学 第4版 安原一、小口 勝司 編 (ヌーヴェルヒロカワ、2020)

オフィスアワー 毎週月曜日午後

直接部屋にきていただくことも可能ですが、不在のこともあるため可能であれば事前にアポイントメントをお願いします。webclass上でのやり取りも可能です。

看護学科教育研究棟 2階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

質問がある場合には、対面もしくはwebclassやメールにて受け付けます。

kato. ikuko@kagawa-u. ac. jp

教員の実務経験との関連

加藤は医師として臨床経験を積んできており、専門医の資格も有する。臨床現場での実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード:762162) 看護と法規 Law and Regulation in Nursing	科目区分	時間割 後期前半水3	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 木下 博之, 馬場 基尚, 岡崎 廣子	関連授業科目 看護倫理		
	履修推奨科目 社会福祉・社会保障論		
学習時間	講義90分 ×8回 +自学自習 (準備学習15時間と事後学習 15時間)		
授業の概要			
医事法規の中で看護師に課されている義務の内容及び法規全体の中での看護法制の意味、周辺法規について講義する。			
授業の目的			
医療現場で看護の業務を果たすためには、業務に関連する法律の知識を習得し、また医療現場での医療事故の実態を理解し、看護実践の場において重要な事柄を認識する。			
到達目標			
1. 保健師助産師看護師法の重要な項目を説明することができる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
2. 医師法に規定されている医師の義務を説明することができる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
3. 向精神薬、覚醒剤及び麻薬等の取り扱いと保管について説明することができる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
4. 医療事故の防止策を具体的に述べるすることができる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
5. 看護業務における注意義務や違法行為について説明することができる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法と基準			
課題と提出したレポート、及び、期末試験により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業計画			
この授業は、社会情勢により、ハイブリッドにて実施予定です。			
第1～2回……法規の概念：医療法とは、医療行為とは、看護師の業務と法的責任			
第3～6回……医療上の法的問題：医療事故・事件の判例とその解説(1)、(2)			
医療関係法規：医師法、死体解剖保存法、麻薬及び向精神薬取締法 覚醒剤取締法、毒物及び劇物取締法、薬事法 救急救命士法等について			
第7～8回……法的問題と責任：看護上の法的問題、業務上のミスによる責任及び医療安全			
医療事故：医療事故の実情と防止策			
【自学実習に関するアドバイス】			
第1回～第8回……毎回事前にテキストの関係箇所を通読して授業に参加する。(各回1.5～3時間)			
併せて、前回の学習内容についてテキストでの確認をする。(各回1.5～3時間)			
課題についての資料収集を行う。(各回1.5～3時間)			
教科書・参考書等			
杉本正子ほか編集：看護職のための関係法規、ヌーベルヒロカワ			
オフィスアワー 木曜日14:00～15:00			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
自己の考えを述べられるように事前学習をして準備しておく。			

教員の実務経験との関連

医療事故などの裁判経験のある弁護士による実際に則した講義，検死解剖など経験豊富な医師，および医療安全管理部ジェネラルリスクマネージャーによる看護上の法的責任などに関する講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762182) 社会福祉・社会保障論 Theory of Social Welfare and Social Security	科目区分	時間割 前期木3	対象年次及び学科 2~2 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 藤井 豊, 岡崎 昌枝	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分 × 15回 + 自習学習 (準備学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要			
<p>社会保険・社会福祉に関する法制度などについての基礎的な知識を得ることを目的としている。そのうえで専門職・支援方法、などと連携協働を理解し、横断的に支援をする必要性や、複雑多様化した支援を行う場合の基本的な援助方法について教える。</p> <p>これらの学習をとおして、生活者の生活問題に対応し、看護の専門職者として、社会福祉・社会保障制度の現状をよりよい方向に発展させていくための姿勢を培う。</p>			
授業の目的			
<p>社会保障・社会福祉に関する法制度、専門職、支援方法についての基礎的な知識を得るために、社会保障・社会福祉の理念、変遷を知り、現在の問題として認識できるようになる。福祉専門職と関連職種それぞれの業務から看護職の役割を位置づけることができる。各福祉に関する法制度を学び、現在起きている問題と権利を学び現在起きている問題と権利を守るための施策を理解することができる。福祉的な支援が必要な方への支援方法を身につける。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の歴史的経過および基本的制度の枠組みを説明できる。 2. 社会福祉の理念、社会福祉の歴史と人々の福祉ニーズの変化を説明できる。 3. 社会保険の目的・施策、制度を説明できる。 4. 社会福祉関連法の目的・施策、制度を説明できる。 5. 権利擁護に関する背景と制度を理解できる。 6. 社会福祉実践の基本となる援助技術について説明でき、社会資源を活用した支援を考えることができる。 <p>全て DP の「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)、「問題解決・課題探求能力」(21 世紀社会の諸課題に対する探求能力)、「倫理観・社会的責任」(市民としての責任感と倫理観)に対応</p>			
成績評価の方法と基準			
ミニレポート、受講態度・出席状況及びテストを実施し総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<p>第1回 社会福祉の理念 第2回 社会福祉の変遷 第3回 社会保険(年金制度・医療保険制度)に関する知識 第4回 社会保険(雇用保険・労働災害保険他)に関する知識 第5回 社会福祉法(福祉計画・地域福祉) 第6回 ひとり親・児童に関する制度と支援 第7回 障害者(児)に関する制度と支援 第8回 高齢者に関する制度と支援 第9回 医療保健に関する(制度と支援 第10回 生活困窮者に関する制度と支援 第11回 社会福祉専門職と社会資源 第12回 権利擁護(虐待・成年後見制度等) 第13回 相談援助の方法 第14回 地域支援を含む相談援助の方法 第15回 まとめ(連携と協働)</p>			
【自学自習に関するアドバイス】			
<p>療養者は、医療・福祉制度を利用して療養しています。療養者の生活支援のために、どのような制度が利用可能であるのかを考えることが求められます。社会福祉・社会保障制度に関心を持ち、制度を理解した上で、看護活動を行うことが療養者へのよりよい支援になります。そのため、授業後の自己課題には、積極的に自分の意見を述べるように資料や参考書を読んでおくこと。(各回4時間)</p>			

履修時点では必要のない知識のように感じるかもしれませんが、自分自身のためになり、かつ実際に提供されている看護を理解するために必要な知識です。実践的知識を深めていく姿勢が必要です。

教科書・参考書等

教科書：なし

参考書：

棕野美智子他；はじめての社会保障、有斐閣アルマ

福田素生 他；系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度【3】社会福祉、医学書院

社会福祉士養成講座編集委員会；「新・社会福祉士養成講座 社会保障12」

オフィスアワー 講義終了後。わからないことはWebクラス及び講義終了後に確認すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

レジメを配布する。

教員の実務経験との関連

社会福祉法人救護施設に勤務し、生活に困窮すかつ障害（身体・知的・精神）を有する利用者の支援を担当。その後、社会福祉士・介護福祉士の養成を短期大学で行った。その際には地域で暮らす高齢者の研究（主に坂出市）、障害者（障害）福祉計画策定委員長（宇多津町）、専門職後見人として権利擁護を行うなど、いままでの実務経験に基づいて、社会福祉全般、福祉的支援が必要な方への支援方法などについて実務的な講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-cabM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762220) 基礎看護方法論 Methodology of Fundamental Nursing	科目区分	時間割 前期後半木1~2	対象年次及び学科 2~ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 cabM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 前川 泰子, 武智 尚子, 前田 智徳	関連授業科目 看護理論 履修推奨科目		
学習時間	講義・演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習40時間 + 事後学習 20時間)		
授業の概要			
看護過程の展開に先立ち、看護するために必要な対象のみつめ方、とらえ方、人間の一生と健康現象、ライフサイクルにおける人間の作られ方、各時期の生活する力などについて看護の視点から講義する。その後、看護実践の基礎となる看護過程展開の技術について、事例を用いて、講義とグループワーク(課題発表、成果発表を含む)により、看護過程の各ステップの展開方法について指導する。			
授業の目的			
看護するために必要な対象のみつめ方、とらえ方について理解を深め、対象へのアプローチの方法および看護観から表現技術への実践的方法論を身につける。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概念を説明することができる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 看護過程を構成する要素を述べるすることができる。(DPの「知識・理解」に対応) 3. 事例を用いて、事実を情報化して収集することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 事例を用いて、看護問題を明確化して記述することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 事例を用いて、看護計画立案、実施(ロールプレイ)、評価することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. コミュニケーション技術を活用して、討議の進め方や、リーダーやメンバーの役割を果たし参加することができる。(DPの「言語運用能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
・期末テスト(特に到達目標1, 2に対応)、個人レポート(特に到達目標3, 4, 5に対応)、グループ演習参加態度と参加記録、課題発表(特に到達目標6に対応)をもとに評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
この授業はハイブリッドにて実施予定です。			
第1回 看護過程について ゴードンの機能的健康パターン 第2回 【事例1】 患者情報収集・情報整理 第3回・第4回 【事例1】 アセスメント 第5回・第6回 【事例1】 全体関連図, 看護問題抽出 第7回・第8回 【事例1】 看護計画立案, 看護実践, 評価 第9回・第10回 【事例2】 情報収集・情報整理, アセスメント 第11回・第12回 【事例2】 全体関連図, 看護問題抽出 第13回・第14回 【事例2】 看護計画立案, 看護実践, 評価 第15回 発表・まとめ 筆記テスト			
【授業及び学習の方法】			
看護過程の各ステップごとに講義し、グループワークでディスカッションを行いながら、グループ課題を作成していきます。自己学習課題(ワークシート)には、講義で学んだ内容、グループワークで得た内容を追加、修正し、看護過程の展開を記述していきます。各ステップごとに、自己学習課題の実施状況を確認します。(グループ学習が出来ない場合は自己学習)			
【自学自習のためのアドバイス】			
第1回 看護理論で学習した看護過程について、ゴードンの機能的健康パターンの各カテゴリーに含まれる内容を教科書・参考書を用いて復習する。(4時間) 第2回~第14回 授業毎に課題を提示する。次回の授業までに、アセスメントに必要な知識は調べ、課題を作成する。(各4時間×14回 56時間)			

教科書・参考書等

看護理論で使用した教科書・資料類全て

教科書

- ・石川ふみよ著, 実習記録・看護計画の解体新書 (Nursing Canvas Book 10), 学研, 2016.
- ・茂野 香おる著, 基礎看護学[2] 基礎看護技術I 第17版 (系統看護学講座 専門分野), 医学書院, 2019.

参考書

- ・井上智子著, 病期・病態・重症度からみた 疾患別看護過程 +病態関連図 第3版, 医学書院, 2016.
- ・井上智子著, 緊急度・重症度からみた 症状別看護過程+病態関連図 第3版,

オフィスアワー 木曜日：12時00分～13時00分：看護学科棟 5階517室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義、課題発表、グループワークを中心に展開するので主体的で、積極的な学習への取り組んでください。グループワークへの参加は、個人の事前課題が必須になります。

教員の実務経験との関連

看護師の資格を有し、実務および長年の基礎看護学の教育経験をもとに講義・指導を行う。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Ex 授業科目名 (時間割コード:762241) 生活援助技術論 Fundamental Nursing Skills for Activities of Daily Living	科目区分	時間割 前期前半火1～ 2,金3～4	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 西村 亜希子, 武智 尚子, 前田 智徳, 前川 泰子	関連授業科目 基本援助技術論, 基礎看護技術論, 基礎看護学実習 履修推奨科目		
	学習時間 講義+演習90分×30回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要 生活援助技術論では、講義と演習を通して、対象が最適な健康状態となるよう、日常生活行動における援助に必要な看護の基礎的知識と技術、看護職として望ましい基本的態度が身につくよう展開します。			
授業の目的 ・人間の日常生活行動の意義を理解し、清潔、食、排泄、安楽確保、休息、感染予防の援助に必要な基礎的知識と技術を習得する。 ・看護職として望ましい基本的態度を身につける。			
到達目標			
1. 清潔の意義と援助方法を理解し、対象の安全・安楽・自立を考えて清拭・足浴・洗髪・口腔ケア・陰部洗浄が実施できる (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 2. 安楽の意義と援助方法を理解し、罨法が安全・安楽に実施できる (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 3. 休息の意義と睡眠の障害要因、援助方法について説明できる (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 4. 食の意義を理解し、食行動に制限・障害がある対象への基本的な援助を実施できる (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 5. 排泄の意義とメカニズムを理解し、対象の羞恥心に配慮して、安全・安楽に一時的導尿が実施できる (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 6. 診療や侵襲が伴う療養生活に必要な感染管理技術について理解し、消毒、滅菌操作を安全・正確に実践できる (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法と基準 課題学習・演習記録40%、実技試験30%、筆記試験30% (演習への参加度、態度により減点する場合がある)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 この授業は基本的に対面で実施します。 第1-2回 ガイダンス・清潔援助技術1 (講義・課題学習) 第3-4回 清潔援助技術 (演習:足浴) 第5-6回 清潔援助技術2 (講義・課題学習) 第7-8回 清潔援助技術 (演習:清拭) 第9-10回 安楽確保の技術、休息援助技術 (講義・課題学習) 第11-12回 清潔援助技術 (演習:洗髪) 第13-14回 食事援助技術、清潔援助技術3 (講義・課題学習) 第15-16回 安楽確保の技術 (演習:罨法) 食事援助技術 (演習:食事援助)、清潔援助技術 (演習:口腔ケア) 第17-18回 排泄援助技術、清潔援助技術4 (講義・課題学習) 第19-20回 排泄援助技術 (演習:床上排泄援助)、清潔援助技術 (演習:陰部洗浄) 第21-22回 感染防止の技術 (講義・課題学習) 第23-24回 感染防止の技術 (演習:消毒・滅菌操作) 第25-26回 技術スキルアップ演習 第27-28回 技術到達度確認 (消毒・滅菌操作) 第29回 知識確認 第30回 まとめ			
【自学自習のためのアドバイス】 ・講義前には教科書の該当箇所を通読し、関連する既習学習項目について復習しておくこと。 ・演習前には指定の事前学習課題を行い、基本的知識を整理し、演習内容について対象者との関わり方、技術の手順や注意点をイメージできるようにする。 ・演習後は自己の技術の振り返りを行い、課題を明確にする。			

教科書・参考書等

【教科書】

<基本援助技術論と共通のもの>

- ・茂野香おる，他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 第18版，医学書院，2021.
- ・任和子，他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 第18版，医学書院，2021.
- ・医療情報科学研究所編：看護が見えるvol.1 基礎看護技術 第1版，メディックメディア，2018

<新たに購入が必要なもの>

- ・医療情報科学研究所編：看護がみえるvol.2 臨床看護技術 第2版，メディックメディア，2018.

オフィスアワー

火曜日・金曜日 講義終了後 ～ 18:30 看護学科教育研究棟5階 515号室（西村）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 初回講義時に詳細な授業ガイダンスを行いますので、必ず出席してください。
2. 各技術の演習の機会は限られています。健康管理を十分に行い、欠席しないようにしてください。

教員の実務経験との関連

国立大学医学部附属病院にて臨床看護師として実務経験のある専任教員が講義・演習を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Ex 授業科目名 (時間割コード:762251) 基礎看護技術論 Fundamental Nursing Skills for Medical Treatment	科目区分	時間割 前期後半火1～ 2,金3～4	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 西村 亜希子, 武智 尚子, 前田 智徳, 前川 泰子	関連授業科目 基本援助技術論, 生活援助技術論, 基礎看護学実習 履修推奨科目		
学習時間 講義+演習90分×30回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 基礎看護技術論では、講義と演習を通して、対象が最適な健康状態となるよう、診療における援助に関連した基礎看護技術についての基礎的知識と技術、看護職として望ましい基本的態度が身につくよう展開します。			
授業の目的 <ul style="list-style-type: none"> ・診療における援助として検査、与薬、処置に関連した基礎看護技術についての基礎的知識・技術を習得する。 ・看護職として望ましい基本的態度を身につける。 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療における看護職者の役割について説明できる (DP「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)。 2. 検査や治療を受ける患者の心理面に配慮できる (DP「倫理観・社会的責任」に対応)。 3. 静脈血採血が安全・正確に実施できる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。 4. 各与薬方法の特徴と実施上の原則・留意点が説明できる (DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。 5. 注射法が安全・正確に実施でき DP「問題解決・課題探求能力」に対応する。 6. 一時的導尿が安全・正確に実施できる DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。 7. グリセリン浣腸が安全・正確に実施できる DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。 8. 酸素療法、口腔内吸引が安全・正確に実施できる DP「問題解決・課題探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 課題学習・演習記録40%、実技試験30%、筆記試験30% (演習への参加度、態度により減点する場合がある)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 この授業は基本的に対面で実施します。 第1-2回 ガイダンス, 症状・生体機能管理技術, 検査の介助 (講義・課題学習) 第3-4回 症状・生体機能管理技術, 検査の介助 (演習: 静脈血採血) 第5-6回 与薬の技術 (講義・課題学習) 第7-8回 与薬の技術 (演習: 皮下注射・筋肉注射) 第9-10回 非経口的栄養摂取の援助 (講義・課題学習) 第11-12回 与薬の技術, 非経口的栄養摂取の援助 (演習: 輸液) 第13-14回 自然排泄が困難な場合の排泄援助技術1 (講義・課題学習) 第15-16回 自然排泄が困難な場合の排泄援助技術1 (演習: 一時的導尿) 第17-18回 自然排泄が困難な場合の排泄援助技術2 (講義・課題学習) 第19-20回 自然排泄が困難な場合の排泄援助技術2 (演習: グリセリン浣腸) 第21-22回 呼吸を整える技術 (講義・課題学習) 第23-24回 呼吸を整える技術 (演習: 酸素療法, 口腔内吸引) 第25-26回 技術スキルアップ演習 第27-28回 技術到達度確認 (採血) 第29回 知識確認 第30回 まとめ			
【自学自習のためのアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義前には教科書の該当箇所を通読し、関連する既習学習項目について復習しておくこと。 ・演習前には指定の事前学習課題を行い、基本的知識を整理し、演習内容について対象者との関わり方、技術の手順や注意点をイメージできるようにする。 ・演習後は自己の技術の振り返りを行い、課題を明確にする。 			
教科書・参考書等			
【教科書】 <生活援助技術論と共通のもの> <ul style="list-style-type: none"> ・茂野香おる, 他: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 第18版, 医学書院, 2021. ・任和子, 他: 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 第18版, 医学書院, 2021. 			

- ・医療情報科学研究所編：看護が見えるvol.1 基礎看護技術 第1版，メディックメディア，2018
 - ・医療情報科学研究所編：看護がみえるvol.2 臨床看護技術 第2版，メディックメディア，2018.
- ※参考書等は授業中に適宜紹介します。

オフィスアワー

火曜日・金曜日 講義終了後 ～ 18:30 看護学科教育研究棟5階 515号室（西村）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 初回講義時に詳細な授業ガイダンスを行いますので、必ず出席してください。
2. 各技術の演習の機会は限られています。健康管理を十分に行い、欠席しないようにしてください。

教員の実務経験との関連

国立大学医学部附属病院にて臨床看護師として実務経験のある専任教員が講義・演習を行います。

ナンバリングコード B2NRS-cbaM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 762271) 基礎看護学実習 Clinical Practice of Fundamental Nursing	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 cbaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 前川 泰子, 西村 亜希子, 武智 尚子, 前田 智徳	関連授業科目 基礎看護方法論 生活援助技術論 基礎看護技術論他, 専門基礎科学全般 履修推奨科目		
学習時間	実習1単位(45時間) × 2単位 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)		
授業の概要			
基礎看護学早期体験実習に続く実習である。この実習では、受持患者の入院、治療、検査による日常生活の変化や、心理状態について把握し援助活動を行う。そのためには、実習開始前までに学習した内容が統合・活用できるように、事前学習や学内演習の基本技術を、さまざまな条件をもった対象を想定して、応用できるように展開する。			
授業の目的			
看護の対象を把握し、看護上の問題を明らかにして、看護援助を実施・評価するために、科学的に問題解決する思考能力の基礎を身につける。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 受持患者とコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことができる。(DPの「言語運用能力, 問題解決・課題探求能力, 倫理観・社会的責任」に対応) 2. 受持患者の入院生活の現状を分析することができる。(DPの「知識・理解, 問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 受持患者の全体像が描けて必要な看護が述べることができる。(DPの「知識・理解, 問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 現時点で優先すべき看護を確認し、指導者に報告することができる。(DPの「言語運用能力, 問題解決・課題探求能力, 倫理観・社会的責任」に対応) 5. 患者の気持ちを大切にして、既習の技術をどう応用すれば看護することができるかを考えて実施することができる。(DPの「言語運用能力, 問題解決・課題探求能力, 倫理観・社会的責任」に対応) 6. 実施した看護を評価することができる。(DPの「言語運用能力, 問題解決・課題探求能力, 倫理観・社会的責任」に対応) 7. 患者や家族に尊重した態度で接し、プライバシーの確保や倫理的配慮ができる。(DPの「言語運用能力, 倫理観・社会的責任」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
出席状況、実習の状況、実習記録の提出、最終レポートの提出、グループ・クラスカンファレンスの参加態度を総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
実習の手引き-「基礎看護学実習」を参照			
この授業は対面にて実施予定です。			
【自学自習のためのアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、書籍、文献などを使用して事前にまとめ、これまでの学習を応用する(各回2～3時間)。 ・本実習の学習目標を念頭において実習に臨み、日々、自分の達成度を振り返り、翌日の計画に反映させる(各回2～3時間)。 ・体験を通して学習した実習内容を記録し、書籍、文献を使用し考察する(各回2～3時間)。 			
教科書・参考書等			
授業で紹介された図書および指定されたテキスト, 資料. 他, 専門科目での紹介図書			
<ul style="list-style-type: none"> ・石川ふみよ, Nursing Canvas Book 2看護過程の解体新書, 学研. ・茂野香おる, 他: 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I 第16版, 医学書院, 2015. ・任和子, 他: 系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 第17版, 医学書院, 2017. ・任和子, 他: 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術第2版, 医学書院, 2017. 			
オフィスアワー 実習期間中は、毎日16:00～17:00、各担当教員研究室あるいは実習室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
各自体調管理を十分に行いながら出席する。違和感がある時は、速やかに担当教員に申し出る。			

教員の実務経験との関連

看護師の資格を有し、実務および長年の基礎看護学の教育経験をもとに指導を行う。

ナンバリングコード B2NRS-bacM-20-Lb 授業科目名 (時間割コード: 762331) 成人慢性期・終末期援助論 Adult Chronic / End-of-Life Support Studies	科目区分	時間割 前期木5	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bacM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lb	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子, 徳田 雅明, 重田 宏恵, 金正 貴美, 上原 星奈	関連授業科目 成人看護学概論		
	履修推奨科目 成人看護学概論		
学習時間	講義90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要			
生涯にわたって病気をコントロールしなければならない慢性期(いわゆる慢性疾患)の成人患者とその家族の体験世界への理解を深めるとともに、慢性期の成人患者とその家族が必要としている看護援助を判断し、個別的な看護を展開するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。			
授業の目的			
1. 慢性期にある成人患者とその家族が病や障害とともによりよく生きていくために必要な課題を見いだし、そのための看護援助を実践するための基本となる知識・技術を習得する。 2. 慢性の病の経験が成人とその家族の成長・発達を促し、発達課題を達成していけるよう、独自性を尊重した看護援助を実践するための関わりや態度を習得する。			
到達目標			
1. 慢性期にある成人と家族に起こりやすい健康問題とその反応の特徴について説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 2. 慢性期にある成人と家族の健康問題と反応に影響を及ぼす要因を説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 3. 慢性期にある成人と家族のセルフケア(自己管理)の学習支援を促進・阻害する要因を説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 4. 慢性期にある成人と家族のセルフケア学習支援に有用な理論を上げ、説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 5. 慢性期にある成人と家族が必要としているセルフケアを判断し、学習支援のための方法を説明できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 6. 慢性期にある成人と家族に必要な治療・検査の目的・意義、安全・安楽に目的を達成するための援助を説明できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 7. 慢性期にある患者と家族が病気や障害とともに生きるために必要な能力・資源を開発するための看護援助について説明できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 8. 慢性期にある患者と家族が病気や障害とともに生きていく経験に意味を見いだししていくための関わり、援助を説明できる。(DP コード a:言語運用能力に対応) 9. 慢性期の患者と家族がQOLを維持、あるいは高めるために必要な保健医療システムや社会資源の活用について説明できる。(DP コード a:言語運用能力に対応)			
成績評価の方法と基準			
出席状況、学習態度、レポート(20%)を評価資料とし、試験(80%)を実施する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 慢性の病をもつ成人とその家族の体験世界 第2回 慢性期成人患者へのケア～科学的アプローチ 認知・行動理論、セルフケア理論、論理療法、社会学習理論 第3回 慢性期成人患者へのケア～科学的アプローチ 認知・行動理論、セルフケア理論、論理療法、社会学習理論 第4回 慢性期成人患者へのケア～哲学的アプローチ ケアリング、スピリチュアルケア 第5回 グループ学習課題の説明(上原)「糖尿病教育入院中の患者」:自己学習・グループ学習の計画 第6回 「希少糖セミナー」(徳田)、国際看護 第7回 代謝性疾患患者の看護方法:肝疾患、内分泌疾患患者の看護 第8回 循環器系疾患を持つ成人患者の看護—心不全、他(金正) 第9回 消化器系疾患を持つ成人患者の看護—直腸癌、結腸癌、他、災害時の看護方法 第10回 グループ学習課題の発表—糖尿病患者の理解 第11回 呼吸器系疾患・脳神経疾患を持つ成人患者の看護—COPD、他 第12回 がん患者の看護方法—がん化学療法の看護(重田専門看護師) 第13回 特殊な治療を要する患者の看護—褥瘡、WOC看護			

- 第14回 終末期にある慢性期成人患者と家族の看護（金正）
第15回 死にゆく人への援助ースピリチュアルケアの実際

自己学習へのアドバイス

- 第1回 課題：「病む軌跡」を考える～経験との相互性を検討しレポートを作成する（5時間）
第2-3回 課題：各理論に基づいてPaper Patientの援助を説明する（2回で10時間）
第4回 疫学的特徴を示したトピックを解説できる（3時間）
第5回 グループで糖尿病性腎症患者の食事療法、運動療法を計画できる（10時間）
第6回 香川大学が開発した希少糖の活用方法をレポートする（10時間）
第7回 代謝性疾患について教科書を精読し、不明点を明らかにしておく（2時間）
第8回 循環器系疾患について教科書を精読し、不明点を明らかにしておく（2時間）
第9回 災害の際の看護方法としてペーパードーナツを作成できる（2時間）
第10回 発表をピア評価する
第11回 呼吸器系疾患・脳神経疾患について教科書を精読し、不明点を明らかにしておく（2時間）
第12回 がん専門看護師の看護方法を学ぶ（5時間）
第13回 治療的看護の先駆的分野であるWOC看護と褥瘡看護
第14回 終末期の苦痛にある患者と家族の判断について意見交換し、レポートを作成する（5時間）
第15回 担当教員が開発した蒸気布の効用を学ぶ（2時間）

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

指定図書

1. 鈴木志津枝ほか. 慢性期看護論. 第3版, スーヴェルヒロカワ, 2015.
2. 清水裕子. ヒューマンケアと看護学. ナカニシヤ出版, 2013年.

参考文献

1. 清水裕子. コミュニケーションからはじまる認知症ケアブック. 学研メディカル秀潤社, 2009.
2. 鈴木久美ほか. 慢性期看護. 南江堂, 2018.
3. 安酸史子ほか編. 成人看護学(2) : 健康危機状況/セルフケアの再獲得. メディカ出版, 2015.
4. 安酸史子ほか編. 成人看護学(3) : セルフマネジメント第3版. メディカ出版, 2015

オフィスアワー 授業日の18:00-19:00と次の日の16:30-18:30

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

グループでの調査学習を行います。生活経験を分かち合いながら実践可能な計画案を作成しますから、メンバー間での時間調整が必要になります。

教員の実務経験との関連

がん看護、難病などの慢性疾患の臨床、在宅看護での経験をもとに授業を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bcaM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762321) 成人急性期・リハビリテーション援助論 Nursing of Adult acute and Rehabilitation	科目区分	時間割 後期月5	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 金正 貴美, 大西 敏美	関連授業科目 成人疾病論、看護実践技術論(フィジカル等)、成人看護学の講義と実習(成人看護学概論 成人看護技術論、成人急性期・リハビリテーション期看護実習)		
	履修推奨科目		
学習時間	講義90分×15回 + 自学自習(準備学習17時間+事後学習6時間)		
授業の概要			
<p>健康レベルが急激に変化し、著しく低下することを急性期といいます。本授業では、特に手術療法を受ける成人患者とその家族に対する基本的な看護実践について講義します。成人患者が手術による身体的、精神的、社会的な変化に適応するため、手術や麻酔が身体に及ぼす影響、手術を受ける患者の心理反応、手術前・中・後の身体的管理方法について講義します。</p> <p>また、リハビリテーションとは何か、リハビリテーションに用いられるICFや障害受容などの主要な考え方や廃用症候群予防と日常生活行動への支援について講義します。さらに具体的な看護方法として、摂食嚥下障害や脳卒中急性期の看護について講義します。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある成人患者とその家族の身体的・精神的・社会的、ならびに生活への影響を理解し、必要としている看護ケアを判断するための基本的知識を身につける。 2. 周手術期にある成人患者とその家族の病気や障害による影響を最少にし、早期回復を促す看護援助を実践するため必要となる基本的な知識を身につける。 3. リハビリテーション期にある成人とその家族の身体的・精神的・社会的ならびに生活への影響を理解し、必要とされる看護ケアを判断するための基本的知識を身につける。 4. リハビリテーション期にある成人患者が疾患や障害と共に生きるため必要とされる看護援助を実践するための基本的知識を身につける。 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期看護について説明できる。 2. ストレス理論について説明できる 3. 手術に伴う生体反応および麻酔の影響に関する看護援助の方法を説明できる。 4. 手術に向けた身体的準備について説明できる。 5. 術後の早期離床と日常生活援助方法について説明できる。 6. 術後の疼痛管理、創傷管理について説明できる。 7. 術後合併症予防のための看護の視点と看護援助の方法を具体的に説明できる。 8. リハビリテーションに用いられる国際生活機能分類について説明できる。 9. 障害受容論である価値転換理論、ステージ理論について考察できる。 10. 日常生活動作(ADL)の概念と評価方法および自立のための看護援助について説明できる。 11. 早期離床の意義と二次的障害の予防のためのケアについて説明できる。 <p>(1～3、8～9はDPの「知識・理解」に対応) (4～7、10～11はDPの「問題解決・課題探求能力」に対応)</p>			
成績評価の方法と基準			
提出物と試験により総合評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面(または遠隔)にて講義します。			
<p>第1回 急性期看護の定義(市原) 急性・重症ケア専門看護師のDVDを視聴して、急性期の患者に対するケアのイメージを描く。</p> <p>第2回 手術前の心理的側面: ストレス・コーピング・危機理論(市原) 患者のストレス状況を理解するためにストレス・コーピング理論を学ぶ。また手術を受けることは患者にとって危機的状況であるため、危機理論を学ぶ。</p> <p>第3回 侵襲に伴う生体反応と回復過程(市原) 侵襲に対する生体反応(神経内分泌系反応)と手術侵襲からの回復過程について学ぶ。</p> <p>第4回 手術前の看護: 術前患者のアセスメント、術前オリエンテーション(市原) 手術患者の身体的・心理的側面のアセスメント、術前オリエンテーション、手術に向けての身体的準備について学ぶ。</p> <p>第5回 術中の看護: 手術室の概要、安全対策(市原)</p>			

- 手術室の特徴、設備および麻酔導入までの流れについて学ぶ。
- 第6回 手術後の看護：術後観察と疼痛管理（市原）
術後の観察ポイントと術後の疼痛管理について学ぶ。
- 第7回 手術後の看護：早期離床と日常生活援助（市原）
早期離床と術後の日常生活を支援する方法について学ぶ。
- 第8回 手術後の合併症予防（呼吸器系・循環器系）（市原）
手術後に発生頻度の高い上記の合併症のアセスメント視点と予防ケアについて学ぶ。
- 第9回 成人急性期の援助技術1：創傷管理とドレーン管理（市原）
基本的な創傷管理、術後感染症の予防、ドレナージ方法の原理とケア方法を学ぶ。
- 第10回 リハビリテーション看護の考え方（市原）
リハビリテーションの定義、障害者の定義と動向、ICF概念について学ぶ。
- 第11回 障害受容－価値転換理論、ステージ理論（市原）
障害を負った人の心理状態を既存の理論を参考に理解する。障害受容論では価値転換理論とステージ理論を学ぶ。
- 第12回 リハビリテーション看護の方法：廃用症候群の予防（市原）
長期臥床の弊害を知り、早期離床の意義と長期臥床に伴う二次障害の予防的ケア方法について学ぶ。
- 第13回 リハビリテーション看護の方法：ADL評価方法と活動の促進（市原）
対象者の日常生活動作（ADL）評価することが効果的な看護ケアにつながることを学ぶ。
- 第14回 がん摂食嚥下障害患者の看護（金正）
がん患者のリハビリテーション病気別の目的や看護実践と、摂食嚥下障害を持つ患者のリハビリテーションプログラムを学ぶ。
- 第15回 脳卒中急性期患者の看護（大東）
脳卒中急性期の観察ポイント、看護ケア、リハビリテーション看護について学ぶ。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1回 シラバスに目を通し初回講義の時に教育要項を持参する。
DVDを視聴しレポート提出する（2時間）
- 第2回 事前に渡した資料を読んでおく。（1時間）
また事例を分析して講義後に課題を提出する。（2時間）
- 第3回 侵襲について理解し、講義後に課題を提出する。（1時間）
- 第4回 術前一般検査の項目とその基準値について既習内容を予習しておく（2時間）
- 第6回 術後の病室環境についてレポート提出する（2時間）
- 第5, 7, 8, 9回 指定図書を読み、予習・復習しておく。（4時間）
- 第10回 講義後、学習したICF概念を用いて事例を分析する。（1時間）
- 第11回 事前配布資料に目を通しておく。（2時間）
身体障害者の闘病記を読み、レポート提出する。（8時間）
- 第12～15回 講義後に資料を復習しておく（5時間）

教科書・参考書等

必携図書

林直子編：成人看護学急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護、南江堂、2800円+税

参考図書：急性期

竹内登美子編：高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護第2版、医歯薬出版株式会社
竹内登美子編：高齢者と成人の周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護第2版、医歯薬出版株式会社
矢永勝彦編：臨床外科看護総論、医学書院
鎌倉やよい・深田順子著：周術期の臨床判断を磨く、医学書院
中島恵美子編：ナーシング・グラフィカ成人看護学④周手術期看護、メディカ出版
氏家幸子監：成人看護学B急性期にある患者の看護Ⅰ第2版、廣川書店
北島正樹編：ビジュアル&アップデート外科手術と術前・術後の看護ケア、南江堂
今日の治療薬、南江堂
小島操子著：看護における危機理論・危機介入、改定3版、Kinpodo
西口幸雄編著：術前・術後ケアのこれって正しい？Q&A100、照林社、2014年

参考図書：リハビリテーション期

奥宮暁子編：リハビリテーション看護、メディカ出版、2017年
氏家幸子監修：成人看護学D. リハビリテーション患者の看護第2版、廣川書店、2003年
上田敏著：ICFの理解と活用、きょうされん、2016
三沢義一著：リハビリテーション医学講座第9巻；障害と心理、医歯薬出版株式会社、1999
森山志朗：心が動く、荘道社、2007年
星野富弘：愛、深き淵より、Gakken、2016年
近藤崇：僕の声は届かない。でも僕は君と話がしたい。角川書店、2015年

滝野澤直子：でも、やっぱり歩きたい直子の車いす奮闘記、医学書院、1995年

南雲直二：社会受容、壮道社、2002

石鍋圭子編：リハビリテーション看護実践テキスト、医歯薬出版、2008年

田村綾子編：脳卒中看護実践マニュアル、メディカ出版、2015

オフィスアワー 随時

火曜日16時～18時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

事前・事後学習をすること

教員の実務経験との関連

教員は外科病棟の勤務経験があります。周手術期看護に携わってきた実務経験をもとに講義します。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762362) 老年保健対象論 Geriatric Nursing	科目区分	時間割 前期後半木4	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 山本 美輪, 西村 美穂, 森河 佑季	関連授業科目 疾病論Ⅱ 老年看護学概論 老年援助論 履修推奨科目		
学習時間	講義+グループワーク+演習90分×15回+自学自習(事前学習30時間 事後学習30時間)		
授業の概要			
<p>老年看護の理念や目標などについて学び、高齢者を支える行政の医療福祉政策の現状や変化についても学ぶ。また学生は、老化による身体的・心理的・社会的機能の変化、能力の低下した高齢者の内部・外部環境の変化に伴って発生する健康上の問題や生活機能障害について老年看護学概論で学び、その理解を踏まえて、個人差の大きい高齢者に対する援助のありかたを理解する。特に、認知症、認知症ケアや予防、災害時における高齢者やその家族への看護について学ぶ。</p>			
授業の目的			
<p>老年看護学概論において、高齢社会における保健・医療・福祉の現状と課題を踏まえた、老年看護の理念・目標・役割を理解する。その上で、健康・生活機能障害のある高齢者と家族の特徴とともに、看護に用いる理論を理解する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く介護保険の支援について説明できる。(DPの知識・理解と地域理解に対応) 2. 高齢者に対する高齢社会の影響を説明できる。(DPの知識・理解に対応) 3. 高齢者医療の動向について説明できる。(DPの知識・理解と倫理観・社会的責任に対応) 4. 認知症ケアの実際を理解し、その概要について説明できる。(DPの問題解決・課題探求能力に対応) 5. 高齢者にとっての予防に対する支援や援助を説明できる。(DPの問題解決・課題探求能力に対応) 6. 老年看護の理念・目標について説明できる。(DPの問題解決・課題探求能力に対応) 			
成績評価の方法と基準			
試験70%、レポート、出席状況30%により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面+遠隔等にて実施予定です。			
<p>それぞれを90分とし、講義、演習、グループワーク、自己学習、レポート形式で行う。</p> <p>第1回 授業ガイダンス 高齢者と高齢者を取りまく社会・老年観に対する考察 第2回 高齢者疑似体験 演習①×認知症ケア・回想法 第3回 高齢者疑似体験 演習②×認知症ケア・回想法 第4回 認知症ケア①・アルツハイマー型認知症 第5回 認知症ケア②・レビー小体病型認知症 第6回 認知症ケア③・認知症高齢者やその家族へのケア 第7回 高齢者への終末期ケア 第8回 災害看護・災害弱者になりやすい高齢者へのケア</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】</p> <p>第1～3回 加齢に伴う変化をまとめ、高齢者の体験をふまえて看護を考察する。回想法について調べてまとめる。 第4～6回 認知症について調べてまとめる。 第7回 高齢者の終末期に関する情報を集め、まとめる。 第8回 災害看護に関する情報を集め、まとめる。</p>			
教科書・参考書等			
<p>教科書 山本美輪, これからの高齢者ケア ～知る・識る・共感する～, シービーアール, 2018.</p> <p>参考書 堀内ふき: 高齢者の健康と障害, 第3版, メディカ出版, 2011, (ナーシング・グラフィカ, 26). 野呂レナード, 柴田理恵訳: ロイ適応モデルにもとづく看護アセスメントツール, 医学書院, 2009. 厚生労働統計協会: 国民衛生の動向2016/2017, 厚生労働統計協会, 2016.</p>			
オフィスアワー 前期・木曜日 17時00分～18時00分			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

周囲の高齢者と積極的に関わりながら、また、高齢者の保健・福祉に関わるニュースにも関心を持って学んでほしい。

教員の実務経験との関連

高齢者の多い整形外科・泌尿器科病棟と認知症治療専門棟での看護経験があり、認知症ケア上級専門士、認知症予防専門士指導者の資格を持つ教員が、高齢者の保健・医療・福祉の現状や高齢者と家族への看護援助について講義します。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762382) 老年援助論 Gerontological Nursing	科目区分	時間割 後期火3	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪, 西村 美穂, 森河 佑季, 大島 由紀江, 菊地 佳代子, 角田 光代	関連授業科目 老年看護学実習、老年生活援助実習		
	履修推奨科目 老年看護学概論、疾病論Ⅱ、老年保健対象論		
学習時間	講義＋グループワーク＋演習90分×15回＋自学自習(事前学習30時間 事後学習30時間)		
授業の概要			
<p>老年看護学では、老化による生理的変化を基礎知識とし、疾患による日常生活への影響を正確にアセスメントして進める必要がある。さらに高齢者は、日々の身体面・社会面での喪失経験、死生観、精神的な発達課題を抱えているため、老年看護の原則について学び、高齢者の特徴を踏まえて、老化を伴う健康障害や生活障害のある高齢者とその家族への援助を考察し、“その人らしさ”を支える看護計画を立案し看護過程を展開する。</p>			
授業の目的			
<p>高齢者が、自立した快適な生活を送るための看護援助および治療を受ける高齢者への看護を考察し看護計画を立案できる。また、高齢者がその人生を全うできるような高齢者ケアについて考察する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の日常生活の援助技術（コミュニケーション、食事、排泄、活動と休息等）（DP の言語運用能力と知識・理解に対応） について加齢と関係づけて説明できる。 2. 高齢者の安全で自立を高める環境を維持する方法について説明できる。（DP の知識・理解に対応） 3. 看護の援助に関わる理論を説明できる。（DP の知識・理解と倫理観・社会的責任に対応） 4. 回復期にある高齢者や家族のケア、高齢者の権利擁護について説明できる。（DP の倫理観・社会的責任に対応） 5. 入院している高齢者や家族への援助の方法について説明できる。（DP の問題解決・課題探求能力に対応） 6. 高齢者や家族への退院支援について説明できる。（DP の問題解決・課題探求能力と地域理解に対応） 			
成績評価の方法と基準			
試験70%、レポート、出席状況30%により評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は遠隔等にて実施予定です。			
<p>授業形態は、講義・グループワーク・演習とする。</p> <p>第1回 老年援助論に関するガイダンス、老年看護における看護過程 第2回 加齢に伴う心理的・身体的変化に対するアセスメントと援助 第3回 疾患を持つ高齢者のアセスメントと援助 第4回 脳梗塞で障害のある高齢者のアセスメントと援助 第5回 回復期にある高齢者への看護過程の概要 第6回 回復期にある高齢者への看護過程①情報収集・整理 第7回 回復期にある高齢者への看護過程②アセスメント 第8回 回復期にある高齢者への看護過程③入院している高齢者や家族の看護 第9回 回復期にある高齢者への看護過程④入院中の認知症高齢者の看護 第10回 回復期にある高齢者への看護過程⑤退院支援・日常生活援助 第11回 回復期にある高齢者への看護過程・関連図⑥×老年看護の基本的な看護技術 第12回 回復期にある高齢者への看護過程・関連図⑦×老年看護の基本的な看護技術 第13回 回復期にある高齢者への看護過程⑧尿失禁のある高齢者への援助 第14回 回復期にある高齢者への看護過程⑨施設に入所または通所する高齢者と家族の看護 第15回 回復期にある高齢者への看護過程⑩地域包括ケアシステム・介護保険の支援・調整</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 第1～4回 老年期の発達課題、心理的・身体的変化、脳梗塞について調べてまとめる。 第5～8回 回復期にある高齢者の看護過程についてまとめる。 第9～12回 認知症に関する文献を読む。回復期にある高齢者への食事援助についてまとめる。 第13回 尿失禁のある高齢者への援助についてまとめる。 第14, 15回 地域包括ケアシステム、入院、退院支援についてまとめ、意見の準備を行う。</p>			

教科書・参考書等

教科書

山本美輪, これからの高齢者ケア ～知る・識る・共感する～, シービーアール, 2018.

オフィスアワー 後期・火曜日 17時00分～18時00分**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

基礎看護技術を復習して臨んでほしい。演習は臨床をイメージしながらよく考えて行い、身につけてほしい。

教員の実務経験との関連

精神科病棟での勤務経験があり、長年認知症高齢者の看護を行った実務経験をもとに、入院中の認知症高齢者の看護を講義します。WOC看護認定看護師として病院での勤務経験があり、ストーマケアをはじめ、排泄障害のある患者の看護に携わってきた実務経験をもとに、老年看護の基本的な看護技術-排泄の援助の講義を行います。総合地域医療センターでの勤務経験があり、長年入退院支援に携わってきた実務経験をもとに、入院している高齢者や家族の看護-退院支援を講義します。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762435) 小児保健対象論 Pediatric Nursing I	科目区分	時間割 前期前半水2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 谷本 公重, 徳地 暢子, 尾崎 典子, 小川 尊明	関連授業科目 小児看護学概論、疾病論Ⅲ、小児援助論、小児看護学実習 履修推奨科目 小児看護学概論、疾病論Ⅲ		
学習時間	講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)		
授業の概要			
<p>本科目では、小児看護学概論での学びと関連づけながら、小児の成長発達や家族のライフステージに基づいた、健康な小児や家族の生活について教授します。特に、小児期に重要な課題である口腔ケアに関する基礎的知識を教授することが特徴的です。また、さまざまな成長発達段階および健康状態にある小児と家族のアセスメント法や、小児看護の基礎的知識と援助法、小児期の特徴的な健康障害と看護方法について、映像での学習や一部演習を取り入れて教授し、小児保健や小児看護に関する理解が深まるようにします。これらすべては、小児とその家族が主体的に行う心理的準備を支援することの重要性を伝えながら教授します。なお、学習者には、常にその根底に看護職者としての倫理の原則について意識して学習する事を求めます。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児とその家族中心の看護について理解する 2. 小児の成長・発達に応じた、主体性を引き出すかわり方について考察する 3. 小児の基本的生活習慣の獲得過程を成長・発達過程との関連で理解し、その援助法を習得する 4. 小児の成長・発達に基づいたフィジカル・アセスメント方法と注意点について理解する 5. 小児看護の基本的援助技術について理解する 6. 小児とその家族に対する安全・安楽・安心なケアの実施方法を理解する 7. 小児の歯の健康について理解する 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児とその家族中心の看護の重要性について説明できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 小児の基本的生活習慣と援助法を発達段階との関連で説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 3. 事故予防や安全への配慮について説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 4. 小児の発達段階に応じた主体性を引き出すかわり方について説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 5. 小児の成長・発達に応じた説明の必要性について説明できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 小児の歯の健康に関する支援について論理的に説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 7. 小児の成長・発達に基づいたフィジカル・アセスメントについて説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 8. 小児の生活援助に必要な看護技術において、安全安楽やその留意点について説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 9. 小児の薬物療法の特徴と起こり得るノンコンプライアンス状況について説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 10. 小児とその家族の最善の利益を尊重した看護について説明でき、適切な援助を習得できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表及び討議 10% 2. レポート 10% 3. 試験 80% 			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回：プレパレーションに関する序論 看護における倫理 小児看護における倫理的配慮 小児の認知発達			
第2回：プレパレーションの実際 インフォームドコンセント・アセント プレパレーション概論 プレパレーションの実際			
第3回：小児期の歯の健康 (非常勤講師 小川先生)			

第4回：生活援助に必要な看護技術（1）

消化機能・嚥下・咀嚼の発達
母乳育児援助
食事介助
経管栄養

第5回：生活援助に必要な看護技術（2）

排泄の援助・活動制限

第6回：技術演習 身体計測 フィジカルアセスメント

第7回：薬物療法・検査・処置を受ける小児への援助技術（1）

小児の薬物療法
ADME
アドヒアランス
輸液を受ける子どもへの援助
中心静脈注射

第8回：薬物療法・検査・処置を受ける小児への援助技術（2）

採血・採尿 骨髄穿刺 腰椎穿刺

【授業及び学修の方法】

授業は講義を中心に進めるが、技術習得のために一部演習を取り入れます。また、いくつかの講義で小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。加えて、一部、動画の視聴を行い、子どもに対する理解を促進するよう促します。

この科目は基本的に対面授業で行います。なお状況によっては授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習へのアドバイス】

教科書として示す図書は、講義前後に目を通してください。各回の自学自習に関して、以下に示します。

第1、2回：小児看護学概論で学習した子どもの認知発達・子どもの権利に関して復習をしておいてください（6時間）

第3回：齲歯の形成について、講義と資料を参考にして、レポートにまとめる（3時間）

第4-8回：該当する看護技術に関して、各領域での既習内容を復習しておいてください（3時間×5）

第6回：学内演習です。終了後、小児特有の技術についてその要点をレポートにまとめてください（3時間）

第7回：薬物の吸収、代謝、分布、排泄に関して既習内容を復習しておいてください（3時間）

教科書・参考書等

以下の2冊の教科書は、1年次から各学年の小児看護学の講義において使用します。

二宮啓子，今野美紀編集：小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 改定第4版，南江堂，2022年，¥3,600+税

二宮啓子，今野美紀編集：小児看護学Ⅱ 小児看護技術 改定第4版，南江堂，2022年，¥3,400+税

【参考書】

石黒彩子，浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程+病態関連図第2版，医学書院，2012年，¥3,800+税

山元恵子監修：写真でわかる小児看護技術改定第3版，インターメディカ，2015年，

オフィスアワー 水曜日13時から15時

看護学科教育研究棟 谷本 4階 414号研究室

尾崎 5階 514号研究室

徳地 4階 413号研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書として指定したテキスト2冊は、1年次から各学年の小児看護学の講義・実習において使用します。毎回、必携すること。

教員の実務経験との関連

教員は、小児関連病棟あるいは学校保健における実践経験を持ち、また小児の看護に関連する研究を行っている。それらをもとに子どもと家族の最善の利益に焦点をあてた授業を展開する。

ナンバリングコード B2NRS-bcaM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード:762622) 精神保健対象論 Understanding the Client in Mental Health Nursing	科目区分	時間割 前期後半水2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 渡邊 久美, 藏本 綾, 三上 直哉, 沖野 一成	関連授業科目 精神看護学概論、疾病論IV、精神援助論、看護倫理、精神看護学実習 履修推奨科目 ボランティア活動		
学習時間 講義あるいは演習90分×8回+自己学習(受講時に提示する課題へのレポート提出、事前学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 精神の健康障害を持つに至る背景は個々に異なりますが、疾患の特性に応じた看護は必要です。本科目では、統合失調症や気分障害などの代表的疾患を取り上げ、精神看護の専門職として必要となる基本的な観察・アセスメントの視点を学びます。家族・地域社会との関係性や過去・現在・未来の時間軸の中で捉える見方へと視野を広げていき、病気と社会的偏見とも闘う当事者の生活を支援する姿勢を養います。			
授業の目的 精神障害者がこれまでどの様に理解され、処遇されてきたかを学ぶことは、歴史、社会、文化、そして人間を学ぶことにつながります。精神疾患の特徴や対象特性に応じた看護実践は、患者-看護師間の関係性に支えられており、言語的・非言語的なコミュニケーションによる相互作用の進展が重要です。精神障害を持つ人やその家族に対する専門職としてのあり方を問い、適切な対象理解のために必要となる看護の視点を学び、自己の価値観を見つめます。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の主要理論であるセルフケア看護理論を用いて、生活支援のためのアセスメントの視点を述べることができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 病院と地域の切れ目ない多職種での支援を、医学-生活モデルで捉える必要性を理解することができる。(DP「地域理解」に対応) 3. 当事者の事例に基づき、発症の経緯や周囲との人間関係との関連を理解しつつ、対象を人として理解することと診断の意義を述べるができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 精神障害者を抱える家族の状況を理解し、必要な家族支援について考察することができる。(DP「知識・理解」に対応) 5. 精神障害者をめぐるスティグマを認知し、ノーマライゼーションの理念に基づく精神看護を志向することができる。(DP「知識・理解」に対応) 			
成績評価の方法と基準 授業への参加態度、レポート内容、講義終了後に行う筆記試験から総合的に評価します。 期末試験は出席2/3以上を条件とします。 (毎授業後の出席レポート+課題レポート40%, 期末テスト60%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に遠隔授業(リアルタイム配信もしくは授業収録)を行います。なお状況によっては一部の授業回では少人数の対面授業を行います。変更時には連絡を致します。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症を持つ人の体験世界 発症の背景と症状の意味 2. 精神障害の分類、診断の意味を考える 発達障害を持つ人の体験から 3. バイオサイコソーシャルモデルによる摂食障害を持つ人の理解 4. 気分障害を持つ人の理解 医学モデルと生活モデルの視点 5. 衝動性や暴力行為のある人の対象理解-急性期の看護の実際 精神科専門看護師の立場から(沖野氏) 6. 精神保健福祉医療職との協働による地域でのセルフケア看護の実際 グループホームでの精神障害者ケアにおける看護職の役割(三上氏) 7. 精神障害者を抱える家族の体験、家族の感情表出:EEの意味、セルフスティグマ 8. 期末試験、解説 			
<p>【自己学習へのアドバイス】()内は教科書の該当箇所です。事前事後に自己学習してください。自己学習は各回、事前学習2時間・事後学習2時間を目安とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症について、予習及び疾病論での学びを復習しておく。社会における精神障害当事者の処遇について、問題意識を持って考えていく。(精神看護学②pp.71-76 統合失調症スペクトラム障害、pp.270-284 事例で学ぶ:精神疾患/障害をもつ人への看護 統合失調症)(4時間) 			

2. 発達障害について、予習及び疾病論での学びを復習しておく。障害受容や病識は個々により異なり、診断名を通した見方が対象理解を妨げることのないよう留意した上で、幾つかの精神障害の分類について、便宜的におさえておくこと。（精神看護学②pp. 21-59 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査、pp. 62-70 精神疾患／障害の診断基準・分類、神経発達症群／神経発達障害群、pp. 312-323 事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ子どもへの看護 自閉症スペクトラム障害、注意欠陥・多動性障害）（4時間）
3. 摂食障害について、予習及び疾病論での学びを復習しておく。バイオサイコソーシャルモデルや、対象を理解するための看護理論を復習しておくこと。（精神看護学②pp. 110-117 食行動障害および摂食障害群、pp. 329-333 事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ子どもへの看護 神経性やせ症摂食制限型）（4時間）
4. 気分障害について、予習及び疾病論での学びを復習しておく。うつ病の医療や看護支援がどのように行われているのか、また社会に目を向けて、うつ病治療の現状や課題を調べておく。（精神看護学②pp. 76-87 双極性障害および関連障害群・抑うつ障害群、pp. 289-300 事例で学ぶ：精神疾患／障害をもつ人への看護 双極性障害・うつ病）（4時間）
5. 精神運動興奮状態にある患者の安全と看護者の安全を守る、CVPPPについて調べておくおもしろい。（精神看護学②pp. 260-264 攻撃的行動・暴力・暴力予防プログラム）（4時間）
6. 地域で当事者が生活するためには、住民の理解や、保健医療以外の他分野の専門職との連携が求められる。精神障害者が地域で生活するために必要な支援、職種について調べてみること。（精神看護学①pp. 12-18 地域精神保健、精神看護学②pp. 377-392 多職種連携による地域生活支援・長期入院患者の地域生活への移行支援）（4時間）
7. 精神障害者だけでなく、その家族もケアを必要としている。家族が一つのシステムであることを踏まえ、家族のストレスと感情表出の関係や、家族への心理教育をする場合の内容について、どのようなことが挙げられるか考えてみる。また、精神障害者は、疾病に加えて社会的偏見とも闘わなければならない、セルフスティグマ（精神障害者本人が持つ偏見）の存在も指摘されている。精神障害者が生きる上で遭遇する生活上の困難について、想像してみる。 （精神看護学②pp. 408-418 精神障害をもつ人をケアする家族への支援、pp. 1-20 精神医療・看護の対象者：精神・障害をもつということ、精神看護学①pp. 99-120 家族と精神（心）の健康）（4時間）
8. まとめ 期末試験に向けて全体を見直しておくこと。（4時間）

教科書・参考書等

- 1) 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メヂカルフレンド社 岩崎弥生他編
- 2) 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社 岩崎弥生他編
- 3) 山本勝則他編著『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』メヂカルフレンド社
参考書
- 1) 執行草舟著『生きる』講談社

オフィスアワー 月曜日 17:00～18:00 6階(616) 渡邊研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・精神看護学は、精神看護学概論、精神保健対象論、疾病論Ⅳ（精神系）、精神援助論、精神看護学実習、看護倫理等を通して、精神看護の基本的な理解が得られるよう構成されており、本科目はその導入として重要です。
- ・精神看護の裾野は広く、心の健康問題は身近な問題となっています。精神保健に関心を持つと同時に、心の領域に関する多くの書物に触れ、広く人の心の成り立ちや、重層的な人間の精神構造への理解を深めていってください。

Zoom等、香川大学で規定された遠隔講義システムを用いたリアルタイム配信を基本としますので、時間厳守で参加してください。場合により対面講義もしくは講義収録によるオンデマンド聴講としますが、その際には事前に連絡します。授業感想レポートの提出をもって出席としますので、提出期限にご留意ください。感想レポートの内容や、レポートとしての体裁など、提出物は全て評価対象に含みます。

精神看護学教室ホームページ

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~seisin/>

教員の実務経験との関連

老人病院の認知症病棟での勤務経験があります。また、摂食障害の子どもやご家族のお話を伺い、家族支援の在り方について研究を続けています。現在は、地域の働く女性のメンタルヘルス支援活動にも取り組んでおり、地域の様々な経験を持つ多職種の方々との協働の中で、当事者支援を行っています。少子化及び超高齢社会にある我が国で、脆弱化する家族や当事者支援の在り方について、皆さんと共に考えていきたいと思っております。

ナンバリングコード B2NRS-bceM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762642) 精神援助論 Methodology of Psychiatric Mental Health Nursing	科目区分	時間割 後期火2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bceM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美, 藏本 綾, 熊野 耕, 篠原 三恵子, 森 郁代, 石原 佳明	関連授業科目 精神看護学概論、精神保健対象論、疾病論IV、看護倫理、精神看護学実習		
	履修推奨科目		
学習時間 講義あるいは演習90分×15回+自己学習(受講時に提示する課題へのレポート提出)(事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 精神の健康問題をもつ人への精神看護過程は、生物-心理-社会的側面からの対象理解と援助関係の進展とセルフケア看護を循環させながら展開していきます。これらの全てに必要なコミュニケーション技法、ストレングスモデルや家族看護理論などの複合的なアセスメント/介入モデルの具体的な使い方をイメージできるようにします。看護師自身に生じる感情を治療的アプローチに活用するペプロウ看護論について学ぶとともに、患者のリカバリー(回復)に資する就労支援を含む地域リハビリテーションにおける看護支援のあり方について考察を深めていきます。			
授業の目的 本科目は、精神看護学実習等で活用可能な技術の習得を図る目的で、精神看護の前提となる考え方をおさえ、自己の感情や心理的距離を客観視しつつ、精神障害の特性に応じた精神看護過程ができるよう事例をもとに看護計画を立案していきます。基本的な概念を理解した上で、それらをより実践的に習得できるよう、ロールプレイ等の演習を通して、主体的に学んでいきます。特に、医療と福祉の両側面からの長期的支援が必要となる地域生活支援(就労支援、地域移行・定着支援等)の実際を統合しながら、看護の役割を考えます。			
到達目標			
1. 精神障害や精神疾患を抱えた人をケアする際のケアの原則を述べることができる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 自己のコミュニケーション場面の再構成を行い、振り返ることができる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 治療的な対人援助関係の中で、援助者である看護師に生じる感情体験を把握する意義について述べるができる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 代表的な疾患の症状や病期に応じた看護アセスメントとケアの要点を述べるができる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 精神科薬物療法における看護の役割を述べるができる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 精神療法、行動療法、身体療法、社会療法に大別される治療的アプローチの特徴を理解し、看護の役割について述べるができる。(DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 7. 教材事例において、セルフケアレベルのアセスメントを行い、ヒストリーを踏まえたケアの方向性を導くことができる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 8. 精神看護学実習で活用可能なリラクゼーション技法などの看護技術を実施できる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 9. 我が国における精神看護の課題と看護師の責務について考察し、述べることができる。(DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業・演習への参加態度、レポート内容、講義終了後に行う筆記試験から総合的に評価します。期末試験は出席2/3以上を条件とします。(授業、演習への参加態度10%, レポート30%, 期末テスト60%等)			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この科目は基本的に遠隔授業(リアルタイム配信もしくは授業収録)を行います。なお状況によっては一部の授業回では少人数の対面授業を行います。変更時には連絡を致します。			
1. 授業ガイダンス、自己目標の確認(個人ワーク)、リカバリーの概念 2. 精神看護実践とは何か 看護の焦点と治療との関係 3. 患者-看護師関係における感情体験、プロセスレコードの活用 4. 精神科の薬物療法における看護の役割 5. アルコール依存症の理解と回復のプロセス:当事者の体験から支援を考える 6. 統合失調症をもつ患者のセルフケア看護 共感的理解とは 7. 気分障害をもつ患者のセルフケア看護 傾聴とは 8. 災害時のメンタルヘルス支援:PFA, ASD, PTSD(熊野氏)			

9. 当事者の地域生活支援 精神科訪問看護におけるセルフケア看護の実際 (石原氏)
10. 様々な検査方法とその支援—生物学的、心理学的検査
11. 精神看護としての心理社会的アプローチ—入院治療における対象理解とチームアプローチについて— (森氏)
12. 精神科看護師のキャリア形成について 精神看護の魅力と看護師としての成長(篠原氏)
13. 精神科臨床で活用できるアプローチ方法の実際
14. ストレングスモデル、認知行動療法の看護への応用
15. 治療的環境、精神看護学実習に向けて、入院時、対人関係のアセスメント、まとめ

【自学自習に関するアドバイス】

精神疾患患者や精神障害者と関わる際、対象への先入観を持たないことが大切です。しかし、看護者として関わる際に必要となる専門的知識を学んでおく必要があります。精神看護技術は、看護者自身を道具として活用することから、自己理解や自己洞察、自己の価値観の確認を大切にしていきます。

() 内は教科書の該当箇所です。事前事後に自己学習してください。自己学習は各回、事前学習 2 時間・事後学習 2 時間を目安とします。

1. 自身をケアに向かわせる感情や原体験を想起し、精神看護実践における課題と目標を確認する。日々の生活や人生における希望の意味について考える。(精神看護学②pp. 2-20 精神医療・看護の対象者：精神の病気・障害をもつということ) (精神看護技術pp. 301-314 精神障害者のリカバリーと援助技術) (4 時間)
2. オレムアンダーウッドによるセルフケア理論について理解を深めておく。薬物療法以外の精神療法や心理療法にどのようなものがあるかを調べて、それぞれの特徴を理解しておく。他者との関わりやコミュニケーションにおける自己の特徴を、客観的に分析する。(精神看護学②pp. 190-211 精神障害をもつ人とのかかわり方、精神障害をもつ人とのコミュニケーション) (精神看護技術pp. 33-64 コミュニケーション技術) (精神看護学②pp. 234-243 精神障害をもつ人のセルフケアの援助、pp. 147-187 精神疾患の主な治療法) (4 時間)
3. 他者との会話で聞き役になった日常会話において、印象に残る場面の再構成を行う。意図的な関わりと日常のおしゃべりの違いに着目し、自己の思考や傾向、強みや課題を言語化する。(精神看護学②pp. 211-219 精神障害をもつ人との関係の振り返り) (精神看護技術pp. 65-78 患者—看護師関係成立のための援助技術、対人関係のスキルを高める方法) (4 時間)
4. 教科書の薬物療法に関する箇所、特に有害反応に関する観察ポイントの予習及び復習を行う。(精神看護学②pp. 148-162 薬物療法、pp. 71-76 統合失調症スペクトラム障害、pp. 270-284 統合失調症) (精神看護技術pp. 232-248 薬物療法) (4 時間)
5. アルコール依存症の当事者や家族の体験に関する手記を読むとともに、学習した疾病概念、治療法、看護、治療法、看護について復習する。(精神看護学②pp. 121-127 物質関連障害および嗜癖性障害群、pp. 300-306 アルコール依存症) (精神看護技術pp. 206-212 アディクション(嗜癖)) (4 時間)
6. 発症に至るまでの環境や回復を支援するケアのあり方について、家族や社会との関係の中で理解し、検討する視点を養う。(精神看護学②pp. 71-76 統合失調症スペクトラム障害、pp. 270-284 統合失調症) (4 時間)
7. うつ病の当事者への全人的医療のあり方について多角的に調べて、学習しておく。希死念慮のある方への対応について、参考書や手記から関わり方について考えておく。(精神看護学②pp. 76-87 双極性障害および関連障害群・抑うつ障害群、pp. 257-260 自殺・自殺企図・自傷行為、pp. 289-300 事例で学ぶ：精神疾患/障害をもつ人への看護 双極性障害・うつ病) (4 時間)
8. 非常時の心の健康支援のあり方について、被災者、子供や高齢者、精神障害者の支援がどのように行われているのか、社会に目を向けて現状や課題を調べておく。(精神看護学②pp. 459-471 災害時の精神看護、pp. 97-103 心的外傷およびストレス因関連障害群) (4 時間)
9. 精神科訪問看護をととした地域生活支援の実際について予習をしておく。(精神看護学②pp. 361-364 生活の場を中心とする疾患管理) (4 時間)
10. 臨床で実施される、精神障害当事者が受ける生体検査や心理検査について予習し、復習しておく。(精神看護学②pp. 42-59 精神科的診察) (4 時間)
11. 精神科病院に入院された方の手記、体験談などに広くふれていくこと。(精神看護学②pp. 254-270 精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮) (精神看護技術pp. 290-300 精神障害者をめぐる法・倫理と援助技術) (4 時間)
12. 精神看護学を学んだ看護師のキャリア形成について自分なりに現時点で考えを持っておく。(精神看護学①pp. 18-25 「精神看護」の分野、精神看護学②pp. 424-438 リエゾン精神看護) (4 時間)
13. 対象との身体接触を伴うケアが患者—看護師間の心理的距離もたらす影響について考察する。また、自己の内的世界を表現する一手段であるコラージュを体験的に理解することで、看護における意義や可能性について考察する。(精神看護学②pp. 167-187 リハビリテーション療法) (精神看護技術pp. 254-268 精神科リハビリテーション) (4 時間)
14. 精神障害当事者が持つ強み(＝ストレングス)を生かした生活を支援していく考え方について理解する。(精神看護学②pp. 222-234 看護援助の基本構造、pp. 175-183 精神療法各論) (精神看護技術pp. 282-287 認知行動療法) (4 時間)
15. 実習場面の状況設定から関わりの実際を検討するため、自身が援助的に治療的に関わるとはどのような姿勢かを考えておく。精神看護における対象理解に必要な基本的アセスメントの枠組みについて総括する。看護の方向性を検討するにあたり、これまで学習した看護理論や社会資源、他職種の役割、精神保健福祉制度に関する学習内容などとも関連付けていく。(精神看護学②pp. 221-252 精神障害をもつ人への看護援助の展開) (精神看護技術pp. 79-136 普遍的セルフケア要素への援助技術) (4 時間)

教科書・参考書等

教科書

- 1) 岩崎弥生編 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社
- 2) 山本勝則他編著『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』メヂカルフレンド社
- 3) 岩崎弥生編 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健 メヂカルフレンド社

オフィスアワー 月曜日 17:00～18:00 6階(616) 渡邊研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・原則として精神看護学概論、精神保健対象論、疾病論Ⅳを履修していることが前提です。
- ・授業方法は、講義、グループワーク、実技演習（全て遠隔含む）などを組み合わせて進め、講義終了後に学びと感想を提出します。
- ・精神看護実践では、援助者の治療的自己活用を行うことから、自己の人生観、看護観、感性などが大きく影響します。それらの素養を高めるべく、平素より積極的、主体的に文学や芸術に触れ、自己研鑽に努めるよう心がけてください。
- ・なお、教科書について精神看護学①②および精神看護技術を、毎授業、準備すること。
- ・Zoom等、香川大学で規定された遠隔講義システムを用いたリアルタイム配信を基本としますので、時間厳守で参加してください。場合により対面講義もしくは講義収録によるオンデマンド聴講としますが、その際には事前に連絡します。授業感想レポートの提出をもって出席としますので、提出期限にご留意ください。感想レポートの内容や、レポートとしての体裁など、提出物は全て評価対象に含みます。

精神看護学教室ホームページ

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/~seisin/>

教員の実務経験との関連

高齢者を対象とする病院で認知症看護などに携わってきました。また、摂食障害の子どもやご家族のインタビュー経験から、家族支援や発症予防、早期発見の方法論について養護教諭や助産師などの看護職とともに研究しています。超高齢社会における精神障害当事者への地域包括ケアや、リカバリーに繋がる就労支援、地域生活支援の在り方について、皆さんと共に考えていきたいと思っております。

ナンバリングコード B2NRS-bdcM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード:0) 在宅看護学概論 Introduction to home care nursing	科目区分	時間割 後期前半水2	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bdcM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 松本 啓子, 林 信平, 中村 隆一郎	関連授業科目 在宅対象論、家族看護学、在宅援助論 履修推奨科目 在宅対象論、家族看護学、在宅援助論		
学習時間	講義90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
在宅看護の基本的知識として、在宅看護をめぐる歴史的背景、在宅医療、介護保険、訪問看護の制度、その看護実践に向けての看護過程の展開について教授し、在宅療養者とその家族を支援するための基礎的知識を提供する。さらに、在宅ケアを実践している保健医療福祉の専門職種と連携して支援する必要性とその支援方法を示し、在宅療養者支援における看護の役割を教授する。			
授業の目的			
国民の医療ニーズの多様化、在宅医療の発展に伴い、在宅看護の重要性が高まっている。この授業では、在宅看護の対象、提供場所、在宅看護を提供するための制度を含めた概要を理解する。加えて在宅看護の場における倫理的課題を理解する。また、在宅療養者及びその家族への看護実践に向けて、在宅看護過程の展開方法について理解する。具体的には、在宅看護の特性および特殊性を踏まえた、情報収集とアセスメントの方法を理解する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象と在宅看護の提供方法を列挙できる (DP の知識・理解に対応)。 2. 在宅看護の歴史と特性を述べるができる (DP の知識・理解に対応)。 3. 介護保険制度等、主となる制度について説明できる (DP の知識・理解に対応)。 4. 在宅における看護過程の展開を踏まえ、ケアの方向性について説明できる (DP の知識・理解に対応)。 5. 多様な社会資源を列挙し、多職種連携の必要性とその方法を述べるができる (DP の問題解決・課題探求能力に対応)。 6. 在宅看護における倫理的課題について述べるができる (DP の倫理観・社会的責任に対応)。 7. 在宅看護の課題について述べるができる (DP の問題解決・課題探求能力に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
テストを受けるために2/3以上の出席が必要。 期末テスト90%、非常勤講師および教員の課題レポート10%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回：授業ガイダンス 第2回：在宅看護と社会的背景 第3回：在宅看護の機能と役割 第4回：在宅看護の歴史と特性、制度 第5回：在宅看護のシステムと活動の現状 第6回：訪問看護ステーションの運営と仕組み 第7回：地域包括支援センターの運営と仕組み 第8回：在宅における看護過程の展開とまとめ 【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めますが、理解を深めるために適宜グループワークを行うことがあります。 【自学実習に関するアドバイス】下記について自学自習を行うこと 第2回～第3回 介護保険制度の在宅サービスについて復習しておく。(12時間) 第4回～第5回 介護保険制度の特定疾病について調べる。(6時間) 第6回～第7回 訪問看護を利用するための手続きについて調べる。(6時間) 第8回 スタンダードプリコーションについて復習する。(6時間) なお、授業は対面または遠隔授業で行う予定です。事前に大学からのお知らせ等の確認をするようにしてください。			
教科書・参考書等			
教科書・参考書等 ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、医学書院(最新) 推薦参考書 ・石垣和子、上野まり、在宅看護論、南江堂(最新) ・渡辺裕子監 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編、日本看護協会出版(最新)			

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

訪問看護振興財団、訪問看護事業協会、介護保険情報（WAM NET）等のホームページを参照すること

教員の実務経験との関連

病棟での臨床経験や多視点からの教育経験、訪問看護に関する専門職能としての活動等を通して、多側面からの講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bdcM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード:0) 在宅対象論 Methodology of home care nursing	科目区分	時間割 後期後半水2	対象年次及び学科 2～2 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bdcM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 松本 啓子, 林 信平	関連授業科目 在宅看護学概論、家族看護学、在宅援助論 履修推奨科目 在宅看護学概論、家族看護学、在宅援助論		
学習時間	講義90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
在宅看護の基本的知識から、様々な制度や介護保険、訪問看護の実際やシステム、その看護実践に向けての看護過程の展開について教授し、在宅療養者とその家族を支援するための基礎的知識を提供する。さらに、在宅看護過程の展開を想定し、創意工夫へ繋げることができるよう、在宅ケアを実践している保健医療福祉の専門職種と連携して支援する必要性とその支援方法を示し、在宅療養者支援における看護の役割を教授する。			
授業の目的			
誰もがその人らしく暮らせる場として、在宅看護の重要性が高まっている。この授業では、在宅看護の対象、関係する施設や提供場所を中心に理解する。加えて在宅看護の場における倫理的課題を理解する。また、在宅療養者及びその家族への看護実践に向けて、在宅看護過程の展開方法について理解する。具体的には、在宅看護の対象者を取り巻く人的資源や物的資源を踏まえた、情報収集とアセスメントから計画立案に向けた思考の整理方法を理解する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象と場を列挙できる (DP の知識・理解に対応)。 2. 在宅看護の対象者および家取り巻く人々について述べるができる (DP の知識・理解に対応)。 3. 介護保険制度等の知識を基盤とした計画立案に向けて説明できる (DP の知識・理解に対応)。 4. 在宅における看護過程の展開を踏まえ、アセスメント項目について説明できる (DP の知識・理解に対応)。 5. 多職種連携の具体を述べるができる (DP の問題解決・課題探求能力に対応)。 6. 在宅看護の対象における倫理的課題について述べるができる (DP の倫理観・社会的責任に対応)。 7. 在宅看護の対象者における課題について述べるができる (DP の問題解決・課題探求能力に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
テストを受けるために2/3以上の出席が必要。 期末テスト90%、非常勤講師および教員の課題レポート10%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回：授業ガイダンス 第2回：療養者を介護する家族の理解 第3回：療養者の捉え方と倫理的課題 第4回：事例：療養者の理解、認知症など 第5回：事例：療養者の理解、終末期など 第6回：看護過程の視点からみた地域社会と在宅ケアシステム 第7回：看護過程の視点からみた在宅ケアシステムの構成要素 第8回：在宅看護過程の展開へ向けた課題とまとめ			
【授業及び学習の方法】			
授業は講義中心に進めますが、理解を深めるために適宜グループワークを行うことがあります。			
【自学実習に関するアドバイス】 下記について自学自習を行うこと			
第2回～第5回 成年後見制度について調べる。(6時間)			
第6回 ケアマネジメントとは何かを調べる。(6時間)			
第7回 訪問看護振興財団、訪問看護事業協会のホームページから訪問看護活動についての知識を得ておくこと。 (12時間)			
第8回 介護保険情報(WAM NET)等のホームページを参照し、全国にどのようなサービスがあるのかを探索すること。 (6時間)			
なお、授業は対面または遠隔授業で行う予定です。事前に大学からのお知らせ等の確認をするようにしてください。			
教科書・参考書等			
教科書・参考書等 ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、医学書院 (最新)			

推薦参考書

- ・石垣和子、上野まり、在宅看護論、南江堂（最新）
- ・渡辺裕子監 家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編、日本看護協会出版（最新）

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

訪問看護振興財団、訪問看護事業協会、介護保険情報（WAM NET）等のホームページを参照すること

教員の実務経験との関連

病棟での臨床経験や多視点からの教育経験、訪問看護に関する専門職能としての活動等を通して、多側面からの講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bacM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762680) 家族看護学 family nursing	科目区分	時間割 後期前半火4~5	対象年次及び学科 2~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bacM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 松本 啓子, 林 信平	関連授業科目 在宅看護学概論、在宅対象論、在宅援助論 履修推奨科目 在宅看護学概論、在宅対象論、在宅援助論		
学習時間	講義90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>家族の捉え方について、システムとして、あるいは一つの単位として捉えたいので、家族が、単に部分の総和でないことを知る。家族を理解するための理論(家族発達論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、家族役割理論など)を概要として掴んだ後、特にCFAMとCFIMを参考に、アセスメントと介入についての具体まで踏み込み、考察を深め、それらを通して、実際の看護場面での介入の糸口を見つける。家族のライフステージやステージ各期におこりやすい健康問題の特徴と課題について整理する。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは何かを理解する。 2. 家族が看護を必要とする対象であることを認識する。 3. 家族看護学の理念と目的、看護職の役割を理解する。 4. 家族看護学を理解するための緒理論を理解する。 5. 家族看護アセスメントの視点を身につける。 6. 家族の発達課題とその特徴、各期におこりやすい健康問題を理解する。 7. さまざまな発達課題や健康問題をもつ家族を対象とした支援のあり方を考察する。 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは何かを説明できる(DPの知識・理解に対応)。 2. 家族が看護を必要とする対象であることを説明できる(DPの知識・理解に対応)。 3. 家族を、家族看護学アセスメントモデルで捉えることができる(DPの知識・理解に対応)。 4. 家族を一つの単位として看護介入することを目的として、家族看護の基本理論(家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論、家族役割理論)の概要を説明できる(DPの知識・理解に対応)。 5. 家族の定義、家族看護学の目的を理解し、家族の機能と健康の関係を捉えた上で、支援のあり方を説明できる(DPの言語運用能力に対応)。 6. 家族アセスメントモデルを用いた家族看護過程の概要が説明できる(DPの知識・理解に対応)。 7. 家族が有する発達課題や健康問題への具体的な支援・介入の要点を説明できる(DPの問題解決・課題探求能力に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
出席(5%)、受講態度(5%)、筆記試験(90%)により総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回 家族看護学授業ガイダンス 家族の定義と家族看護</p> <p>第2回 家族看護学の諸理論の概要</p> <p>第3回 家族看護学の諸理論の研究、実践への適用</p> <p>第4回 家族システム理論の概要と援用</p> <p>第5回 家族発達理論の概要と援用</p> <p>第6回 在宅高齢者介護家族事例の検討</p> <p>第7回 在宅終末期療養者の家族支援事例の検討</p> <p>第8回 まとめ、テスト</p>			
<p>【授業及び学習の方法】</p> <p>授業は講義中心に進めます。学生の理解を深めるために質問やグループワークを取り入れることもあります。</p>			
<p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <p>第2回 家族看護の関する事例に興味を持ち、関連する資料を集め、思考を深めておく。(5時間)</p> <p>第3回 家族看護に関する関連研究における検索を行い、情報を収集しておく。(5時間)</p> <p>第4回~第7回 家族看護に関する資料や研究報告から課題の整理を行う。(10時間)</p> <p>第8回 家族支援事例について報告資料の作成を行う。(10時間)</p>			
<p>なお、授業は対面または遠隔授業で行う予定です。事前に大学からのお知らせ等の確認をするようにしてください。</p>			

教科書・参考書等**教科書・参考書等**

- ・山崎あけみ ほか：看護学テキストNiCE 家族看護学、南江堂、（最新）
- ・資料配付予定

推薦参考書

- ・上別府圭子 ほか：系統看護学講座 別巻 家族看護学、医学書院、（最新）
- ・小林奈美：グループワークで学ぶ家族看護論、カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ、医歯薬出版、（最新）
- ・鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学 理論と実践（第3版）、日本看護協会出版会（最新）
- ・森山美知子：ファミリーナーシングプラクティス、医学書院、2002

オフィスアワー 授業終了後1時間**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

在宅看護学概論、在宅対象論と関連づけて考察する。

教員の実務経験との関連

病棟での臨床経験や家族看護に関する教育及び研究活動を通して、多側面からの講義を行います。

ナンバリングコード B2NRS-bcdM -20-Lx 授業科目名 (時間割コード:762131) 公衆衛生学 Public Health	科目区分	時間割 後期後半水3	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 芳我 ちより, 片岡 弘明, 辻 京子	関連授業科目 看護統計論、地域看護学概論 履修推奨科目 疫学		
学習時間	講義90分×8回 + 自学自習 (準備時間20時間+事後学習10時間)		
授業の概要			
公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学ぶ。わが国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の維持増進、健康管理、産業保健、環境衛生に関する事項のほか、食品衛生や感染症の予防など衛生学の基礎知識に関する内容も含む。また、環境と生活者の健康の観点から、環境汚染及び職業性疾患とその対策などを取り上げる。			
授業の目的			
社会と健康、衛生・公衆衛生学の概念、理論を理解する。 さらに、個人および集団・社会における健康増進、保健予防を実践するための基礎的方法論を学ぶ。			
到達目標			
1. 一次予防、二次予防および三次予防等の予防医学の概念と理論が理解できる。(DP 知識・理解) 2. 社会・環境の諸要因が個人・集団の健康あるいは社会生活に及ぼす影響について理解できる。(DP 問題解決・課題探求能力) 3. 疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識について理解できる。(DP 倫理観・社会的責任)			
成績評価の方法と基準			
出席・学習態度：10% 定期試験：90%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面授業を基本として実施します。遠隔授業に変更する場合はWeb Classにて周知しますので確認のこと。			
第1回 健康と公衆衛生 公衆衛生の定義、健康の概念、リスクファクター、関連法規・制度（地域保健法、健康増進法）、予防医学概念			
第2回 社会・環境と健康（片岡弘明） 疾病の成立と環境の役割、ミアズマと感染症、大気汚染、水質汚濁、化学物質リスク、生活習慣病、たばこ対策			
第3回 食・栄養と健康（片岡弘明） 食品衛生法、食品衛生行政、食品の機能、国民健康栄養調査、日本人食事摂取基準健康増進法			
第4回 集団の健康を概観する；疫学の基礎Ⅰ 疫学総論、疫学的アプローチ 疫学で用いられる指標（生命表・平均寿命含む）			
第5回 集団の健康を分析する；疫学の基礎Ⅱ 疫学研究（コホート研究、介入研究、メタアナリシス）、バイアス、因果関係			
第6回 集団の健康データを収集する：疫学の基礎Ⅲ スクリーニング、調査方法、保健統計調査			
第7回 疫学研究と倫理； 個人情報保護、インフォームド・コンセント、利益相反			
第8回 まとめと試験			
【自学自習のアドバイス】 ・自分と家族に関連する健康のリスクファクターについて調べる（5時間）			

- ・生活習慣病とその対策について調べておく（5時間）
- ・公衆衛生に関連する法規が、身近な生活環境の中の何に位置づいているかを調べる（5時間）
- ・疫学によってわかること及び効果的なことについて調べる（5時間）
- ・予防接種の種類や意義を調べる（5時間）
- ・感染症の種類ともたらす影響について調べ、整理する（5時間）

教科書・参考書等

教科書 はじめて学ぶ やさしい疫学 改訂第3版 南江堂
 参考書 国民衛生の動向 最新版 厚生労働統計協会
 柳川洋 公衆衛生マニュアル 南山堂 最新版

オフィスアワー 授業終了時に対応する

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・出席を確認する。
 - ・学ぶ意欲をもって授業に臨むこと。
- ※感染症拡大状況に応じて、遠隔事業になる可能性があります。必ず事前にWebclassで授業形態を確認すること。

教員の実務経験との関連

実務経験等のある教員が担当しています。

ナンバリングコード B2NRS-bcaM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762133) 地域看護学概論 Introduction to Community Nursing	科目区分	時間割 後期後半水1	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子	関連授業科目 公衆衛生学		
	履修推奨科目 人間理解に関する一般教養科目		
学習時間	講義90分 × 15回 + 自学自習(事前学習15時間、事後学習15時間)		
授業の概要			
地域で生活している人々を対象に展開される看護学の一領域としての地域看護学について、その活動の基盤となる予防医学を理解するとともに、看護学の変遷、拡大により生まれた公衆衛生看護学の理念や活動分野・対象・場所の特性について学ぶ。			
授業の目的			
1. 地域看護学の概念とその歴史を理解する。 2. 地域看護活動の対象・場・方法の特性を理解する。 3. 社会環境の変化と健康課題について理解する。 4. 公衆衛生看護活動の基盤となる予防活動における保健師(看護職)の役割を理解する。			
到達目標			
1. 公衆衛生看護活動の歴史から、その成り立ちを述べるができる。(DP「知識・理解」) 2. 公衆衛生看護活動の場と対象、方法の特徴について説明できる。(DP「知識・理解」) 3. 社会の変化に伴う健康課題およびその対策について説明できる。(DP「地域理解」) 4. 予防活動によって地域の健康レベルを向上させ得ることを理解し、それらを行政政策や施策に反映させる意義を説明できる。(DP「倫理観・社会的責任」)。			
成績評価の方法と基準			
・ 定期試験: 70点 ・ 課題提出状況及びグループワーク参加状況; 20点 ・ 出席状況、受講態度; 10点			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面にて実施予定です。			
第1回 ガイダンス 公衆衛生看護学の概念とその歴史(芳我) 第2回 公衆衛生看護学の対象と方法(辻) 第3回 公衆衛生看護学の基盤となる理論(辻) 第4回 公衆衛生看護学の基盤となる理論2(辻) ; 予防医学のパラダイム、ポピュレーションアプローチ(辻) 第5回 組織の中での保健活動; 産業保健(辻) 第6回 公衆衛生看護活動の実際(辻) 第7回 保健事業の立ち上げ、施策化(辻) 第8回 まとめ・筆記試験			
【自学自習に関するアドバイス】			
・ 自分の居住環境、生活習慣、社会環境における健康課題について検討し、まとめる。(10h) ・ 授業時に配布する課題について実践する。(10h) ・ 第13-14回時には、出身地または居住自治体の地域資源について調べてまとめる。(10h)			
教科書・参考書等			
教科書 公衆衛生看護学.jp 最新版 インターメディカル 参考書 国民衛生の動向 最新版 厚生労働統計協会			
オフィスアワー 授業終了後			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
・ 課題学習およびグループワークでの参加状況による評価を行います(出席確認)。ただし、感染症拡大の状況によりオンライン授業になることもありますので、受講前には必ずWebclass等を確認するようにしてください。 ・ 状況により、2コマ連続で授業となることがあるので、第1回目に配布するスケジュールを確認すること。			

教員の実務経験との関連

担当教員は行政保健師としての公衆衛生看護活動を実践した経験をもっている。

ナンバリングコード B2NRS-cbaM-20-Le 授業科目名 (時間割コード: 762191) 看護統計論 Statistics for Nursing	科目区分	時間割 後期後半火4～5, 集中5	対象年次及び学科 2～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 cbaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Le	単位数 1	
担当教員名 谷本 公重, 宮武 伸行, 持増 一美, 鈴木 裕美, 辻 京子	関連授業科目 看護研究基礎論、看護研究		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間	講義90分×8回 + 演習×4回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
看護研究に必要な基礎的な統計の知識を学習する。授業では、データを活用して、情報処理技術や統計的手法を用いて分析し、結果を解釈する方法を教授する。			
授業の目的			
看護活動における援助の意思決定を行うためには、事実を解釈、理解し、妥当な結論を導く能力が必要である。授業では、定量的な分析手法の必要性を理解した上で、データの分析解釈を通して妥当な結果を導くことができるよう、統計手法を習得する。			
到達目標			
1. 基本統計量の意味を説明し、検出できる。(DPの「知識・理解」に対応) に対応)			
2. 記述統計の意味を説明し、実施できる。(DPの「知識・理解」に対応)			
3. 推測統計の意味を説明し、実施できる。(DPの「知識・理解」に対応)			
4. 母集団と標本を説明できる。(DPの「言語運用能力」に対応)			
5. 推定と検定の説明と結果を解釈できる。(DPの「言語運用能力」に対応)			
6. 看護上の問題解決、意思決定のために統計方法を活用できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
出席、授業中の態度、レポート、定期テストを評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回: オリエンテーション、なぜ統計が必要なのか? (宮武)			
第2回: 代表値 (宮武)			
第3回: 確率分布 (宮武)			
第4回: 推定 (宮武)			
第5回: 検定 (宮武)			
第6回: 相関、回帰 (宮武)			
第7回: 重回帰分析 (宮武)			
第8回: 生存分析 (宮武)			
第9回: 演習 (代表値) (持増・宮武・鈴木・谷本・辻)			
第10回: 演習 (2群の比較 その1) (持増・宮武・鈴木・谷本・辻)			
第11回: 演習 (2群の比較 その2) (持増・宮武・鈴木・谷本・辻)			
第12回: 演習 (相関、回帰) (持増・宮武・鈴木・谷本・辻)			
【授業及び学習の方法】			
第1回から第9回は、授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるために、毎回、ミニレポートを課し、講義で学んだ内容について整理を促します。また、第9回から12回は、提示されたデータを用いて、受講生一人ひとりが統計ソフトを使用し、各手法について演習を行います。			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては授業形態を一部遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習に関するアドバイス】			
講義内容に関して、教員より必要な講義資料を提供する。教科書は特に定めないが、下記に示す参考図書を活用し、各講義の内容を確認して、知識の確実な習得をすること。			
第1回 身の回りにある統計を集め、確認する。(3時間)			
第2～第8回 各講義での内容を参考図書等で事前学習し、講義終了後、講義資料にて、再確認する。(21時間)			
第9回～12回 マルチメディア室で行う演習では、教員が提示するデータを用いて、代表値による数値要約、2群の比較、相関、回帰等の統計手法を実際に行う。			
マルチメディア自習室を利用して、講義中に提示されたデータを用いて、各手法を自立して行えるよう演習内容の自学自習を行うこと。(6時間)			

教科書・参考書等

1. 教科書は特に指定しない。
2. 参考図書
 - ・大木秀一著：基礎からわかる 看護統計学入門 第2版，医歯薬出版 （3,200円＋税）
 - ・石村貞夫著：入門はじめての統計解析，東京図書株式会社 （2,400円＋税）
 - ・大村 平著：改訂版 統計のはなし，日科技連出版社 （1,700円＋税）

オフィスアワー 質問は講義・演習中に積極的に担当教員に行うこと。

講義・演習時間外の質問は水曜、13時から15時 谷本まで（看護学科教育研究棟414号室）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

本授業の目的に示すように、看護活動において重要な能力を獲得する講義である。また、直接には3年次の看護リテカルシンキングの受講や4年次に行う看護研究のために必須の科目である。自学自習を確実にを行い、データ分析や解釈について理解を深め、統計手法を獲得すること。

教員の実務経験との関連

教員は統計に関する豊富な経験を有し、実践的な知識をもとに講義を行う。

ナンバリングコード B3NRS-cbaM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 762341) 成人看護技術論 Standard nursing skill exercises	科目区分	時間割 前期後半火4~5	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cbaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 市原 多香子, 金正 貴美, 大西 敏美, 納田 広美, 大島 由紀江, 大福 幸奈, 森田 伸, 田仲 勝一	関連授業科目 疾病論(成人系)、看護実践技術論(フィジカル等)、成人看護学概論、成人慢性期・終末期援助論、成人急性期・リハビリテーション援助論、成人急性期・リハビリテーション期看護実習 履修推奨科目 臨床高度実践技術論		
学習時間	講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要			
<p>本授業では、成人看護学の授業で身につけた知識を基盤に学内演習を行います。特に看護実践能力を向上させるため、成人領域関係、特に周手術期・リハビリテーション期領域のアセスメントや看護技術について、反転授業を取り入れ、モデル人形や紙上患者事例を活用したグループ学習を中心に演習を行います。また、認定看護師や理学療法士からの講義と演習も組み入れています。これらの学内演習を通して、周術期の看護技術、リハビリテーション期の看護技術に関する基本的知識・技術を修得します。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期看護に必要な看護技術に関する基本的知識・技術・態度を身につける。 2. リハビリテーション期看護に必要な看護技術に関する知識・技術・態度を身につける。 3. 周手術期・リハビリテーション期成人患者の情報をアセスメントし、看護計画を立案できる能力を身につける。 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 重症患者の記録の記載方法、水分出納バランスを理解し、記載できる。 (DP「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. リハビリテーション期看護の看護技術として、安全な移乗・移動の援助方法、筋力増強訓練の仕方、杖歩行を理解し実施できる。 (DP「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 3. 臨床で行われる代表的な検査について目的、介助方法、留意点について調べ、患者がイメージできるように検査の内容、留意点について説明できる。 (DP「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 4. 急性期成人患者の生体反応を評価するための各種モニター・カテーテル管理の目的、しくみ、管理方法を調べることができる。 (DP「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 5. 人工肛門造設術を受けた成人患者に必要な基本的なストーマケアを実施できる。 (DP「知識・理解」「言語運用能力」に対応) 6. 全身麻酔による手術を受けた成人患者への術後観察の留意点を理解し、モデル人形を用いて術後観察ができる。 (DP「問題解決・課題探求能力」「言語運用能力」に対応) 7. 周手術期・リハビリテーション期にある紙上患者の情報を整理し、異常正常の判断を行い、看護計画を立案できる。 (DP「問題解決・課題探求能力」「言語運用能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
演習への積極的参加度50%、レポート50%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は演習ですので、対面にて実施します。			
<p>第1回 オリエンテーション(市原・金正・大西) 第2回 成人看護技術1:観察と記録・水分出納(市原) 重症患者の記録方法、水分出納のバランスについて学ぶ。 第3回 成人看護技術2:トランスファーの援助(田仲・森田・金正・市原・大西) 理学療法士より、運動機能障害のある患者への安全で安楽なベッド・車椅子のトランスファー(移動方法)について理論を学ぶ。 第4回 理学療法士より、運動機能障害のある患者への安全で安楽なベッド・車椅子のトランスファー(移動方法)について技術を修得する。 第5回 成人看護技術3:筋力増強訓練、杖歩行(金正・大西・市原) 運動機能障害のある患者が行う筋力増強訓練を体験することで、技術を修得する。</p>			

- 第6回 運動機能障害のある患者が行う杖歩行、歩行器・車椅子による移動を体験することで、技術を修得する。
(金正・大西・市原)
- 第7回 成人看護技術4：検査時の看護(金正・市原)
主要な検査の概要と、その検査によって判断できることは何か、および患者が安心できる説明方法について、反転授業と演習で学ぶ。授業当日は、グループごとに学習した内容のPPを発表した後、ロールプレイで、患者さんへの検査説明や患者さんからの質問への回答のプレゼンテーションを行う。
- 第8回 成人看護技術5：生体反応を知るための各種モニターカテーテル管理(大西・市原)
生体反応を知るための各種モニターカテーテルの特徴と具体的方法を反転授業にて学ぶ。
A観血的血圧測定、B中心静脈圧測定の目的としくみ、
C輸液ポンプと微量注入器の特徴と取り扱い方、D胸腔ドレナージのしくみ
- 第9回 成人看護技術6：ストーマケアの援助(納田・大島・大福・金正・市原)
皮膚排泄認定看護師より、人工肛門造設術を受けた患者に対するストーマケアの理論を学ぶ。
- 第10回 皮膚排泄認定看護師より、人工肛門造設術を受けた患者に対するストーマケアのストーマケア方法についての技術を修得する。(納田・大島・大福・金正・市原)
- 第11回 成人看護技術7：術後観察(大西・市原)
全身麻酔で手術を受けた患者への術後観察のポイントを学ぶ。
- 第12回 モデル人形を用いて全身麻酔で手術を受けた患者への術後観察の技術を修得する。(大西・市原)
- 第13回 成人看護技術8：消化器手術事例の看護計画をグループワークを通して各自が立案する。(金正・市原)
- 第14回 整形外科手術事例の看護計画をグループワークを通して各自が立案する。(金正・市原)
- 第15回 消化器手術事例、整形外科手術事例の看護計画をグループごとに発表する。(金正・大西・市原)

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1回 シラバスに目を通し初回講義の時に教育要項を持参する。
成人急性期・リハビリテーション期援助論の資料を見直す(1時間)
- 第2回 当日渡した資料を仕上げる。(1時間)
- 第3、4回 「基礎・臨床看護技術」の活動・休息援助技術について復習する。演習後に指定されたレポートを作成する。(2時間)
- 第5、6回 成人急性期・リハビリテーション期援助論の資料を見直す。演習後に指定されたレポートを作成する。(2時間)
- 第7回 グループに割り当てられた検査について、個人で調べた知識と検査説明計画レポートを作成する。検査は、内視鏡検査(上部・下部消化管内視鏡検査)、画像検査(CT検査、MRI検査)、血管造影検査(心臓カテーテル検査)、病理組織検査(喀痰検査、腹水検査)である。グループで学生学習用として、指定された検査の目的、介助方法、留意点についてPPを作成する。さらに患者説明計画用として、患者がイメージできるような検査の内容、留意点についてPPを作成する。発表及びロールプレイ後に自学学習レポートに学びを追加記入する。(5時間)
- 第8回 生体反応を知るための各種モニターカテーテルについて1つ調べて、パワーポイントで資料を作成する。(5時間)
- 第9、10回 「基礎・臨床看護技術」の排泄援助技術ストーマケアについて予習する。演習後に指定されたレポートを作成する。(2時間)
- 第11、12回 演習前には、該当する看護技術に関して、既習内容を復習しておく。演習後は、自己の技術を振り返り、技術上の課題を明確にする。(2時間)
- 第13～15回 グループおよび個人にて1事例の看護計画を仕上げ、グループで発表する準備を行う。また希望者は学習を進める上でアセスメントの参考となるPP動画(Web Class内)を視聴し予習する。(10時間)

教科書・参考書等

必携図書

野崎真奈美編：成人看護学成人看護技術、南江堂

参考図書

今日の治療薬、南江堂

リンダカルペニート：看護診断ハンドブック、医学書院

三上れつ著：看護過程と看護診断 ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開

看護アセスメント研究会訳：ゴードン看護診断マニュアル、医学書院

江川隆子監訳：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針、照林社

林直子編：成人看護学急性期看護 I 概論・周手術期看護、南江堂

竹内登美子編：高齢者と成人の周手術期看護 1 外来/病棟における術前

オフィスアワー 演習終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

成人急性期・リハビリテーション援助論の関係個所にあたる講義資料を事前に見ておくこと
事前学習・事後学習をすること

教員の実務経験との関連

教員は外科・内科病棟の勤務経験があります。臨床看護に携わってきた実務経験をもとに演習します。

ナンバリングコード B3NRS-cbaM-20-Ex 授業科目名 (時間割コード: 762761) 看護実践技術論 (フィジカル等)	科目区分	時間割 前期前半水4～5, 金3～4, 火1～2	対象年次及び学科 3～3 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cbaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 1	
担当教員名 塩田 敦子, 前川 泰子, 清水 裕子, 山本 美輪, 芳我 ちより, 川田 紀美子, 谷本 公重, 藤井 豊, 渡邊 久美, 松本 啓子, 市原 多香子, 辻 京子, 西村 亜希子, 加藤 育子, 石上 悦子, 金正 貴美, 西村 美穂, 大西 敏美, 武智尚子, 森河 佑季, 鈴木 麻友, 上原 星奈, 赤垣 衣美, 林 信平, 藏本 綾	関連授業科目 疾病論		
学習時間	講義+演習 180分×7回+自習学習 (準備学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要			
<p>この科目は看護学分野のオムニバスで実施される実習前技術の修得を目的とする。</p> <p>看護実践技術論では、人々の健康状態を身体・精神(心理)・社会的な状態から総合的にアセスメントをすることを学ぶ。個人・家族・地域社会における対象者の健康状態を身体・精神(心理)・社会的な状態から総合的にアセスメントをすることの重要性を学ぶ。さらに、対象者の健康状態を実際にアセスメントできる基本的技術と看護者として望ましい基本的態度を修得することを目指す。</p>			
授業の目的			
<p>看護におけるヘルスアセスメントの意義・目的を理解し、あらゆる健康レベルにある人々の身体構造と機能の系統的な観察・測定技術の必要性と方法を身につける。また健康問題の異常の主な発生要因、正常と異常の判断基準と方法を身につける。身体・精神(心理)・社会的な状態から総合的なフィジカルアセスメントを行うことの重要性と系統別のアセスメントの視点を身につける。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践におけるヘルスアセスメントの意義及び必要性を説明できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」(世紀社会の諸課題に対する探求能力)、「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応) 2. 身体の構造と機能の系統的な観察ができる。(DPの「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応) 3. フィジカルアセスメントを対象に合わせて安全・安楽に実施する方法を説明できる。(DPの「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応) 4. フィジカルアセスメント技術を適用できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」(世紀社会の諸課題に対する探求能力)に対応) 5. フィジカルアセスメントの実施にあたり、対象とコミュニケーションがとれる。(DPの「言語運用能力」(課題解決のための汎用的スキル)に対応) 6. フィジカルアセスメントの実施で得た結果を、適切な用語を用いて記録できる。(DPの「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)、「言語運用能力」(課題解決のための汎用的スキル)に対応) 7. フィジカルアセスメントの実施より、健康上の問題が類別できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」(世紀社会の諸課題に対する探求能力)、「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応) 8. 健康問題の異常の主な発生要因、正常と異常の判断基準が説明できる。(DPの「問題解決・課題探求能力」(世紀社会の諸課題に対する探求能力)、「言語運用能力」(課題解決のための汎用的スキル)に対応) 			
成績評価の方法と基準			
演習態度、提出物、試験で総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>この科目は、反転授業を中心に演習形式で行ない、すべての系統別アセスメント演習の終了後に実技試験を行う。事前動画視聴による事前学習のあとに、系統別アセスメントの演習を実施することを原則とするが、一部の授業回では対面授業を行うこともある。なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p>第1回 ヘルスアセスメントの意義や目的と医療面接 以後は順序がこの通りではない(開始前に掲示する)。それぞれの項目でアセスメントの説明と演習がある。</p> <p>第2回 運動器系 第3回 感覚器系 第4回 循環器系 第5回 消化器系 第6回 呼吸器系</p>			

第7回 中枢神経系
第8回 まとめと試験

【自学自習に関するアドバイス】

事前学習の指定がある項目では、指示された方法に従うこと（例えば何々についてのレポートを授業までに作成、等の指示が出る）。（各回4時間）
事前学習の指定がない項目でも教科書に従って予習をしておくこと。（各回4時間）
また実技試験がありますので、各回の系統別アセスメント演習の終了ごとに、理解できていないアセスメントがあるかどうかを、事後学習で絶えず確認すること。（各回4時間）

教科書・参考書等

教科書

山内 豊明：フィジカルアセスメントガイドブック第2版、医学書院

オフィスアワー 項目ごとの担当教員に相談のこと。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

項目ごとに指示された持参物、服装を用意すること。
講義室、演習室を確認しておくこと。
その内容は開始前に連絡する。

教員の実務経験との関連

看護学科全教員が担当します。病院、地域、在宅医療等での実務経験をもとに講義・演習を行います。

ナンバリングコード B3NRS-bcdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762446) 小児援助論 Pediatric Nursing II	科目区分	時間割 前期火3	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 谷本 公重, 尾崎 典子, 祖父江 育 子, 宮宇地 優子, 國方 美佐, 秋山 恭 子, 四宮 理絵	関連授業科目	小児看護学概論、疾病論Ⅲ、小児保健対象論、小児 看護学実習	
	履修推奨科目	小児看護学概論、疾病論Ⅲ	
学習時間	講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)		
授業の概要			
<p>本科目では、成長・発達過程にある子どもとその家族が健康障害や入院によって受ける影響とその反応について教授します。そして、その子どもが自分の身体的・心理的・社会的な可能性を最大限発揮し、よりよい成長・発達をとげることができるように、加えて、その家族が子どもへの養育力を十分に働かせ、対処能力を発揮できるよう援助するために必要な知識・方法・態度について教授します。授業では、一部、演習として、さまざまな状況にある子どもと家族に関する紙上事例を用いて、看護過程の展開を行います。また、小児救急について、附属病院の救急、小児救急の認定看護師を招いて、一次救命処置に関する演習を行います。本授業では看護職者としての倫理原則を意識して学習する事を求めます。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児に特有な疾患に罹患した小児の特徴や、小児とその家族への看護ケアについて、発達段階を踏まえて学習し、いくつかの症例に関して具体的に看護ケアを立案する 2. 検査・処置・手術を受ける小児とその家族の看護、痛みの発生機序と最新の緩和ケアについて学び、プレパレーションや緩和ケアの重要性を理解する 3. 小児救急の実際と援助の在り方について理解する 4. 慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題の達成やセルフケア能力、QOLを高める援助法を学習し、小児とその家族への看護について理解する 5. 小児とその家族の疾患・入院に対する反応や対処、危機理論について学習し、看護について理解する 6. 発達段階に基づく小児の死の理解、ターミナル期の小児や家族の反応について学習し、ターミナル期の看護やグリーフケアについて理解する 7. 変化する社会の中での小児看護の質を向上するうえでの課題やあり方について理解する 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患や障害をもつ小児の看護について、状況別の重要点を説明できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 疾患による小児やその家族の反応や対処、入院が小児とその家族の生活に及ぼす影響について説明でき、保健・医療、教育、福祉等の連携について意見を述べるができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 3. 検査・手術を受ける小児とその家族の反応について説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 4. 小児がんと診断された患児が受ける治療・検査の目的・内容と家族を含めた援助のあり方について説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 5. 慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題やQOL、セルフケアの重要性について説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 6. 小児がもつ死の概念の発達の變化を説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 7. 小児看護におけるグリーフワーク、グリーフケアについて説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 8. 疼痛の発生機序に基づいて、緩和ケアやプレパレーションの重要性を説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 9. 小児救急の現状について説明できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 10. 小児と家族を対象とした看護の質向上に貢献する活動について説明できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 11. 小児看護について自己の考えを述べるができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 発表及び討議 10% 2. 課題への取り組み 10% 3. 試験 80% 			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 第1回：入院生活における小児の反応と対処、保護者の反応と対処、看護ケア 第2回：急性期にある小児と家族への援助（1） 小児の感染症・・・症状の観察と緩和、環境調整、感染防止			

- 第3回：急性期にある小児と家族への援助（2）
事例（急性胃腸炎の小児への看護）
- 第4回：急性期にある小児と家族への援助（3）
川崎病・・・症状の観察と緩和、退院指導
- 第5回：手術を受ける小児と家族への援助
手術を要する小児の健康障害と手術の時期
小児のQOLと安全・安楽への援助
- 第6回：先天性疾患をもつ小児と家族への援助
先天性疾患の特徴と家族の反応
先天性心疾患を中心に
- 第7回：アレルギー疾患をもつ小児と家族への援助（非常勤講師 宮宇地）
アトピー素因
アレルギーエデュケーター
気管支喘息
- 第8回：技術演習 小児の救急看護（非常勤講師 四宮、國方、秋山）
小児救急の現状と緊急度評価
一次救命処置のアルゴリズム
- 第9回：小児がんを診断された小児と家族への援助
発症、確定診断から治療開始までの子どもと家族への援助 院内学級
化学療法を受けている小児と家族への援助 成人移行期医療
- 第10回：発達に問題がある小児と家族への援助
自閉傾向の小児とその家族の思い
- 第11回：慢性疾患をもつ小児と家族の援助
1型糖尿病をもつ小児と家族へのケア 在宅移行期支援
- 第12回：疼痛への緩和ケア（非常勤講師 祖父江）
疼痛の機序
発達段階による疼痛のアセスメント
緩和ケア
- 第13回：ターミナル期の小児とその家族への援助（非常勤講師 祖父江）
発達段階における死の概念
ターミナル期の小児とその家族
グリーフワークとグリーフケア
- 第14回：慢性疾患をもつ小児と家族への援助（事例）
小児慢性腎疾患：ネフローゼ症候群の小児と家族への看護援助
- 第15回：小児看護学統合
これからの小児看護・・・小児看護と専門看護師、小児看護と研究

【授業及び学修の方法】

授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるために発表と討議を取り入れる。また、いくつかの講義で小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。加えて、一部、動画の視聴を行い、疾患をもつ子どもとその家族に対する理解を促進するよう促します。

この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によって授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習へのアドバイス】

本授業は、先行して履修した小児看護学概論、疾病論Ⅲ、小児保健対象論とリンクしています。既習の内容を毎回、復習して講義に対して準備するように。（1時間×15回）
また、各回で学習する内容は、教科書として指定した図書にて確認しましょう。（2時間×15回）
第3回では、事例（急性胃腸炎の小児への看護）について、全体で討議します。それまでに事例を提示し、課題を出します。事例の内容について、看護過程の展開を各自で行い、講義中に紹介できるように準備しましょう。（5時間）
第7回、13回の講義の後にレポート課題を課します。具体的な課題については、第7回講義時に提示します。なお、昨年度は、第7回講義分については、アトピー性皮膚炎を診断された子どもと家族に関する新聞記事を講読し、「家族の軌跡と看護援助の在り方について」を課題として提示した。（5時間×2回）

教科書・参考書等

【教科書（必携）】

以下の2冊の教科書は、1年次から各学年の小児看護学の講義において使用します。

二宮啓子，今野美紀編集：小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 改定第4版，南江堂，2022年，¥3,600+税

二宮啓子，今野美紀編集：小児看護学Ⅱ 小児看護技術 改定第4版，南江堂，2022年，¥3,400+税

【参考書】

石黒彩子，浅野みどり編集：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図第2版，医学書院，2012年，¥3,800+税

山元恵子監修：写真でわかる小児看護技術改定第3版，インターメ

オフィスアワー 水曜日13時から15時
看護学科教育研究棟 谷本 4階 414号研究室
尾崎 5階 514号研究室
徳地 4階 413号研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教科書として指定した図書は、講義に必ず、持参してください。さまざまな状況にある子どもと家族への看護に関して、レポート課題を出します。内容をよく吟味し、自己の考えを論理的かつ簡潔にまとめるよう心がけてください。

教員の実務経験との関連

教員は、医療機関、小児関連病棟あるいは学校保健における実践経験を持ち、また小児の看護に関連する研究を行っている。それらをもとに子どもと家族の最善の利益に焦点をあてた授業を展開する。

ナンバリングコード B3NRS-bdxM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762506) 母性援助論 Maternal and Child Health Nursing Practice	科目区分	時間割 前期水2	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bdxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 野原 留 美, 谷上 友理, 松木 由美, 酒井 佳代, 西条 順子	関連授業科目	母性看護学概論, 母性疾病論, 母性保健対象論, 母 性看護学実習	
	履修推奨科目	母性看護学概論, 母性疾病論, 母性保健対象論, 母 性看護学実習	
学習時間	講義90分 × 12回 + 自学自習 (準備学習24時間 + 事後学習24時間) 演習90分 × 3回 + 自学自習 (準備学習6時間 + 事後学習6時間)		
授業の概要			
周産期(妊娠・分娩・産褥期)にある女性, および新生児とその家族の特性の理解と援助方法について学ぶ。 具体的には妊娠・分娩・産褥の期間をとおして, 母体および胎児・新生児の健康を維持・増進, および異常の早期発 見と予防ができるよう援助するために必要な基本的知識および基本的援助技術を学ぶ。			
授業の目的			
1. 対象の健康レベルをwellnessな視点からアセスメントし, 健康ニーズを充足する能力を身につけるために, 周産期にある女性および新生児の心身の健康現象(生理的変化と病態生理・心理社会的変化)を理解する 2. 周産期女性への援助に向けて, ロイ適応看護モデルを用いて看護過程を展開し, クリティカルな看護介入技 法を習得する 3. 事例をとおして, 倫理的観点に基づく状況判断や実践, および倫理的責任感について理解する			
到達目標			
1. 周産期にある女性への基本的な援助技法と評価法を実施できる。 2. 新生児への基本的な援助技法と評価法を説明できる。 3. 周産期にある女性の看護過程展開が理解できる。 4. 母性看護学における看護過程が理解できる。 (以上、DPの「知識・理解」および「言語運用能力・問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
出席状況 (10%) 発問に対する応答性と学習態度 (10%) ミニレポート、周産期事例展開レポート (20%) 試験 (60%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 正常な分娩 1. 正常な分娩の看護アセスメント 2. 正常な分娩の基礎的理解 胎位・胎向, 分娩の3要素, 分娩機転 3. 産婦の健康状態のアセスメント 4. 胎児の健康状態のアセスメントー胎児モニタリング			
第2回 正常な分娩の産婦の援助 1. 産婦の基本的要求へのケア 2. 産婦のメンタルヘルスケア 3. ラマーズ呼吸法, 腹部マッサージ法 4. 産痛緩和・感覚の閾値, ゲートコントロール法			
第3回 助産外来の役割と看護の特徴			
第4回 ハイリスク分娩の看護アセスメントとケア1 遷延分娩, 胎児機能不全, 会陰切開と会陰裂傷 など 分娩時異常出血, 帝王切開術, 多胎分娩 など			
第5回 周産期のハイリスクケア MFICUの役割と看護の特徴			
第6回 産褥期の看護アセスメント 1. 産褥経過 2. 出産後の家族への看護 3. 帝王切開後の看護			
第7回 産褥期の日常ケア, 産褥期の保健指導			

1. 健康生活に必要なセルフケア能力の獲得への支援
2. マイナートラブルを緩和させるためのケア
3. 産後に必要な届出と適用される母子保健施策
4. 産褥期のメンタルヘルスケア
5. 役割獲得への支援

第8回 正常新生児の看護アセスメントとケア

1. 正常新生児のアセスメントとケア
2. 母乳育児における看護

第9回 ハイリスク新生児の看護アセスメントとケア

新生児合併症、低出生体重児、先天異常、障害を持つ新生児 など

第10・11回 演習：周産期事例の看護過程展開

1. 事例の情報収集とアセスメントおよび看護過程展開

第12回 演習：妊娠期アセスメントと基本的な援助技術

1. 妊婦のアセスメント；体重，血圧，浮腫，検尿
2. レオポルド触診法と胎児心音聴取
3. 子宮底・腹囲計測

第13回 演習：分娩期アセスメントと基本的な援助技術

1. CTG装着と判読
2. 分娩第1期と2期のケア
3. 分娩第3期と4期のケア

第14回 演習：産褥期アセスメントと基本的な援助技術

1. 子宮底の観察
2. 乳房の観察と授乳姿勢（抱き方，ラッチオン，乳頭の含ませ方，排気）

第15回 演習：新生児期アセスメントと基本的な援助技術

1. 新生児の計測と観察
2. 沐浴

【授業および学習のアドバイス】

すでに履修済みである「母性看護学概論」「疾病論Ⅴ」「母性保健対象論」を復習しておくこと。

第1回から第9回は周産期看護の実践について学習します。教科書1および参考書1, 2等で予習して臨み、当日配布する資料等で復習してください。第10・11回は周産期の事例をもとに情報収集から看護計画立案までの流れを学習します。教科書2, 3等で予習し、演習内容は復習してください。第12回から第15回は母性看護に特有な技術を学びます。教科書4等で予習して臨んでください。

教科書・参考書等

教科書

1. 森 恵美, 高橋真理他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論（第13版），医学書院，2016.
2. 日本助産診断・実践研究会編著：マタニティ診断ガイドブック（第5版）医学書院，2015.
3. 内藤直子・下村明子 編著：改訂版あっそうか！ロイとゴードンで母性小児看護過程11事例，ふくろう出版，2014.
4. 石村由利子編集．根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版．医学書院．2020.

参考書

1. 村本淳子, 高橋真理：周産期ナーシング 第2版，ヌーヴェルヒロカワ，2011.
2. 高橋真理, 村本淳子：女性のライフサイクルとナーシング 第2版，ヌーヴェルヒロカワ，2011.

その他，適時提示する

オフィスアワー 毎回授業終了後 ～ 18：30まで，看護学科教育研究棟4階 川田研究室、石上研究室、看護学科教育研究棟2階 野原研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義，デモンストレーション・演習，グループ学習で展開する。また適時，DVD教材や保健指導媒体を活用する。

教員の実務経験との関連

助産師の資格を有し，大学病院等の臨床における勤務経験をもつ。長年の妊産褥婦及び新生児の実務経験をもとに講義・演習を行う。

ナンバリングコード B3NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762495) 母性保健対象論 Maternal and Child Health Nursing	科目区分	時間割 前期前半木5	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 野原 留美, 谷上 友理	関連授業科目 母性看護学概論, 母性疾病論, 母性援助論, 母性看護学実習		
	履修推奨科目 母性看護学概論, 母性疾病論, 母性援助論, 母性看護学実習		
学習時間	講義90分×8回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
母性保健対象論は子孫を創造し、育み、健やかに成長発達させる人間の営みに着目して、生涯わたる女性および新生児とその家族の特性理解と健康向上のための援助方法について学ぶ。また、周産期にある女性および新生児に起こりやすい健康問題や課題を理解し、母体および胎児・新生児の健康を維持・増進するための対策について学ぶ。			
授業の目的			
1. 周産期にある女性および新生児の心身の健康現象（生理的変化と病態生理・心理社会的変化）を理解する 2. 周産期にある女性および新生児に起こりやすい健康問題や課題を理解する 3. 対象の健康向上のための援助についてwellnessの視点から思考できる			
到達目標			
1. 周産期にある女性および新生児の身体的心理的社会的特徴が理解できる 2. 妊娠から産褥期までの経過に伴う母子の生理的変化、心理・社会的健康について説明できる 3. 周産期にある女性および新生児に起こりやすい国内外の健康問題や課題を理解する 4. リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の尊重について理解できる。 (以上、DPの「知識・理解」およびDPの「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法と基準			
出席状況 (20%) 発問に対する応答性と学習態度 (10%) ミニレポート (10%) 試験 (60%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 ガイダンス, 母子保健をめぐる国内外の動向と課題 1. 母子保健をめぐる我が国の動向と政策の変遷 2. 母子保健の指標と国際比較 3. 母子保健をめぐる我が国の課題と対策			
第2回 リプロダクティブヘルス・ライツの概念と看護 1. リプロダクティブヘルス・ライツの歴史と概念 2. リプロダクティブヘルス・ライツに関する国内外の課題と対策			
第3回 ジェンダーと多様な性の理解 1. ジェンダーとは 2. 多様な性とは 3. 多様な性をめぐる課題と対策			
第4回 リプロダクティブエイジにおけるヘルスプロモーション 1. 月経とヘルスプロモーション 2. 性感染症の予防と必要な援助 3. 生殖補助医療と看護			
第5回 妊娠各期の看護アセスメントと妊婦の援助 1. 妊娠初期の看護アセスメントと看護ケア 2. 妊娠中期の看護アセスメントと看護ケア 3. 妊娠後期の看護アセスメントと看護ケア 4. 妊娠期のメンタルヘルスケア 5. 夫立ち会い分娩, パースプラン			
第6回 正常な妊婦のケア 1. 妊婦の基本的欲求へのケア 2. 日常生活とセルフケア			

3. 妊産婦に必要な届出と適用される母子保健施策
4. 就労妊婦に適用される母子保健施策

第7回 ハイリスク妊娠の看護アセスメントとケア

妊娠合併症，流産・早産，常位胎盤早期剥離，前置胎盤，
妊娠高血圧症候群，多胎妊娠 など

【授業および学習のためのアドバイス】

すでに履修済みである「母性看護学概論」「疾病論Ⅴ」を復習しておくこと。第1回から第4回は母子保健に関する学習で、看護師国家試験に出題される内容です。第5回から第7回は、母性援助論での演習や母性看護学実習を行う上で必須の内容です。各回の講義内容の復習をしっかりと行い、知識を定着させてください。

教科書・参考書等

教科書

1. 森 恵美，高橋真理他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論（第13版），医学書院，2016.

参考書

1. メディックメディア 病気がみえる 産科 第4版
 2. 村本淳子，高橋真理：周産期ナーシング（第2版）ヌーヴェルヒロカワ，2011.
 3. 高橋真理，村本淳子：女性のライフサイクルとナーシング（第2版）ヌーヴェルヒロカワ，2011
- その他，適時提示する

オフィスアワー 毎回授業終了後 ～ 17：30まで 看護学科教育研究棟4階 川田研究室、石上研究室、看護学科教育研究棟2階 野原研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義，グループ学習などで展開する。また，適時，DVD教材や保健指導媒体を活用する。

教員の実務経験との関連

助産師の資格を有し，大学病院等の臨床における勤務経験をもつ。長年の妊産褥婦及び新生児の実務経験をもとに講義・演習を行う。

ナンバリングコード B3NRS-cdbM-20-Ep 授業科目名 (時間割コード: 762672) 在宅援助論 Methodology of home care nursing	科目区分	時間割 前期後半火1~2	対象年次及び学科 3~ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cdbM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Ep	単位数 1	
担当教員名 松本 啓子, 林 信平	関連授業科目 在宅看護学概論、在宅対象論、家族看護学 履修推奨科目 在宅看護学概論、在宅対象論、家族看護学		
学習時間	演習 90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)		
授業の概要			
在宅において、療養者と家族全体を対象とした看護実践を行うために、社会に対する幅広い視野を持ち、的確な判断に基づいた援助技術を修得する。医療依存度の高い療養者やその家族の現状を理解したうえで、事例を通じた看護過程を展開することで、看護ケアについて学生が相互に学べるように教示する。			
授業の目的			
在宅療養者の特徴、在宅に多い疾患の理解、症状への対応、在宅療養者に看護を展開するために必要な情報収集項目、療養者アセスメント方法、看護の展開方法、具体的な看護技術、社会資源の提供主体とその種類等の知識について、事例における看護過程の展開を倫理的側面を含めて修得する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者の日常生活上の援助について列挙することができる(DPの知識・理解に対応)。 2. 医療依存度の高い療養者とその家族への援助の方法を述べるができる(DPの知識・理解に対応)。 3. 在宅療養者事例をもとに看護過程の展開を、参考書や教科書、グループ学習を通して、倫理的側面を含めて学習することができる(DPの倫理観・社会的責任に対応)。 4. 在宅療養者に対する看護の在り様について、自らの意見を述べるができる(DPの問題解決・課題探求能力に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
個人学習30%とグループ学習20%の内容、演習参加態度30%、レポート内容20%等を総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
第1回 授業ガイダンス			
第2回 在宅看護学概論を踏まえて、在宅看護学の概要			
第3回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：実習記録用紙説明			
第4回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：事例紹介、展開方法			
第5回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：事例展開案①;情報収集、アセスメント(個人)			
第6回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：事例展開案②;関連図(個人)			
第7回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：事例展開ワーク①;情報収集、アセスメント(グループ)			
第8回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：事例展開ワーク②;関連図(グループ)			
第9回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：事例展開ワーク①;計画			
第10回 医療依存度の高い療養者と家族へのケア：事例展開ワーク②;計画			
第11回 在宅看護の事例発表、分析検討			
第12回 在宅看護の事例発表、分析検討			
第13回 在宅看護での改築事例、機器紹介			
第14回 在宅看護で用いる機器等			
第15回 まとめ、テスト			
【授業及び学習の方法】			
授業は演習中心に進めます。事例を提示して、個人ワークとグループワークを通して理解を深めます。			
【自学実習に関するアドバイス】			
第2回~第4回 2年生の授業(在宅看護学概論)の復習として、教科書や提示された参考書、厚生労働省、難病情報センター等のホームページやその他様々な文献から自己学習した上で参加すること。(10時間)			
第5回~第10回 事例の疾患と治療、在宅特有の医療的ケア、在宅看護過程について、教科書を参考に自己学習した上で、授業に参加のこと。(10時間)			
第11回~第14回 発表事例、物品・機器の学習からの学びを整理してまとめる。(10時間)			
なお、授業は対面または遠隔授業で行う予定です。事前に大学からのお知らせ等の確認をするようにしてください。			
教科書・参考書等			
教科書・参考書等 ・系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、医学書院(最新)			

推薦参考書

- ・ 渡辺裕子監：家族看護を基盤とした在宅看護論 II 実践編、日本看護協会出版（最新）
- ・ 木下由美子編：新版 在宅看護論、医歯薬出版（最新）
- ・ 金川克子・天津栄子編：わかる・使える看護過程、中央法規出版
- ・ 岡崎美智子・正野逸子編：「根拠がわかる在宅看護技術」、メヂカルフレンド社（最新）

オフィスアワー 授業前後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習にむけて、実践により即した学習となるよう、予習や復習を行ったうえで参加すること。

教員の実務経験との関連

病棟での臨床経験や生涯発達の視点からの教育経験、訪問看護に関する専門職能としての活動等を通して、多側面から学びを深め検討します。

ナンバリングコード B3NRS-cbdM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 762770C) 看護クリティカルシンキング Critical Thinking in Nursing	科目区分	時間割 前期水3	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cbdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子, 渡邊 久美, 松本 啓子	関連授業科目 看護研究		
	履修推奨科目 看護統計論		
学習時間	演習90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>本科目は、看護研究の入門編であり、最終学年で行う看護研究における思考の基礎作りの科目に位置づけられる。思考のスキルとして異文化の中で発達してきた批判的思考(Critical Thinking)は、複雑化する社会において人が十分に機能するために必須の能力である。物事に疑問を持ち、理解し、分析する批判的思考は、自分自身の思考と他者の思考を検討し、洗練していくことでもある。看護師は人々と関わることにより、他者に対する自己の思考の傾向や(枠組みや前提)に気づくとともに、人々のそれに気づくことにより、出来事をより広い視野から系統的に理解するのを助け、よりよい意思決定を導くことができる。すなわち、批判的思考は看護師の成長や看護の発展に必要な不可欠な技術である。</p> <p>授業では、この Critical Thinking を基盤に、研究の基礎的知識と手法を学習する。具体的には、研究疑問の記述、文献検索、分析方法として質的分析、量的分析を学習し、研究計画書を作成する。授業形態は、講義及び演習である。看護現象における問題意識を、研究的手法を用いて解決していこうとする思考過程を学ぶ。この問題意識の持ち方と解決方法の一連のプロセスを演習で教授する。</p>			
授業の目的			
<p>本講義では批判的思考の本質を学ぶとともに、看護における批判的思考の意義、重要性を学習する。</p> <p>また、他者と自らの思考の傾向とその影響を理解することをとおして、多様な看護の場面において批判的思考を用いるための基本となる姿勢・態度・方法を学ぶ。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 批判的思考について説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 2. 看護における批判的思考の意義・目的について説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 3. クリティカルシンキングに必要な態度・方法について説明できる。(DP コード d:倫理観・社会的責任に対応) 4. 批判的思考に影響する要因について説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 5. 他者と自分の思考の傾向について批判的に思考できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 6. 他者と自分との相互作用を批判的に思考しながら、課題に対する発展的・創造的な提言ができる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 7. MBTI による思考パターンのタイプが理解でき、自己理解を深めることができる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<p>参加度(出席、課題への取り組み、発問に対する応答)および、課題レポート、発表から、思考パターンの自己理解と批判的思考との関連の理解、到達レベルについて総合的に評価する(50%)。最後に試験を実施する(50%)。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 看護における論理的思考:批判的思考(CT)の本質と意義・目的、影響要因、方法と技術(清水)			
第2回 自己理解の促進・質問技法と他者理解の促進:思考のスタイル、思考パターンの理解とグループ活動への活用(清水)			
第3回 看護におけるデータ データとは何か、種類・操作(清水)			
第4回 人間の生活と文化と看護現象の関係 研究疑問(清水)			
第5回 研究疑問の明確化におけるクリティカルシンキング、結果の予測:発表と討論(清水・渡邊・松本)			
第6回 文献検索演習(図書館専門職員、渡邊)			
第7回 研究論文の構成、文献の種類と水準、研究のオリジナリティー(渡邊)			
第8回 文献の読み方 質的研究と量的研究(松本)			
第9回 文献クリティークの実際 マトリックス法(松本)			
第10回 文献クリティークの結果発表 これまで明らかにされていること(松本)			
第11回 看護研究者としての倫理 e-learning(松本)			
第12回 研究倫理演習(松本)			
第13回 看護実践と看護理論、看護研究の関係 大範囲理論から実践理論まで(渡邊)			
第14回 研究デザインについて 介入研究によるケアの評価を考える(渡邊)			
第15回 研究への動機、研究疑問、について発表 まとめ(清水、渡邊、松本)			

【自学自習へのアドバイス】

- 第1回 自分の潜在的な能力、道徳・価値に対する考えの明確化（2時間）
- 第2回 指定図書を精読しておく、自分の性格について振り返っておく、自分の考え方や友人との考え方の違いに気づいておく（5時間）
- 第3回 看護や生活の実態を測るための方法を考えておく（3時間）
- 第4回 健康な生活をすべての人が享受する（SDGs 目標3）における疑問の抽出（5時間）
- 第5回 発表資料の準備（3時間）
- 第6回 文献検索方法の予習を行っておく（3時間）
- 第7回 興味のある看護論文の内容をレポートし、疑問を明らかにしておく（2時間）
- 第8回 クリティーク方法の予習を行っておく（3時間）
- 第9回 クリティークの実際からの気づきの振り返り（3時間）
- 第10回 研究倫理における知識の振り返りを行う（3時間）
- 第11回 研究倫理について予習をしておく（2時間）
- 第12回 研究倫理的思考の振り返り（2時間）
- 第13回 看護理論のテキストを精読し、研究で得られた知見と看護理論との関係を考える（3時間）
- 第14回 介入研究における効果検証のデザイン、エビデンスのピラミッドについて予習しておく（2時間）
- 第15回 クリティカルシンキングの学びから研究疑問へ思考を深める（3時間）

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

教科書・参考書等

教科書・参考書等

（指定図書）

1. ナーシンググラフィカ19 看護研究, メディカ出版, 2007.
2. 足立はるゑ著, 看護研究サポートブック 改訂第4版, メディカ出版, 2017.

（参考図書）

1. 清水裕子, ヒューマンケアと看護学, ナカニシヤ出版, 2013.
2. イザベル・ブリックス・マイヤーズ著, 園田由紀訳, MBTIタイプ入門第6版, Japan Psychologists Press Inc.
3. Rosalinda Alfaró-LeFevre, CRITICAL THINKING IN NURSING Apractical Nursing; 江本愛子監訳, アルファ看護場面のクリティカルシンキング, 医学書院, 1996.
4. Mary A. Miller, Dorothy E. Babcock, Critical Thinking Applied to Nursing; 深谷計子, 羽山由美子監訳, 看護にいかすクリティカルシンキング, 医学書院, 2002.
5. 坂下玲子他, 系統看護学講座 別巻 看護研究, 医学書院, 2016.

オフィスアワー 授業日の18:00-21:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

後期の実習に活かすために自分の思考タイプのフィードバックをもとにグループワークを行います。

教員の実務経験との関連

心理学研究者でもある担当教員は、自己理解の促進の技法として性格タイプの研究と実践を10年間実施した。そのタイプをもとに、3名の看護教育の豊富な経験者が、看護研究への入り口として現象と論理的理解の促進を援助する。

ナンバリングコード B3NRS-dbcM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762831) 看護倫理 Nursing Ethics	科目区分	時間割 前期前半火4	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 dbcM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 川田 紀美子, 渡邊 久美, 山本 美輪	関連授業科目 基礎看護学実習、老年生活援助実習、老年看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習、統合実習 履修推奨科目		
学習時間	講義・演習90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)		
授業の概要			
保健・医療の発展に伴い、様々な倫理的ジレンマが生じている。看護職者は、これらの倫理的問題に対する高い感受性と倫理観が求められる。そこで医療倫理・看護倫理の原則を踏まえ、倫理的問題について当事者の立場を理解した上での解決の方法を共に考える。			
授業の目的			
1. 医療倫理・看護倫理の原則・重要なキーワードについて理解する。 2. 臨床における倫理的問題について、解決の方法を提案できる。 3. 臨床における倫理的課題と看護職者の役割について考える。			
到達目標			
1. 医療倫理・看護倫理の原則・重要なキーワードについて説明できる。 2. 臨床における倫理的問題について説明できる。 3. 臨床における倫理的問題を解決するために、必要な情報を述べるができる。 4. 臨床における倫理的問題を解決するために、重要な内容もしくは解決方法を説明できる。 5. 臨床における倫理的課題と看護職者の役割を説明できる。 6. 当事者を擁護する姿勢を身につけることができる。 (以上、DPの「倫理観・社会的責任」、「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
1. 各教員からレポート課題+出席状況 (3人教員×30%) 2. 最終レポート (10%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 ガイダンス 第2回 看護・原則の倫理・ケアの倫理 担当: 山本 第3回 精神保健の歴史に見る倫理的問題 第4回 精神看護における倫理的感受性について 第5回 精神障害者の看護における倫理的問題/理的問題の解決に向けて 担当: 渡邊 第6回 母性看護学領域における倫理的課題の重要なキーワード 第7回 母性看護学領域における倫理的課題の特徴と解決に向けて 第8回 リプロダクティブヘルスと倫理的課題 担当: 川田 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 シラバスを読んでおく 第2回 原則の倫理、看護場面で重要な倫理原則の意味とその違いについて考えておく (4時間) 第3回 精神障害者の地域社会における処遇について調べて考えておく (2時間) 第4回 精神科医療の入院形態とそれにより生じる倫理的問題について調べて考える (2時間) 第5回 治療上のインフォームドコンセントや意思決定のあり方について調べて考える (2時間) 精神障害者の権利擁護における倫理的課題について調べておく (2時間) 第6回 母性領域に関連する倫理的問題について調べておく (2時間)			

- 第7回 これまでの授業内容を踏まえ現代医療の中の様々な倫理問題について調べておく（3時間）
 第8回 母性領域における倫理的問題が生じる場面について調べておく（2時間）
 リプロダクティブヘルスに関連した問題について調べておく（2時間）
 看護における倫理的問題についてまとめ、選択した領域の課題についてレポートにまとめる（6時間）

*この科目は、対面講義を基本としますが一部遠隔講義となります。

教科書・参考書等

教科書

- 1) 小西恵美子編：看護学テキストNiCE 看護倫理（改訂第2版）よい看護・よい看護師への道しるべ，南江堂，2015. 参考書
 - 1) 赤林朗・大林雅之編：ケースブック医療倫理，医学書院，2014. 2592円
 - 2) Joyce E, Thompson, Hery O 他，ケイコ・キシ・イマイ他訳：看護倫理のための意思決定10のステップ，日本看護協会出版会，2004. 3240円
 - 3) サラ・フライ著，片田範子他訳：看護実践の倫理 第3版，日本看護協会出版会，2010. 2376円
 - 4) アンJ. デーヴィス監修：看護倫理 理論・実践・研究，日本看護協会出版会，2004. 3240円
 - 5) ジョンセン他著，赤林朗他監訳：臨床倫理学 第5版，新興医学出版社，2006. 3564円
- その他状況に応じて随時追加する。

オフィスアワー 火曜日17時50分から18時30分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

倫理的課題を生み出す立場にもあるということ踏まえて、当事者の立場に立って考えることを体験して欲しい。解決への方法を自由な発想で、感じて、考えて欲しい。

教員の実務経験との関連

病院での勤務経験があります。長年、老年看護、母性看護、精神看護等に携わってきた実務経験をもとに、臨床における倫理的な問題と解決、看護師の役割について講義を行います。

ナンバリングコード B3NRS-ecdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762100) 看護と国際社会 Global Health Nursing	科目区分	時間割 前期金3~4	対象年次及び学科 3~ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 ecdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 山本 美輪, 近藤 麻理, 柴崎三郎	関連授業科目 国際交流活動	履修推奨科目 Academic English I・II	
学習時間	講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>現代社会におけるグローバル化の波は、人の健康や、保健医療、看護にも影響を及ぼしており、国際的視野に立った知識や思考法を習得することは、これからの医療従事者にとって重要な課題の一つです。看護は、人、家族、地域など、あらゆる対象を扱うことから、看護が備えている特性そのものが国際看護とも言えます。国際社会が地球規模の性格を強める中、アジアで独自の文化圏を誇る我が国が果たす役割は大きく、保健や看護においても諸外国に貢献する使命があります。</p> <p>本講では、国際保健の理念と、主に開発途上国の地域保健分野における看護活動の事例について学びます。また、国際保健医療における看護の役割や今後の課題について考察を深めます。</p> <p>なお、本学における国際交流活動は大変充実しており、医学部では医療・看護の相互理解や課題解決に向けて、語学力・コミュニケーション能力の強化を図る機会が与えられているなど、恵まれた学習環境にあります。全看護学生がプログラムに主体的に参画し、異文化看護に対する理解を深める一契機としていきましょう。</p>			
授業の目的			
<p>現在の地球に生きる人の中には、十分な保健医療サービスを受けられず、生活上の健康課題から生命の危機に瀕する人々が決して少なくないという現状があります。同時代を生きる私たちには、日本で発展してきた看護学を基盤としつつ、看護職として国際保健の概念を学び、国際保健医療活動における国際看護の役割を理解することが期待されています。我が国の看護教育では、平成21(2009)年度のカリキュラム改正において、統合分野に国際看護学が導入されました。</p> <p>本講では、国際看護を「対象となる国や地域の、民族の歴史や文化や疾病構造、社会や保健医療システムなどの総合的理解を通じて、健康課題を認識し、看護の向上を目指すこと」と捉え、まず、国際看護学の概念や関連する理念や課題、さらには、国際保健・看護における主要な指標や世界の健康課題について概要を理解していきます。そして、国際医療・看護経験の豊富な専門家による実践例に基づき、看護の世界における普遍性・共通性及び、異文化に配慮した国際看護のあり方について考察を深めていきます。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護学の定義・概念を理解できる。(DPの「地域理解」に対応) 2. 国際看護を取り巻く理念や課題を理解できる。(DPの「地域理解」に対応) 3. 国際保健・看護における重要な指標を理解できる。(DPの「地域理解」に対応) 4. 世界が向き合う健康課題を理解することができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 異文化での国際看護における視点や基本的姿勢について、考えを深める。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 6. 他国の健康支援専門職との相互理解に向けた行動を積極的にとる姿勢を養う。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 7. 国際保健医療での看護の役割と今後の日本の看護の役割について考えを述べるができる。(DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席 20% (国際交流に関する活動参加を含む) 2. 授業時のミニレポート 50% 3. 授業時のミニテスト 30% <p>以上を基本として、評価する。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回: オリエンテーション、国際看護とは</p> <p>第2回: 国際保健・看護の指標、関連する理念</p> <p>第3回: 異文化圏における看護</p> <p>第4回: 世界の健康課題と国際機関の役割 (非常勤講師 近藤)</p> <p>第5回: ジェンダー・貧困・HIV/AIDSと看護の取り組み (非常勤講師 近藤)</p> <p>第6回: 中村哲先生が教えてくださった援助のピットフォール (非常勤講師 柴崎)</p> <p>第7回: For Our Future (SDGs), More Evidence from Our Past (MDGs) (非常勤講師 柴崎)</p> <p>第8回: まとめ</p>			

【授業及び学習の方法】

授業は講義を中心に進めるが、受講者の理解を深めるためにグループワーク・演習も取り入れる。また、授業設定期間中に開催される国際交流プログラムにも参加する。

この科目は遠隔授業と対面授業のハイブリットで行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

WHOを中心とした国際保健医療機関の役割や、NPOなどによる保健医療活動、諸外国の保健医療の現状について学び、保健医療の問題点や看護の役割、その対処方法について考え続けていくこと。（事後学習として、5時間）

第1回：国際保健医療機関と国際看護師協会の「看護師の倫理綱領」について予習をしておきましょう。（5時間）
第2、3回：授業目的に記載した国際看護の定義・目的に照らして、これまで学んだ自国、すなわち日本における各種指標の現状について整理してみましょう。また、プライマリヘルスケアの基本的活動や原則について、調べておきましょう。（5時間）

第4、5回：国際看護に関心のある学生は「知って考えて実践する国際看護」（医学書院）をお読みください。（5時間）

第6、7回：バングラデッシュの文化的背景や保健課題について調べておきましょう。また、ミレニアム開発目標の概要について、予習しておきましょう。（7時間）

第8回：本学で開催されるチェンマイ大学看護学部生のプログラムに主体的に参加していきましょう。（3時間）

教科書・参考書等**【参考書】**

近藤麻理，知って考えて実践する国際看護，医学書院，2011年。

オフィスアワー yamamoto.miwa@kagawa-u.ac.jp 山本 水曜日13:00～15:00（316号研究室）

外部講師の先生には、その場で積極的に質問・相談してください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業に積極的に参加し、適切な方法で意見を述べること。授業で取り上げた国や関心のある国々への理解を深めるため、疑問点については、書籍やインターネットなどを探求していくとともに、大学内の様々なネットワークを活用していくことを期待します。必要時は教員に相談してください。

また、医学部で行われる国際交流活動に積極的に参加し、異文化看護について理解と関心を深めていきましょう。

教員の実務経験との関連

担当教員は海外における研究および看護教育に関する経験を有しており、非常勤講師は医療現場や研究機関での豊富な経験を踏まえた講義を行う。

ナンバリングコード B3SHN-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762603) 学校保健 School Nursing	科目区分	時間割 前期後半金1~2	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3SHN	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪, 芳我 ちより, 尾崎 典子, 辻 京子	関連授業科目 養護原論		
学習時間 講義90分 × 15回 +	履修推奨科目		
自主学习 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
学校保健の意義と養護教諭の職務を理解するとともに、学校における現代的な児童生徒の健康問題を把握し、児童生徒等の発育・発達を保障した上での対応方法の基本を学習する。			
授業の目的			
1. 学校保健の理念と目的・制度を理解し、チームで取り組む学校保健経営を理解する。 2. 保健主事・養護教諭の職務を理解し、組織活動としての連携の必要性を理解できる。 3. 学校保健における健康課題、環境衛生課題、危機管理とその対応方法が理解できる。			
到達目標			
1. 学校保健の概念と役割を説明できる。(DP: 知識・理解、問題解決・課題探求能力) 2. 学校保健の現状と健康課題を理解できる (DP: 問題解決・課題探求能力) 3. 学校保健活動の全体像と具体的内容が説明できる。(DP: 知識・理解、問題解決・課題探求能力) 4. チームで取り組む組織活動における養護教諭の役割を説明できる。(DP コード: 問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任)			
成績評価の方法と基準			
出席・受講態度10%、試験70%、成果物・発表20%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回/第2回 学校保健とは 学校教育と学校保健 学校保健の概念と構造 学校保健に関する法律と行政・制度・歴史 学校経営と学校保健 人権と学校保健			
第3回/第4回 子どもの現代的健康課題と学校保健 (貧困・虐待)			
第5回/第6回 地域保健と学校保健 チームとしての学校で取り組む学校保健 チームとしての学校と学校保健 学校保健経営 ヘルスプロモーション			
第7回/第8回 健康発達・行動上の課題を有する子どもへの支援 特別支援教育と養護教諭			
第9回/第10回 学校保健活動 健康教育 (保健教育) 教育課程と養護教諭 学校における保健教育 総合的な学習の時間と養護教諭			
第11回/第12回 食育と学校給食 保健教育発表 学校環境衛生活動 環境衛生の意義・法的根拠・基準と概要 環境衛生活動の進め方			
第13回/第14回 環境衛生検査の実際 学校安全及び学校の危機管理 感染予防 事件事故・自然災害			
第15回 まとめ・筆記試験			
【授業及び学習の方法】			

第1回から第10回は、講義を中心にすすめますが、受講者の理解を深めるために毎回ミニテストを配布しますので要点を確認しましょう。

第11回は、第9回の講義で学んだ保健教育の演習をします。各自指導案を作成し模擬授業を行います。

第13回は、第12回の講義で学んだ環境衛生検査の演習をします。

【自己学習に関するアドバイス】

学校保健は、学校保健安全法が基準となるため法令と合わせて理解しましょう。

学校における児童生徒、教職員の健康の保持増進のための、保健教育・保健管理及び組織活動がイメージできるように予習をしましょう。

第11回：教材研究をするとともに児童の意識の流れを考えながら指導案を作成しましょう。模擬授業を通して教師側と児童側の両面から考えていきましょう。また声の大きさ、話し方、板書の仕方を体得しましょう。

第13回：環境衛生検査の手順について予習しておきましょう。

第14回：過去の学校事故について調べておきましょう。

教科書・参考書等

【教科書】徳山美智子・竹鼻ゆかり・三村由香里・上村弘子編著 新版学校保健：東山書房

三木とみ子編：新訂養護概説：ぎょうせい

【参考書】教員養成系大学保健協議会編 学校保健ハンドブック：ぎょうせい

衛藤 隆・岡田加奈子編集 学校保健マニュアル：南山堂

オフィスアワー 授業終了直後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・養護原論終了後に2コマ続きで行われます。

・学校保健は、学童期・思春期・青年期の発達段階を対象にします。大学生も学校保健の対象者です。大学生としての自らを振り返り、社会状況の変化に対応できる健康・安全の課題に取り組みましょう。

教員の実務経験との関連

長年、看護学教育・学校保健に携わってきた実務経験をもとに、講義を行います。

ナンバリングコード B3SHN-baxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 763000) 養護原論 Principle of school nursing	科目区分	時間割 前期前半金2	対象年次及び学科 3～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3SHN	DP・提供部局 baxM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 尾崎 典子, 山本 美輪, 芳我 ちよ り, 辻 京子	関連授業科目 学校保健		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 養護教諭の職責や役割・機能について理解を深め、児童・生徒の健康の増進のための健康教育、健康管理について考究する。また、養護教諭としての実践力に必要な理論や基礎となる知識を学習し、養護教諭としての基礎的、応用的知識・技術を学び科学的な理論と実践の中で研究的な資質・力量を身につける。			
授業の目的 養護教諭の新たな役割と求められる資質に、「健康相談活動」「教科指導や保健指導の向上」が平成9年の保健体育審議会答申で提言され、さらに、平成20年の中央教育審議会答申により養護教諭の職務と役割が明確化された。これに基づき、養護教諭の役割課題を理解し、関係職員・機関との連携調整を行うとともに、専門的な対応方法を学習する。本授業では、社会状況の変化によって子どもを取り巻く生活環境が大きく変わり、アレルギー、ネット依存、メンタルヘルス等の健康課題が深刻化している問題と学校内外の感染症・事故発生、不審者対応、自然災害、環境問題などの課題に対する養護教諭の役割を学習する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 養護教諭の役割と求められる資質が説明できる。 (DP コード: 言語運用能力、知識・理解に対応) 2 養護教諭の職務に関わる内容を理解する。 (DP コード: 言語運用能力、知識・理解に対応) 3 養護教諭の行う健康相談(健康相談活動)の理論と方法が説明できる。 (DP のコード: 言語運用能力、知識・理解 に対応) 4 現代的健康課題や教育に対する養護教諭の役割が説明できる。 (DP コード: 言語運用能力、知識・理解に対応) 			
成績評価の方法と基準 出席・受講態度10%、試験70%、レポート・発表20%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 講義中心、第4.5.6回は演習を行う。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護の本質と概念 養護教諭制度の沿革と職務内容の変遷 学校保健活動と養護教諭 学校保健活動にかかわる教職員 2. 養護教諭に必要な資質能力 養護教諭の教育 養護教諭が押さえておきたい基礎知識 子どもの発育発達と学校保健 3. 養護教諭の執務推進の基本と実際 保健室経営 健康実態の把握と課題 保健調査・健康観察 4. 健康相談(健康相談活動) 5. 健康診断 6. 救急処置と救急体制の整備 救急処置・アレルギー対応 			

7. 養護教諭が知っておきたい心身の健康問題 1
文書作成の基本と広報活動
養護教諭の倫理綱領

8. 文書作成発表
養護教諭が知っておきたい心身の健康問題 2

【授業及び学習の方法】

授業は講義中心で進めますが、受講生の理解を助けるために適宜、演習や発表を取り入れます。また、ミニテストで知識の定着を図ります。

授業は、対面を予定していますが、その時の状況（感染症等）により遠隔授業となります。その場合、アンケートや小レポートにより理解の確認を行います。

【自学自習に関するアドバイス】

第1. 2. 3回 予習を行い教科書の内容を理解しておくこと。（各回2時間）

第4回 養護教諭の執務の要である健康相談（健康相談活動）について事例を元に予習し整理しておくこと。（2時間）

第5. 6回 演習の内容を予習しておくこと。（各回2時間）

第8回 第7回の講義を元に必要な資料を収集し、文書を作成し発表する。（4時間）

その他、実習の手引きを参照

教科書・参考書等

教科書 三木とみ子編（平成30年）『新訂養護概説』ぎょうせい

参考書 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課監修『児童生徒の健康診断マニュアル（平成27年度改訂版）』財団法人日本学校保健会

オフィスアワー 授業終了時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

養護に関する専門教科なので、積極的に授業に参加し、わからないことイメージできないことははっきり質問してください。養護実習に出て困らないようにしっかりと資質を身につけるよう努力しましょう。

教員の実務経験との関連

長年、看護学教育、学校保健に携わってきた実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード B3NRS-cbdM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 762357) 成人急性期・リハビリテーション期看護 実習	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び学科 3～3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cbdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 3	
担当教員名 市原 多香子, 芳我 ちより, 金正 貴 美, 大西 敏美, 辻 京子	関連授業科目 成人疾病論 成人看護学の講義と実習(成人看護学 概論 成人急性期・リハビリテーション援助論 成人慢性期・終末 期援助論 成人看護技術論、成人慢性期・終末期看護実習)		
	履修推奨科目 関連する既習の全ての科目		
学習時間	実習135時間 1日8時～15時(休憩1時間)を15日間(事前学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>本科目は、病院で2週間、地域で1週間の実習を行います。</p> <p>1. 病院実習では、成人看護学領域で学んだ知識を基盤に、香川大学医学部附属病院の外科系病棟・手術部・集中治療室で実習を行います。全身麻酔による手術を受ける患者を一人受け持ち、周手術期・リハビリテーション期における看護過程を展開します。病棟では、臨地実習指導者または担当看護師より指導・助言を受けながら看護計画を立案し、看護ケアを実践します。</p> <p>2. 地域では、何らかの疾患もしくは障害を持ちながら、地域社会での療養と健康な生活を安心して営めるよう、看護過程の思考を用いて個別性を尊重した生活支援を考える実習を行います。</p>			
授業の目的			
<p>「成人急性期・リハビリテーション期看護実習」では、成人看護学ならび関連領域科目で学んだことを基盤に、臨床において理論・知識・技術を適用して、周手術期およびリハビリテーション期にある患者とその家族を多面的・総合的に理解するとともに、対象とその家族の特性に応じた個別的な看護過程を展開する能力を養う。さらに「地域における暮らしと健康実習」では、地域社会での療養と健康な生活を安心して営めるよう、個別性を尊重した生活支援を検討する能力を養う。これらの体験を通して、学生個々の看護観・倫理観・職業観を培うことを目的とする。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期・回復期・維持期における療養患者の健康問題を把握し、適切な関わりと援助ができる。 2. 患者－看護師関係を成立し発展させることができる。 3. 患者・療養者に適した看護過程を展開することができる。 4. 看護専門職としてふさわしい姿勢・態度を身につける。 5. 看護専門職として適切な倫理的判断ができる。 6. 看護チームの一員として行動ができる。 7. 基本的学習を行い、学習を拡大する努力をする。 (1～3はDPの「問題解決・課題探求能力」に対応) (4～6はDPの「倫理観・社会的責任」に対応) (7はDPの「知識・理解」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・成人急性期・リハビリテーション実習70点 実習目標の到達度(50%)、その他20点(自己学習、課題レポート、実習中の態度・出席)などから評価します。 ・地域における暮らしと健康実習30点 実習目標の到達度(20点)、その他(出席状況、レポート提出、見学実習の状況、カンファレンスの参加態度など:10点)などから評価します。 			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>《成人急性期・リハビリテーション実習》</p> <p>ある学生の例</p> <p>1日目(実習病棟) 午前:学内オリエンテーション 午後:病棟・ICUオリエンテーション</p> <p>2日目(実習病棟) 午前:受け持ち患者の紹介(情報収集) 午後:患者情報収集を実施し患者全体像の把握・ミニカンファレンス(患者情報の整理)</p> <p>3日目(実習病棟) 午前:受け持ち患者の術前ケア、手術室申し送り</p>			

午後：受け持ち患者の術直後ケア・学内実習（病態関連図）

4日目（実習病棟・ICU）

午前：受け持ち患者の術後ケア（術後1日目のケア）

午後：受け持ち患者の術後ケア・ミニカンファレンス（看護問題のアセスメント）

5日目（実習病棟・学内）

午前：受け持ち患者の術後ケア

午後：学内で個別指導（看護計画の立案）

6日目（実習病棟）

午前：病棟カンファレンス（受け持ち患者の看護計画の発表）

午後：受け持ち患者の看護過程に基づいた患者ケアの実施

7日目（実習病棟）

午前：受け持ち患者の看護過程に基づいた患者ケアの実施

午後：受け持ち患者の看護過程に基づいた患者ケアの実施・ミニカンファレンス（看護計画の修正）

8日目（手術室）

午前：手術室見学実習

午後：手術室見学実習

9日目（実習病棟・学内）

午前：レポート作成

午後：学内で終了カンファレンス

10日目（学内）

午前：学生・教員間最終実習評価

午後：記録物の整理

【自学自習のためのアドバイス】

- ・1か月前に事前学習の課題を提示するので、調べて整理する。（6時間）
- ・受け持ち予定患者に関して、疾患・病態・術式・看護ポイントについて調べて整理し、関連図を作成する。（4時間）
- ・1週目は行動計画の作成、日々の記録の記載、データベース・重症記録・看護計画を作成する。（10時間）
- ・2週目は行動計画の作成、日々の記録の記載、看護計画の修正、小レポートを作成する。（10時間）

《生活継続実習》

1. 実習場所 高松市内の高齢者通いの場など
2. 実習時間 通いの場 9:00～15:00 学内16:00～18:00
3. 実習期間 成人看護学継続看護実習の次週、1週間とする。
4. 実習グループ 各グループ3～4名
5. 引率教員 地域看護学2名，在宅看護学2名

実習日程

1日目 オリエンテーション

2日目 臨地実習

3日目 臨地実習

4日目 臨地実習

5日目 学内実習

教科書・参考書等

成人看護学に関連する全ての科目の教科書・推薦参考書

オフィスアワー 随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義資料を見直しておいてください。

実習開始する前週に受け持ちが決定しますので、疾患・病態・関連図・看護について事前学習を追加しておいてください。

教員の実務経験との関連

教員全員が外科病棟の勤務経験があります。周手術期患者の看護に携わってきた実務経験をもとに実習指導を行います。さらに病棟の看護師長や看護師より指導を受けます。

ナンバリングコード B3NRS-bcaM-20-Pg 授業科目名 (時間割コード: 762358) 成人慢性期・終末期看護実習 Nursing practice for adult patients in the chronic and terminal stages	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び学科 3～3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcaM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pg	単位数 3	
担当教員名 清水 裕子, 上原 星奈, 金正 貴美	関連授業科目 成人看護学関連科目		
	履修推奨科目 成人看護学概論、成人慢性期終末期援助論		
学習時間 3単位(135時間) 病棟実習時間 8時～15時 15日間 自習時間(準備学習 20時間 + 事後学習 20時間)			
授業の概要 成人慢性期・終末期看護実習では、臨床において成人看護学ならび関連領域科目で学んだことを基盤に、理論、知識、技術を適用して、成人慢性期・終末期にある患者とその家族を多面的、総合的な理解すると共に、対象の特性に応じた個別的な看護過程を展開する能力を養う。さらに、それらの体験を通して、学生個々の看護観を培い、看護者及び人間としての成長・発達を促進する。			
授業の目的 成人慢性期援助論、成人終末期援助論の学習をとおして学んだこと際確認し、治療、療養過程にある患者に対して看護を提供し、看護実践力を学習することが目的である。			
到達目標			
1) 慢性期にある患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的特性を理解し、看護の必要性を説明できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 2) 永続的な自己管理確立の視点から、疾病・病状の進行・悪化の予防、ならびに日常生活の維持・安定のための患者とその家族の目標が設定できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 3) 患者とその家族のセルフケア能力を高めることができるよう支援できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 4) 退院後に地域社会において、継続的な治療・看護ができるように、患者とその家族に社会資源とその活用方法について助言し、連絡調整の活動に参加・検討できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 5) 終末期にある患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的・スピリチュアルな苦痛とそれに伴うニーズを理解できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 6) 患者のその人らしさの尊重、ならびに人生の最後を迎える患者とその家族の達成感、安寧、QOL の視点から、患者とその家族の希望を見出し看護目標を設定できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 7) 患者とその家族の身体的・精神心理的・社会経済的・スピリチュアルな苦痛を緩和できる看護ケアを実施できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 8) 患者の希望やニーズを取り入れた日常生活の援助ができる。(DP コード a:言語運用能力に対応) 9) 疾病の慢性的段階にある人が家族とともに地域社会での療養と健康的な生活を安心して営めるよう、看護過程の思考を用いて、個性を尊重した生活支援が立案できることを目的とする。			
成績評価の方法と基準 実習参加度、実施内容、成果物の評価資料についての学習目標の到達度自己評価を参考にしつつ評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
1日目 午前 学内オリエンテーション、N-OSCEの実施(市民模擬患者参加型臨床看護技術評価) 午後 病棟オリエンテーション、患者情報収集			
2日目 病棟実習にて患者情報を収集し、患者全体像を考える			
3日目 病棟実習にて収集した患者情報より関連図を作成し、担当看護師より追加情報を収集する			
4日目 病棟実習にて患者情報を収集し、患者の看護問題を立案する			
5日目 午前 病棟実習 午後 学内実習 中間評価面接、関連図を用いたピアレビューを行う			
6日目 受け持ち患者の看護過程に基づいた患者ケアの実施 臨床看護師の看取りの経験を聞く			
7日目 受け持ち患者の看護過程に基づいた患者ケアの実施			
8日目 受け持ち患者の看護過程に基づいた患者ケアの実施			
9日目 午前 受け持ち患者の看護過程に基づいた患者ケアの実施 午後病棟でのカンファレンス(実習の学び、受け持ち患者の事例検討)			
10日目 午前 最終評価面接 午後 看護過程、レポート作成			
11日目 血液浄化療法室にてセルフマネジメントを支援する方法の学習 学内演習〔糖尿病をもつ人に対する療養支援技術(問診、フィジカルアセスメント)、モデル人形を用いた観察技術(化学療法を受ける患者の観察)〕			
12日目 外来診療科、放射線部にて療養指導の見学(アセスメント、看護問題・計画の立案)			

13日目 緩和ケアセンターにて多職種ミーティングや回診の見学、倫理的課題と看護の役割の明確化
14日目 総合地域医療連携センターにて退院支援・退院調整の見学、入院前支援の見学
15日目 午前 学びの発表カンファレンス
午後 レポート作成

【自己学習へのアドバイス】

事前学習、自己学習など、アドバイスや詳細は、教育要項別冊実習の手引きを参照すること。

事前学習は夏季休暇の15時間、事後学習は春季休暇の15時間にそれぞれに実習病棟で主に必要な病態生理、治療、基礎看護技術を調べ、ノートにまとめる。

Covid-19対応としては、医学部附属病院の実習水準の指示の元で実施する。
基本的には、学内において、対面で実施する。詳細は、実習の手引き参照。

教科書・参考書等

成人看護学の講義および演習で使用した教科書、参考図書

オフィスアワー 実習日、随時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習前に到達目標をよく読み復習し、提示された事前学習および演習を十分行った上で、実習に臨むことを期待します。病態生理、治療、看護に関するレポートの作成を求めます。

教員の実務経験との関連

がん看護、難病などの慢性疾患の臨床、在宅看護での経験をもとに授業を行います。

ナンバリングコード B3NRS-cdbM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 762395) 老年生活援助実習 Geriatric life aid practicum	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び学科 3～3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cdbM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪, 西村 美穂, 森河 佑季	関連授業科目 統合実習 老年実習		
	履修推奨科目 老年看護学概論, 老年援助論, 疾病論Ⅱ, 老年保健 対象論		
学習時間	臨地実習+学内実習(2週間90時間)+自学自習(事前学習15時間 事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>老年生活援助実習では、既習の老年看護学概論・疾病論Ⅱ・老年保健対象論・老年援助論等で得た知識や技術を統合し、老年期にある高齢者やその家族を全人的に捉え、ニーズ・課題や援助を考察する。また、高齢者や家族をとりまく諸制度、保健・医療・福祉の役割と連携の実際を理解する。そして、介護保険下施設での実習で高齢者（多くは認知症のある方）や家族の問題をアセスメントし、高齢者やその家族のQOLを支える援助を実践する。そして、援助の評価を繰り返し行いながら援助することで、制度や多職種連携において高齢者やその家族の状況に応じた個別性のある援助を理解する。</p>			
授業の目的			
<p>老年期にある人々の特徴を理解し、生活の質の向上を目指した看護や介護の必要性を判断し、老年看護学の基本的能力を習得する。また、老年期にある人々の保健・医療・福祉の連携について理解する。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の施設（特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、グループホームなど）における高齢者の生活状況について述べるができる。（DPの知識・理解に対応） 2. 老化現象や疾病が高齢者に及ぼしている影響について説明できる。（DPの知識・理解に対応） 3. 高齢者の施設で生活する、または通所する高齢者の看護に関わる問題について、説明できる。（DPの問題解決・課題探求能力に対応） 4. 高齢者の施設で生活する、または通所する高齢者を抱える家族の問題について述べるができる。（DPの問題解決・課題探求能力に対応） 5. 高齢者やその家族の個性を尊重した援助について考えることができる。（DPの問題解決・課題探求能力に対応） 6. 高齢者や家族に対して、倫理的配慮に基づいた対応ができる。（DPの倫理観・社会的責任に対応） 7. 高齢者の施設で働いている様々な職種の人々が連携して、どのような高齢者ケアを行っているのかを述べるができる。（DPの言語運用能力と地域理解に対応） 8. 施設・行政・病院・地域ボランティアとの連携を述べるができる。（DPの地域理解に対応） 9. 高齢者の施設の役割や機能について述べるができる。（DPの問題解決・課題探求能力に対応） 10. 老年看護、老年観について自己の考えを述べるができる。（DPの言語運用能力と問題解決・課題探求能力に対応） 			
成績評価の方法と基準			
出席状況、実習態度、実習記録、レポートなどを総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業はハイブリッド等にて実施予定です。			
<p>実習施設は特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、グループホームです。主に認知症のある高齢者や障害のある高齢者を受け持ち、高齢者の認知症ケアや日常生活の援助を行います。講義で学んだ内容を復習して実習に臨んでください。</p> <p>実習方法の詳細については、「看護学実習の手引き」を参照してください。</p>			
<p>【自学自習のためのアドバイス】 事前・事後学習は教員より適時指示します（事前学習15時間+事後学習15時間）</p>			
教科書・参考書等			
<p>山本美輪, これからの高齢者ケア ～知る・識る・共感する～, シービーアール, 2018. 篠崎人理: ケアワーカーが語るバリデーション, 筒井書房, 2006. 正木治恵, 真田弘美編集: 看護テキストNice老年看護学概論「老いを生きる」を支えることは, 南江堂, 2017. 真田弘美, 正木治恵編集: 看護テキストNice老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する, 南江堂, 2017.</p>			

水野裕：実践パーソン・センタード・ケア，ワールドプランニング，2008.

奥宮暁子，安川揚子，木島輝美，武田かおり：

オフィスアワー 前期・月曜日 17時00分～18時00分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

認知症の高齢者と関わらせていただくことができます。“その人らしさ”とは？について考察し、個別性を尊重する看護を学ぶ機会としてください。

教員の実務経験との関連

高齢者の多い内科・外科・整形外科・泌尿器科病棟と認知症治療専門棟での看護経験があり、認知症ケア上級専門士、認知症予防専門士指導者の資格を持つ教員が、高齢者や家族との関わりや在宅や施設での看護について、高齢者の保健・医療・福祉の現状を踏まえて高齢者と家族への看護援助について指導します。また介護保険下施設の看護師や指導者より地域連携や介護保険下でのサービスにおける高齢者看護やケアの実際に関する指導があります。

ナンバリングコード B3NRS-cdbM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 762405) 老年看護学実習 Gerontological Nursing Practicum	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び学科 3～3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cdbM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 山本 美輪, 西村 美穂, 森河 佑季	関連授業科目 統合実習 老年生活援助実習 履修推奨科目 老年看護学概論、老年援助論、老年疾病論		
学習時間	臨地実習+学内実習(2週間90時間)+自学自習(事前学習15時間 事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>老年看護学実習では、既習の老年看護学概論・疾病論Ⅱ・老年保健対象論・老年援助論等で得た知識や技術を統合し、人生のまとめの時期にある高齢者や家族を全人的に捉え、援助することを目的とする。</p> <p>実際に、実習で出会う高齢者や家族の入院や退院に伴う看護上の問題を見極め、その人らしい入院生活、退院生活を送れるように援助を実践する。そして、援助の評価を繰り返し行い、高齢者や家族の状況に応じた個別性のある援助を実践する。</p>			
授業の目的			
<p>疾病や機能障害のある高齢者とその家族を、発達段階、老化現象、対象者の個別性等も踏まえて総合的に理解する。また、高齢者とその家族の対象理解に基づいた問題を明らかにし、適応を促し、継続看護を踏まえて援助を行う。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の発達段階や老化現象の影響について述べるができる。(DP の言語運用能力と知識・理解に対応) 2. 高齢者の疾病や治療の概略を説明できる。(DP の知識・理解に対応) 3. 入院前、退院後の高齢者やその家族の状況について述べるができる。(DP の問題解決・課題探求能力に対応) 4. 入院時から退院に向けて、高齢者やその家族の適応に関わる問題について説明できる。(DP の地域理解に対応) 5. 高齢者やその家族の適応に向けて、その人の人生のあり方を尊重した援助について考えることができる。(DP の問題解決・課題探求能力に対応) 6. 地域で高齢者が暮らし続けるための看護師やMSWの関わりを述べるができる。(DP の地域理解に対応) 7. 地域包括ケアを踏まえた高齢者に対する医療・保健・福祉の連携について述べるができる。(DP の地域理解に対応) 8. 高齢者や家族に対して、倫理的配慮に基づいた対応ができる。(DP の倫理観・社会的責任に対応) 9. 老年観について述べるができる。(DP の言語運用能力と問題解決・課題探求能力に対応) 			
成績評価の方法と基準			
出席状況、実習態度、実習記録、レポートなどを総合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業はハイブリッド等にて実施予定です。			
<p>実習施設は香川大学医学部附属病院です。疾患があり入院加療が必要な高齢者を受け持ち、その人らしい生活を送れるように、継続看護の視点を踏まえて、入院中の看護を行います。講義で学んだ内容を復習して実習に臨んでください。</p> <p>実習方法の詳細については、「看護学実習の手引き」を参照してください。</p>			
<p>【自学自習のためのアドバイス】</p> <p>事前・事後学習は教員より適時指示します(事前学習15時間+事後学習15時間)</p>			
教科書・参考書等			
山本美輪, これからの高齢者ケア ～知る・識る・共感する～, シービーアール, 2018.			
正木治恵, 真田弘美編集: 看護テキストNice老年看護学概論「老いを生きる」を支えることは, 南江堂, 2017.			
真田弘美, 正木治恵編集: 看護テキストNice老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する, 南江堂, 2017.			
NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会: 医療福祉総合ガイドブック, 医学書院, 2011.			
他書は随時指示する。			
その他、既習の老年看護学及び関連分野の教科書・推薦参考書。			
オフィスアワー 後期・月曜日 17時00分～ 18時00分			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

老化や疾病の影響を受けながら治療を受けている高齢者の特徴をよく捉え、エビデンスに基づきかつ“その人らしさ”を尊重する個別性のある援助を考察してください。

教員の実務経験との関連

高齢者の多い内科・外科・整形外科・泌尿器科病棟と認知症治療専門棟での看護経験があり、認知症ケア上級専門士、認知症予防専門士指導者の資格を持つ教員が、高齢者や家族との関わりや在宅や施設での看護について、高齢者の保健・医療・福祉の現状を踏まえて高齢者と家族への看護援助について指導します。また大学附属病院の看護師長や看護師の指導者より院内の高齢者看護やケアの実際に関する指導があります。

ナンバリングコード B3NRS-cdbM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 762450) 小児看護学実習 Clinical Practice in Pediatric Nursing	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 cdbM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 谷本 公重, 徳地 暢子	関連授業科目	小児看護学概論、疾病論Ⅲ、小児保健対象論、小児 援助論	
	履修推奨科目	小児看護学概論、疾病論Ⅲ、小児保健対象論、小児 援助論	
学習時間	臨地実習+学内実習(2週間90時間)+自学自習(準備学習20時間+事後学習40時間)		
授業の概要			
小児病棟と小児科外来で2週間実施する本実習では、科学的根拠に基づき、小児の健康障害に伴う成長発達上の問題や生活への影響をアセスメントできる能力と看護診断力を養い、看護実践能力の育成をねらいとしています。そこで、健康障害が及ぼす小児とその家族に対する、現在および将来の看護問題を包括的に理解していきます。そして、看護問題に基づいて成長発達に応じた適切な看護の計画、実践、評価を行います。それらを通して、小児看護実践に関する基礎的な知識や技術、態度と思考プロセスを身につけるとともに、医療チームの一員として、小児看護の役割と責任についての理解を深めていきます。			
授業の目的			
本実習は、小児と家族への基礎的看護実践能力と問題解決能力の育成を目的としています。講義で得た小児看護の基礎的知識と臨床での応用技術を統合し、医療チームの一員として、小児看護の対象への成長発達と健康レベルに応じた、個別看護を実践するために必要な知識・技術・態度を身につけます。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療チームの一員として、倫理的配慮に基づいた適切なコミュニケーションをとることができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 2. 小児看護における感染防止の必要性を理解し、実践できる (DPの「知識・理解」に対応) 3. 小児の安全を守るために事故防止の援助ができる (DPの「知識・理解」に対応) 4. 入院が必要な小児看護の対象に対して、成長発達を踏まえた健康障害による問題をアセスメントできる (DPの「知識・理解」に対応) 5. 入院が必要な小児看護の対象に対して、看護診断に基づいた看護計画立案・実践・評価ができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 小児外来の役割と機能および看護活動の実際を説明できる (DPの「知識・理解」に対応) 7. 小児や家族に対する倫理的配慮に基づいた看護が実践できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 8. 小児と家族の個人情報保護のための行動ができる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応) 9. 実習での学びやこれまでの知識を統合して、小児看護に対する自己の考えを述べるができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
実習態度、カンファレンスにおける発表及び討議、実習記録及び実習到達度により評価します。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 【授業及び学修の方法】 実習場所は香川大学医学部附属病院小児病棟および小児科外来です。 病棟では、入院中の小児を受け持ち、看護過程に基づいた看護実践を行い、健康レベルと成長発達を含めた入院児の個別看護について学びます。外来では、見学とともに身体計測など小児看護特有の技術経験を通して、小児科外来看護の機能と役割について学びます。 実習方法の詳細については「看護学実習の手引」を参照してください。 この科目は全回対面での実習を行います。なお状況によっては、全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【自学自習へのアドバイス】 事前学習は、7月上旬までに、掲示で知らせます。小児看護学実習の前週までに指定された場所に提出すること。(20時間) 小児看護学実習中は日々の経験について、その要点を記録にまとめる。(30時間) 終了時、それまでの経験とこれまでの知識を統合し、小児看護に対する自己の考えを考察する。(10時間)			
教科書・参考書等			
【教科書(必携)】 以下の2冊の教科書は、1年次から各学年の小児看護学の講義において使用します。 二宮啓子, 今野美紀編集: 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 改定第4版, 南江堂, 2022年, ¥3,600+税			

二宮啓子, 今野美紀編集: 小児看護学Ⅱ 小児看護技術 改定第4版, 南江堂, 2022年, ¥3,400+税

【参考書】

石黒彩子, 浅野みどり編集: 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図第2版, 医学書院, 2012年, ¥3,800+税

【その他資料】

疾病論Ⅲも含めた小児看護関連講義での配布資料も参考にしてください。その他、適宜配布、紹介します。

オフィスアワー 金曜日13時から15時

看護学科教育研究棟 谷本 4階 414号研究室

徳地 4階 413号研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

小児看護学実習の詳細については、事前で開催される実習オリエンテーションに参加するとともに、「看護学実習の手引」を参照してください。

感染防止の観点から、学生自身の感染症（B型肝炎，風疹，麻疹，水痘，ムンプス等）の抗体の有無を事前に把握するとともに、インフルエンザワクチン接種をするよう努め、必要な感染症対策を行ってください。

教員の実務経験との関連

教員は、医療機関、小児関連病棟における実践経験を持ち、また小児の看護に関連する研究を行っている。それらをもとに子どもと家族の最善の利益に焦点をあてた授業を展開する。

ナンバリングコード B3NRS-bcdM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 762510) 母性看護学実習 Maternal-Child Clinical Practicum	科目区分	時間割 後期集中	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 川田 紀美子, 石上 悦子, 野原 留 美, 谷上 友理	関連授業科目	母性看護学概論, 母性疾病論, 母性保健対象論, 母 性援助論	
	履修推奨科目	母性看護学概論, 母性疾病論, 母性保健対象論, 母 性援助論	
学習時間 実習360分 × 10 + 自学実習(準備学習15時間 + 事後学習15時間) 詳細については「看護学実習の手引き-母性看護学実習」を参照.			
授業の概要 周産期にある女性および家族の看護を体験し, 既習の母性看護学の知識・技術, 並びに関連分野の知識を統合させ, 母性のwell-beingがより望ましくwellness型で発達段階へ移行するような看護実践力を学習する.			
授業の目的 1. リプロダクティブヘルスの観点から, 周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけるために, 対象の健康レベルの変化や内的・外的刺激への適応レベルをwellnessな視点からアセスメントする 2. 母性看護学の意義や理論と臨床地での実習体験を統合するために, ロイ適応看護モデルとwellness型看護診断に基づくマタニティ診断をクリティカルに用いて看護過程を展開し, 効果的な看護介入を実践する 3. 受け持ち対象をとおして, 倫理的観点に基づいた状況判断や実践, および倫理的責任感について理解する			
到達目標			
1. 周産期にある母性および新生児の生理的変化と病態生理を関連づけ, 母と子の健康診査に参加できる. 2. wellness な視点から周産期にある母性および新生児の健康レベルを明確にし, 健康維持および増進を促す看護介入ができる. 3. 母子関係および家族関係の成立状況や心理的变化を観察し, 看護介入が実施できる. 4. 母子保健医療チームの一員として, 母子保健の関連法規, および他職種の役割, 他職種との相互連携について理解できる. 5. 受け持ち対象をとおして, 人格の尊重, 人間としての尊厳, プライバシーの擁護, 自己決定権の擁護など, 倫理的観点に基づいて行動できる. (以上、DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)			
成績評価の方法と基準 事前学習課題レポート (10%) 出席状況、実習への意欲と態度 (50%) 看護過程の展開 (15%) 母性看護基本技術 (5%) 実習記録 (20%) .			
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業および学習のためのアドバイス】 詳細については、「看護学実習の手引き-母性看護学実習」を参照。 本実習は基本的には対面形式で実施予定。 【自学自習に向けてのアドバイス】 母性看護学の関連科目で学習した内容について、特に正常妊娠・分娩・産褥経過と正常新生児の特徴等についてまとめておく (15時間) これまで学習した内容をもとに、事前学習課題についてレポートにまとめ、実習初日に提出する。(15時間)			
教科書・参考書等 母性看護学概論, 母性保健対象論, 母性援助論, 母性疾病論で提示した資料や参考書を効果的に活用する。関連図書や他領域の文献を参照することが望ましい。 教科書 1. 森 恵美, 高橋真理他: 系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 (第13版), 医学書院, 2016. 2. 日本助産診断・実践研究会編著: マタニティ診断ガイドブック (第5版) 医学書院, 2015. 3. 内藤直子・下村明子 編著: 改訂版あっそうか! ロイとゴードンで母性小児看護過程11事例, ふくろう出版, 2014. 4. 石村由利子編集. 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版. 医学書院. 2020. 参考書 1. 村本淳子, 高橋真理: 周産期ナーシング 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2011.			

2. 高橋真理, 村本淳子: 女性のライフサイクルとナーシング 第2版, ヌーヴェルヒロカワ, 2011.
3. メディックメディア 病気がみえる 産科 第4版
その他, 適時提示する

オフィスアワー

実習期間中, 毎日16:00 ~ 17:00 看護学科教育研究棟4階 川田研究室, 石上研究室 看護学科教育研究棟2階
野原研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習開始後に受け持ち事例が決定するため, 事前学習課題を十分に理解し, 対象の時期に応じた看護が展開できるようにして実習に臨む.

教員の実務経験との関連

助産師の資格を有し, 大学病院等の臨床における勤務経験をもつ. 長年の妊産褥婦及び新生児の実務経験をもとに実習指導を行う.

ナンバリングコード B3NRS-acdM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 762673) 在宅看護学実習 Clinical practice in home care nursing	科目区分	時間割 後期末定	対象年次及び学科 3~3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 acdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 松本 啓子, 林 信平	関連授業科目 在宅看護学概論 在宅対象論 在宅援助論 家族 看護学		
	履修推奨科目 人間理解に関する一般教養科目		
学習時間 実習45時間×2週+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
特定の訪問看護事業所に学生を配置し、訪問看護師指導の下に在宅療養者への看護を体験するよう指導する。学生が療養者の病状や受けている治療を把握したうえで、療養者とその家族の置かれている生活の現状を理解するよう指導する。また、居宅における看護の内容を理解し、看護技術の習得を指導する。療養者の生活の質を向上するために他職種とともにチームアプローチを行う必要性に気付き、その制度や方法を理解するよう指導する。			
授業の目的			
学生は、在宅療養者およびその家族の療養生活の理解を深め、療養者とその家族のその人らしい生活や生き方を支援するために必要な看護を考える。また、療養者の病態を理解し、病態に則した医療的ケアと、家族の状況に応じた支援の在り方を考え、基礎的な看護技術が展開できる。さらに、療養者の生活を維持するために、療養者と家族に提供されている支援の実際から療養者支援の制度と連携の方法を学び、保健・医療・福祉の包括的支援の必要性と連携の重要性を学ぶ。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 療養者と家族の生活特性およびニーズを理解し、居宅において生活を継続していくために必要な看護を考えることができる (DP の問題解決・課題探求能力に対応)。 療養者の病態を理解し、それに応じた医療的ケアと家族の状況に応じた支援の在り方を考え、居宅において基礎的な看護技術が展開できる (DP の言語運用能力に対応)。 支援の実際から、療養者支援の制度と連携の方法を学び、保健・医療・福祉の包括的支援の必要性と連携の重要性を理解することができる (DP の問題解決・課題探求能力に対応)。 在宅療養者および家族と信頼関係を作るために、実習生として良識ある態度やふるまいができる (DP の言語運用能力に対応)。 介護保険制度や医療保険制度、訪問看護制度に関して説明できる (DP の言語運用能力に対応)。 実習全体を通して倫理的課題を含めた、在宅看護の特徴を捉えることができる (DP の倫理観・社会的責任に対応)。 			
成績評価の方法と基準			
出席状況40%、療養者のアセスメントおよび看護計画の適切さ20%、学内カンファレンスの建設的な発言10%、実習態度10%、実習記録の内容20%から総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】 訪問看護事業所(訪問看護ステーション)にて、在宅療養者を1名担当として受け持ち、療養者を中心にその家族や社会資源等の情報収集やアセスメントを通して看護過程の展開を行う。			
【授業及び学習の方法】 看護学実習の手引きに準じ、各実習機関の状況に応じて実習する。 在宅看護学の特徴を最も有する訪問看護事業所において、1週45時間の実習を2週間行う。			
【自学自習のためのアドバイス】 2週間を通して			
<ul style="list-style-type: none"> 在宅看護にかかわる法令・制度 (5時間) 介護保険制度と医療保険制度において訪問看護を利用する方法 (5時間) 在宅療養者に多い疾病の理解 (5時間) ヘルスアセスメント (5時間) 障害高齢者の日常生活自立度・認知症高齢者の日常生活自立度 (5時間) 在宅で行われる主な医療処置の知識とその技術 (5時間) <ul style="list-style-type: none"> 栄養管理(経腸栄養法、胃ろう管理、中心静脈栄養法、栄養評価) 呼吸管理(在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、気切部の管理) 排泄管理(尿道留置カテーテル、ストーマケア、 排便促進のための腹部マッサージ、温罨法、浣腸・摘便の方法) 褥瘡の予防とケア(褥瘡リスクのアセスメント方法、 褥瘡治癒過程のアセスメント方法) 			

在宅における感染予防（スタンダードプリコーション）

なお、授業は実習形式で行う予定です。状況によっては、課題演習等への変更もありますので、事前に、担当教員からのお知らせ等の確認をするようにしてください。
基本的には対面にて実施予定です。

教科書・参考書等

在宅看護学概論、在宅対象論、家族看護学、在宅援助論で使用した教科書及び紹介した参考書

オフィスアワー 実習期間中は、学内カンファレンス時、または実習施設を巡回時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

体調を整え、実習を休まないように注意。
実習内容や事前学習はオリエンテーション時に説明する。
実習先から提示された訪問予定者の疾患、医療処置に関して事前学習を行い、不明な点は質問や確認を積極的に行うこと。

教員の実務経験との関連

病棟での臨床経験を基盤として、在宅療養者や彼らを取り巻く家族看護的視点からの教育経験、訪問看護に関する専門職能としての活動等を通して、多側面からの指導を行います。

ナンバリングコード B3NRS-ebcM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 762650) 精神看護学実習 Psychiatric Nursing Practice	科目区分	時間割 後期未定	対象年次及び学科 3～3 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 ebcM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美, 藏本 綾	関連授業科目 精神看護学概論、精神保健対象論、精神援助論、疾 病論Ⅳ		
	履修推奨科目		
学習時間	実習90時間(2週間) + 自学自習(事前学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
精神看護学に関する講義及び演習等で学んだ知識と技術を統合し、精神の健康障害を持つ対象の回復過程に添ったセルフケア看護の基礎実践力を養う。精神の健康障害をもつ対象との関わりにおける看護場面の振り返りを行いながら、関係形成をはかるとともに、多角的な情報を統合して対象への理解を深めていく。また、対象との関係性を活用したコミュニケーション技法を中心とする精神看護過程の展開を行う。			
授業の目的			
精神看護学の知識や技術・技法を、実習の場で個別の対象に適用させ、理論と実践の統合を図る。精神の健康障害を持つ対象の特徴をふまえ、患者-看護者間の関係形成と全体像の形成を循環的に行い、段階的に発展させながら対象を理解する過程を学ぶ。その際、過去・現在・未来の時間軸と、家族・地域社会とのつながりの中での生活像をつくりながら情報を収集し、看護の視点から科学的思考によるアセスメントを行い、統合的な全体像の形成を目指す。また、看護場面を振り返り、自己の関わりの意味や対象との心理的距離などについて、自己洞察、自己省察の機会とする。これらの体験的な学習と精神保健福祉制度の現状と課題をふまえ、対象が望む地域生活を送るための看護のあり方と役割について考察する。			
到達目標			
I. 一般目標			
1. 精神の健康障害を持つ対象を全人的に理解し、回復過程に沿ったセルフケア看護の実践力を養う。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」に対応)			
2. 対象との援助関係の形成を図り、看護場面の再構成による振り返りを行うことで、治療的関係のプロセスについて学ぶ。(DPの「言語運用能力」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
3. 患者-看護者関係を基盤とする対象との対話を踏まえた精神看護過程を展開し、看護者としての自己の成長発達課題を明らかにする。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
II. 行動目標			
1. 生物学的・心理学的・社会的側面の視点から、対象の全体像を理解できる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」に対応)			
1) 精神の健康障害が日常生活や対人関係にもたらす影響を述べるができる。			
2) 対象の生活し、家族・社会的背景を理解し、精神症状との関連を検討できる。			
3) 対象の状態像の理解に向けて、多角的な情報を統合していくことができる。			
4) 治療内容・方針とその看護について理解し、必要な観察ができる。			
5) 対象の強みや望むことを把握し、対象の抱く自己概念に目を向けることができる。			
2. オレム・アンダーウッド理論を用いて、精神看護過程を展開できる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」に対応)			
1) 基本的条件付け要因に関する情報を収集し、対象を理解することができる。			
2) 普遍的セルフケア要件についてアセスメントできる。			
3) セルフケアに影響する要因を総合的にアセスメントし、援助内容を検討できる。			
4) 治療的関係を発展させながら、セルフケア看護アプローチを実践できる。			
5) 精神の健康障害をもつ人との関わりにおける自己の看護実践の意味を考察できる。			
3. 自己洞察を行い、患者-看護者関係を発展させることができる。(DPの「言語運用能力」、「問題解決・課題探求能力」、「倫理観・社会的責任」に対応)			
1) 適切な看護場面を選択し、的確に看護場面を再構成し、自己評価できる。			
2) 対象との心理的距離をはかりつつ、対象との援助関係の形成に向けたアプローチができる。			
3) 事故の関わりが対象に与える影響や相互作用の過程を分析できる。			
4) 対象との関わりを省察し、自己の価値観や対人傾向について考察できる。			
5) 看護者としての自己のあり方を見つめ、自己の成長発達課題を検討できる。			
4. 治療環境や人的資源、社会資源について理解し、対象中心のチームケアについて学ぶことができる。(DPの「知識・理解」、「問題解決・課題探求能力」、「地域理解」に対応)			
1) 精神科における治療環境の機能と構造を理解できる。			
2) 精神看護における倫理的問題に関して、特に対象の自己決定権や行動制限に着目し、考察できる。			
3) 多職種共同の意義や、多職種間での看護師の役割を述べるができる。			
4) 地域での保健医療福祉専門職や社会資源について、それぞれの役割や意義を述べるができる。			

- 5) その人らしい地域生活を支えるための援助と課題を考えることができる。
5. 看護学生としてふさわしい態度で実習に臨み、対象に関わることができる。(DPの「倫理観・社会的責任」に対応)
- 1) 対象を尊重し、理解を深める姿勢をもつことができる(個人情報の保護を含む)。
 - 2) 看護者として誠実に、適切な機会をとらえて対象と関わることができる。
 - 3) カンファレンスに主体的に臨み、問題提起ができる。
 - 4) 自己の意見を積極的に表明するとともに多角的な観点から対象理解に努めることができる。
 - 5) 精神看護への関心と理解を深め、自らの看護観について考察できる。

成績評価の方法と基準

実習内容、実習記録、課題レポート、カンファレンスへの参加、実習態度、出席状況などから、総合的に評価する。

授業計画並びに授業及び学習の方法

この授業は対面にて実施予定です。

2週間の実習期間に、精神科病棟と地域の生活支援事業所において、精神の健康障害を持つ人と関わり、状態像やセルフケアのアセスメントを行うとともに、自己との関係性に応じた日常生活の援助、レクリエーション活動、治療的会話などを行う。

病棟実習では、実習期間を通して基本的な治療方針や看護チームの関わりについて理解する。また、看護場面の再構成による振り返りや実習指導者によるコメント、カンファレンス、面接及び実習記録を通して、対象理解を深め、全体像のアセスメントを行う。これらのプロセスを日々の実習目標や計画に反映させ、看護学生としての自己と受け持ち患者との関係性の中で展開できるアプローチ方法を実践し、評価する。

地域の生活支援事業所では、活動や作業を共に行いながら、地域で生活する精神障害者への理解を深める。

状況により、学内演習と臨地実習を併用するが、詳細な実習方法、内容については後日提示する。

【自学自習のためのアドバイス】

精神看護学概論、精神保健対象論、精神援助論、疾病論IVにおける学習内容の復習に加え、これまでの他者との関係形成における自己の傾向を振り返り、自己の課題を踏まえた実習目標を持って臨むようにしましょう。実習前に事前学習として、主な疾患・障害・症状とその看護について、対象理解のための理論、治療法と看護について、精神障害者の生活支援システムについて、精神保健福祉法・障害者総合支援法について、などを学習・確認しておいてください。また、実習期間中に分からないことや追加で学習が必要な事項が出てくるとお思いますので、その時には適宜指示します。(事前学習・事後学習で計30時間)

教科書・参考書等

参考図書

- 1) 岩崎弥生編 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 メヂカルフレンド社
- 2) 岩崎弥生編 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社
- 3) 山本勝則他編著『看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術』メヂカルフレンド社

オフィスアワー 木曜日 17:00~18:00 6階(616) 渡邊研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・精神看護学実習においては、精神看護学概論、精神保健対象論、精神援助論、疾病論IVにおける学習内容の復習に加え、これまでの他者との関係形成における自己の傾向を振り返り、自己の課題を踏まえた実習目標を持って臨むことが期待される。

・また、相手の立場に身を置いた理解を目指すことから、文学や芸術に触れることを通して、他者を理解するとはどういうことか、人間にとっての希望とは何かなど、自己の洞察とともに、考え続けてほしい。

教員の実務経験との関連

複数の精神科病棟や施設で、多くの精神保健医療従事者のご支援のもと、当事者と看護学生の中で展開される精神看護過程から学んできました。大きな変化や回復はみられなくとも、学生が社会資源となり、良い反応をもたらす看護場面は多々ありました。精神障害者を支える保健医療福祉の制度は徐々に改善していますが、周囲の人々との関係の中で生きづらさを抱え、精神科医療を必要とする人は増加傾向にあります。広い視野を持って現代社会における課題にも目を向け、精神看護観について考える機会となるよう、ともに学んでいきたいと思えます。(渡邊)

身体疾患だけでなく、精神疾患を有する方への看護も行ってきました。看護の基本的な姿勢に違いはありませんが、精神看護においては長い経過をたどっておられる方もおられるため、より丁寧に対象の背景に目を向ける必要があります。また、患者・利用者との関わりを通して自分を見つめ直すことも必要です。「地域移行」が国の施策として進められていることを鑑み、時代のニーズに沿った精神看護のあり方を一緒に考えていきたいと思えます。(蔵本)

ナンバリングコード B4NRS-cbdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762731) 看護マネジメント学 Nursing Management	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B4NRS	DP・提供部局 cbdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 前川 泰子, 川田 紀美子, 阿部 慈, 岡崎 廣子, 間嶋 由美子, 眞鍋 由紀 子, 武智 尚子, 前田智徳, 谷上友理	関連授業科目 看護と法規	履修推奨科目	
学習時間	講義90分×11回+演習90分×4回+ 自学自習(準備学習 40時間 + 事後学習 20時間)		
授業の概要			
本科目は、価値観の多様化・高度情報化時代にあつて、社会のニーズに応える看護を提供するために、看護管理の基礎およびマネジメントのあり方について講義する。			
授業の目的			
社会のニーズに応える看護を安全に提供するため、看護管理の基礎や医療の安全をはかるマネジメントのあり方について認識を深め、管理に関する理論や技法について理解する。また、現代社会の動向と医療政策の動向を理解し、地域・在宅・医療施設における看護管理の実際および課題について認識する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の本質と看護管理の過程について説明することができる。(DPの「知識・理解」に対応) 2. 資源としての物品, 予算, 時間, 情報のマネジメントについて説明することができる。(DPの「知識・理解」に対応) 3. 保健医療組織における看護の質保証プログラムについて説明することができる。(DPの「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 4. 医療の安全をはかるリスクマネジメントと医療事故防止のしくみについて説明することができる。(DPの「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応) 5. 看護管理における法的責任とリーダーシップ, ならびに倫理的問題について具体的に述べるすることができる。(DPの「倫理観・社会的責任」「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
以下をもとに総合的に評価する。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 (20%) 2. 課題学習への取り組みと発表内容 (40%) 3. 課題最終レポート (50%) 			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業内容			
この授業は、ハイブリッドにて実施予定です。			
第 1回 ガイダンス: 学習目的, 目標, 方法, 評価について 看護管理総論: 看護管理の本質, 看護管理過程について 第 2回 組織論: 組織とは, 組織管理の基本, 医療の安全と教育 第 3回 看護の質保証と資源管理: 物的資源, 予算, 時間, 情報の管理 第 4回 人材育成: 人的資源の活用と育成・人材育成プログラム 第 5回 リスクマネジメントと医療事故: 医療現場のリスクマネジメント 第 6回 看護における感染マネジメント: 臨床現場における感染看護 第7-8回 地域母子保健におけるマネジメント: 助産院を含めた複合施設を支える助産師の活動の実際とマネジメント 第 9回 法的責任とリーダーシップ: 看護管理における法的責任とリーダーシップ 第10回 倫理的諸問題: 医療・看護管理における倫理的諸問題 第11-14回 マネジメント課題について, 各グループで内容を設定し, 課題解決に向けての計画を立案する。 第15回 発表と質疑			
【自学実習に関するアドバイス】			
第 1回～ 10回 テキストの関係箇所と資料を確認する。(各回2～4時間)			
第11回～14回 各自選択したマネジメントの課題について資料収集しておく。(各回3～4時間)			
第15回 課題成果発表の準備をする。(3～4時間)			

教科書・参考書等

1. 上泉 和子／小山 秀夫／笥 淳夫／鄭 佳紅：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践（1）看護管理（第10版）医学書院，2018.

オフィスアワー 集中授業期間中の16時30分～18時30分 看護学科教育研究棟5階 前川研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

統合実習に向けて演習を計画するので，各自選択したマネジメントの課題を明確にして参加することが必要.

教員の実務経験との関連

看護師の資格を有し，大学病院等の臨床における看護管理者としての勤務経験をもつ．長年の実務および看護管理経験をもとに講義を行う．

ナンバリングコード B4NRS-cbdM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762840) 救急・災害看護 Emergency and Disaster Nursing	科目区分	時間割 後期前半木3	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B4NRS	DP・提供部局 cbdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 黒田 泰弘, 藤井 豊, 國方 美佐, 熊野 耕, 辻 京子, 西村 亜希子	関連授業科目 履修推奨科目 臨床高度実践技術論 クリティカルケア看護論		
学習時間	講義90分×4回+演習90分×4回+自学実習 (準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
救急・災害医療における専門医とエキスパートナースにより講義を受け、演習では救急及び災害時の援助技術を教授します。			
授業の目的			
1. 救急看護では病院、施設および地域、在宅などあらゆる看護場面で生じる対象者の急変に的確に対応ができる知識を身につける。 2. 災害看護では、災害に対する社会システムや災害時の看護職の役割を理解し、災害に対応できる知識を身につける。			
到達目標			
1. 救急医療における看護の機能・役割を説明できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 2. 一次救命処置であるBLSを実施できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 3. 二次救命処置であるACLSを説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 4. ICUにおける看護の特徴を説明することができる (DPの「知識・理解」に対応)。 5. 災害サイクルに応じた看護の機能・役割・活動を説明できる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応)。 6. 災害発生時の初動におけるDMATの活動内容を説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 7. 災害発生時の初動におけるトリアージの方法を説明できる (DPの「知識・理解」に対応)。 8. 被災した対象者のメンタルケアの重要性について述べるができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 9. 災害医療における看護の役割・機能を説明できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
筆記試験ならびに講義・演習時の態度・参加度によって評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
【授業計画】			
この授業は対面講義で行います。 コロナウイルス感染症の流行状況により、オンデマンド収録配信となる場合があります。			
第1回	ガイダンス 救急・災害医療における保健医療の役割 地域における災害看護	(藤井・辻・西村) (辻)	
第2回	救急医療における看護の役割・機能	(黒田)	
第3回	一次救命処置 (BLS)	(國方・熊野)	
第4回	二次救命処置 (ACLS)	(國方・熊野)	
第5回	災害医療活動の実際	(黒田)	
第6回	災害サイクルに応じた看護の機能・役割・活動 災害発生時の初動におけるトリアージの方法	(國方)	
第7回	ICUにおける看護	(熊野)	
第8回	まとめ・試験		
【自学・自習へのアドバイス】			
第1回	災害看護について、テキストの第I章、第III章、第VIII章を通読しておくこと。(5時間)		
第2回	救急医療について、これまでに学習した内容について復習しておくこと。(5時間)		
第3回～第4回	心肺蘇生法の基礎知識について、既習学習内容を復習しておくこと。(8時間)		
第5回	災害医療について、これまでに学習した内容について復習しておくこと。(4時間)		
第6回	災害看護について、テキストの第IV章、第V章、第VI章の内容を通読しておくこと。(4時間)		
第7回	救急看護、集中治療室における看護について、これまでに学習した内容を復習しておくこと。(4時間)		

教科書・参考書等**【教科書】**

酒井明子，他編：災害看護 改訂第3版，南江堂，2018年，2500円

【参考書】

小原真理子，他著：災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂2版，南山堂，2012年，2800円

酒井明子，他著：ナースング・グラフィカー看護の統合と実践③ 災害看護，メディカ出版，2017年，2800円

山勢博彰，他著：系統看護学講座 救急看護学，医学書院，2018年，2500円

浦田喜久子編：：系統看護学講座 災害看護学・国際看護学，医学書院，2019年，2400円

オフィスアワー 対面講義時は、本講義終了後～17:00 看護学科教育研究棟2階 216号室（藤井）

オンデマンド講義収録時は、WebClassにて指定のアドレスにメールすること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 詳細な講義日程、講義・演習室については、1階に掲示するので留意しておくこと。
2. 演習時の持参品・服装の指定をすることがある。

教員の実務経験との関連

国立大学医学部附属病院の救急・救命センターにて、救急専門医、救急災害認定看護師として勤務。その実務経験をもとに、講義・演習を行います。

ナンバリングコード B4NRS-bcdM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 762940) 統合実習 Integrated Bed Side Learning	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B4NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 2	
担当教員名 清水 裕子, 山本 美輪, 辻 京子, 谷本 公重, 渡邊 久美, 市原 多香子, 前川 泰子, 芳我 ちより, 松本 啓子, 石上 悦子, 金正 貴美, 西村 美穂, 森河 佑季, 大西 敏美, 鈴木 麻友, 武智 尚子, 上原 星奈, 藏本 綾, 林 信平, 尾崎 典子, 赤垣 衣美	関連授業科目 看護学に関する科目すべて 履修推奨科目 看護学に関する科目すべて		
学習時間 臨地8日間+学内2日間+自己学習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要 学生の個々の既習の知識、技術の修得状況を確認し、未経験の学習内容や修得水準の遅れ、学生の課題を考慮し、卒業時の到達段階に至るよう実習の到達水準、実習方法を助言し、学生が主体的な学習活動を行うよう支援する。具体的には、夜勤実習や多重業務の経験、ケアの優先度や看護過程の修正・評価能力を高めること、リーダーシップ教育として到達目標や評価項目の作成などの経験を重点的にアプローチする。			
授業の目的 既習の学習を振り返り、自己の能力・適性、志向に適合する看護分野を選択し、看護実践能力を高める。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの看護の課題や志向に基づいて看護領域を選択し、特性を述べることができる (DPの「知識・理解」「倫理観・社会的責任」に対応)。 2. これまでの実習を振り返り、看護実践上の課題を述べるができる (DPの「問題解決・課題探求能力」「倫理観・社会的責任」に対応)。 3. 選択した看護領域での実習にあたり、到達目標を具体的に述べるができる (DPの「知識・理解」「問題解決・課題探求能力」に対応)。 4. 自己の看護実践上の課題を解決するための方法を述べるができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 5. 自己の課題解決に向けて、実習計画を立案できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 6. 実習の成果を予測でき、評価項目を明示できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 7. 自己の課題の達成状況から実習計画を評価できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 8. 対象の経過に即した看護計画を立案・実施、評価・修正ができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 9. 実施した看護過程を評価できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 10. 複数の看護課題を調整し、個別性を考慮したケアが実施できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 11. 他のスタッフと業務調整を行い、ケアの優先度を述べることができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)。 12. 多職種と連携して看護を行い、看護の役割を説明できる (DPの「倫理観・社会的責任」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 実習態度、提出物を統合して評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 実習の手引き参照 実習場所は、臨地と学内を状況にあわせて組み合わせて実施する。 医学部附属病院でのCovid-19対応としては、実習水準の指示の元で実施する。 学外では、個々の臨地の判断に従う。			
【自己学習のアドバイス】 受けもち患者についての病態などの情報に関する文献調査、患者への看護を発展させるための実験、演習などの準備学習。(90時間)			

教科書・参考書等

既習時に紹介されたテキストや参考図書等

オフィスアワー 各指導教員の指導に従う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実習の手引き参照

教員の実務経験との関連

都立大学での統合実習カリキュラムの経験を元に、香川大学での平成24年度カリキュラムにおいて統合実習を開設した経験から授業を行います。

ナンバリングコード B3NRS-bcdM-20-Ex 授業科目名 (時間割コード: 762950) 臨床高度実践技術論 Clinical Nursing skills and Technique	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Ex	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 金正 貴美, 大西 敏 美, 國方 美佐, 堀 仁実, 安西 馨, 秋 山 恭子, 桑橋 美帆	関連授業科目 クリティカルケア看護論, 看護実践技術論(フィジ カル等), 看護学のすべての実習, 救急・災害看護		
	履修推奨科目 クリティカルケア看護論		
学習時間 講義・演習 5日間 9時～16時(1時間休憩) + 自学自習(事前学習20時間+事後学習10時間)			
授業の概要 基本的看護技術を基盤として、クリティカルな場面で経験する看護技術について、臨床の専門看護師および認定看護師 による講義と演習をとおして看護ケアの実践能力を養う。 具体的には、血管確保方法、輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法、人工呼吸器装着中の看護・挿管の介助方法 および気管内吸引方法等について、医学部地域医療教育支援センターのスキルラボラトリーでシュミレーター等 を用いて演習する。 履修後はクリティカルケア看護論において、医学部附属病院救命救急センター及び救命救急センターICU、集中治療部 (ICU)、心臓血管疾患集中治療部(CCU)での見学実習において看護ケアの実際を学ぶ。			
授業の目的 本授業は、必修の看護学実習が修了した後、自由科目として4年生対象に開講される。 クリティカルな状態にある患者に対する看護ケアについて、臨床の専門看護師や認定看護師による講義と医 学部地域医療教育支援センターのスキルラボラトリーにおける演習から、集中ケアの知識と技術を学習し、 臨床実践で適応できる看護実践能力を培う。			
到達目標			
1. クリティカルケア看護における、臨床高度実践技術の重要性について理解できる。(DPの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 臨床高度実践技術の具体的な方法と留意点について述べるができる。(DPの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 演習をとおして、高度実践の技術を実施することができる。(DPの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準 出席及び授業参加度 70% レポート30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この授業は対面にて実施予定です。			
第1回 オリエンテーション、 スキルラボラトリーのオリエンテーション 第2回～3回 クリティカルケアにおける課題技術(1) 第4回～5回 クリティカルケアにおける課題技術(2) 課題技術: 気管内挿管介助および気管内吸引、人工呼吸器、心電図、急変時の対応、 除細動の使い方、輸液ポンプ・シリンジポンプなど 第6回～13回 課題技術の演習 附属病院非常勤講師による小グループ演習 各演習終了後にミニカンファレンス 第14回～15回 まとめ・レポート作成			
【自学自習のためのアドバイス】 1. 事前学習の課題を提示するので、調べ整理しておく。(20時間) ①気管挿管の介助方法 ②気管内吸引 ③心電図の読み方、12誘導の方法 ④人工呼吸器 ⑤点滴静脈注射 ⑥輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い ⑦急変時の対応方法、除細動の取り扱い 2. 演習前に各項目について確認し、実際に行動できるよう準備しておく。(6時間) 3. 演習が修了後に課題レポートを提出する。(4時間)			

教科書・参考書等

道又 元裕他：クリティカルケア看護学（系統看護学講座），医学書院，2009年．

オフィスアワー 集中講義期間中の16：30～18：30 看護学科教育研究棟 市原研究室．金正研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

引き続きクリティカルケア看護論を履修することで，より確実な臨床高度実践技術の習得につながります．

教員の実務経験との関連

認定看護師等の資格を持った附属病院勤務の看護師による講義と小グループ演習が行われます．

ナンバリングコード B3NRS-bcdM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 762920) クリティカルケア看護論 Critical Care Nursing	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 市原 多香子, 大西 敏美, 國方 美 佐, 中村 佳代, 今川 さおり, 山本 亜 由美	関連授業科目	臨床高度実践技術論, 看護実践技術論, 看護学の技 術科目, 救急・災害看護	
	履修推奨科目	臨床高度実践技術論	
学習時間	実習 8時～15時(休憩1時間除く) + 自学実習(準備学習15時間 + 事後学習15時間)		
授業の概要			
臨床高度実践技術論での講義及び演習内容を基盤にして, 医学部附属病院救命救急センター及び救命救急センタ ーICU, 集中治療部(ICU), 心臓血管疾患集中治療部(CCU)での見学実習を行います。少人数制での見学実習とし, 各病棟・センターの看護スタッフから指導を受けます。			
授業の目的			
本授業は, 必修の看護学実習が修了した後, 自由科目として4年生対象に開講されます。臨床高度実践技術論 で学習した内容を基盤として, クリティカルな状態にある患者に対する集中ケアの知識と技術を学習し, 臨床 実践で適応できる能力を培います。			
到達目標			
1. クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴を理解することができる。(DPの「広範な人文・社会・ 自然に関する知識」に対応) 2. 救命救急センターに搬送される患者への援助方法を理解し, 実施することができる。(DPの「21世紀社会 の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 救命救急センターICUに搬送される患者への援助方法を理解し, 実施することができる。(DPの「21世紀 社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応) 4. 手術後に集中治療部に入室する患者への援助方法を理解し, 実施することができる。(DPの「21世紀社会 の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応) 5. 心臓血管疾患集中治療部(CCU)に入室する患者への援助方法を理解し, 実施することができる。(DPの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
成績評価の方法と基準			
出席及び授業参加度70% レポート30%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面にて実施予定です。			
第1日目: オリエンテーション・事前学習 附属病院救命救急センター, 救命救急センターICU, 集中治療部(ICU), 心臓血管疾患集中治療部(CCU)の特徴と 役割について, 見学実習を行う病棟でのオリエンテーションを受ける。			
第2～4日目: 病棟見学実習 各学生は, 救命救急センター, 救命救急センターICU, 集中治療部(ICU), 心臓血管疾患集中治療部(CCU)で1カ 所の見学実習を3日間行う。			
第4日目: カンファレンス			
【自学自習のためのアドバイス】			
1. オリエンテーションを受けて, 実習病棟に入院する患者の特徴的な疾患と治療、看護について調べ整理してお く(9時間) 2. 実習中は翌日の実習計画を作成しておく(事前準備6時間) 3. 3日間の記録は実習日誌に記録する(事後学習6時間) 4. 最終日にはカンファレンス資料を準備する(事後学習4時間) 5. 実習修了後に課題レポートを提出する(事後学習5時間)			
教科書・参考書等			
道又 元裕他: クリティカルケア看護学(系統看護学講座), 医学書院, 2009年。			
オフィスアワー	集中講義期間中の16:30～18:30 看護学科教育研究棟 市原研究室		

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

病院実習の対応指針に従い開講の判断をします。

臨床高度実践技術論を受講してクリティカルケアに必要な知識と技術を学んだ学生は、クリティカルケア看護論を受講できます。

クリティカルな状況にある患者の看護についての事前学習を十分しておいてください。

教員の実務経験との関連

医学部附属病院救命救急センター及び救命救急センターICU，集中治療部（ICU），心臓血管疾患集中治療部（CCU）での見学実習を行います。少人数制での見学実習とし、各病棟・センターの看護スタッフから直接の指導を受けます。

ナンバリングコード B3NRS-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762970) がん・緩和ケア論 Palliative care and cancer nursing	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 金正 貴美, 市原 多香子, 辻 晃仁, 本多 美枝, 大上 幸子, 重田 宏恵, 吉原 章子, 三木 晃子, 今出 政代, 河野 景子	関連授業科目 成人看護学概論、成人疾病論 成人急性期援助論、成人リハビリテーション援助論、成人基本実習、成人急性期・回復期実習、成人慢性・終末期実習		
	履修推奨科目 成人急性期回復期援助論、慢性期終末期援助論		
学習時間 講義・演習形態で90分×15回＋自学自習 (準備学習30時間＋事後学習30時間) 5月9日～13日の集中授業			
授業の概要 本科目は、がん・緩和ケアを受ける患者・家族の理解を深めるとともに、看護学の視点から病態の理解を深め、援助方法の実践的な知識や技術を教授する。さらに、より高度で専門的ながん・緩和ケアについての知識と援助技術の実際について、がん専門看護師や緩和ケア認定看護師等の実践活動を通して教授する。			
授業の目的 がん・緩和ケアの実際について理解を深めることで、就職後に自己の看護実践に役立てることができる。また、確かな看護観を構築するための知識、技術、態度を習得する。			
到達目標			
1. 「緩和ケアとは」について説明することができる。「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応。 2. がん・緩和ケアを受ける患者・家族に対して、効果的な援助方法を見出すことができる。「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応。 3. 2で挙げた援助方法についての根拠を述べるることができる。「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応。 4. がん専門看護師や緩和ケア認定看護師等の活動についてイメージすることができる。「知識・理解」(広範な人文・社会・自然に関する知識)に対応。 5. がん医療・緩和ケアの現状、課題、および支援方法について探究できる。「問題解決・課題探求能力」(世紀社会の諸課題に対する探求能力)に対応。			
成績評価の方法と基準 ・復習ノート作成 (50%) と自由課題レポート提出 (50%) を合算する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
授業計画 (5/9～5/13までの集中講義・演習) 1回: ガイダンス、緩和ケア概論 (金正) 2回: がん化学療法認定看護師の活動と実際 (大上) 3回: がん性疼痛看護認定看護師の活動と実際 (本多) 4回: 今日のがん治療と緩和医療 (辻) 5回: 緩和ケアを受ける患者のセルフケア支援 (金正) 6回: 口腔内アセスメントとケア (河野) 7回: 口腔内アセスメントとケア 演習 (金正) 8、9回: がん医療および緩和ケアに関する現状と倫理的課題及び支援について 講義、GW (金正) 10、11回: エンゼルケア (今出) 12回: がん医療における意思決定支援 (講義) (三木) 13、14回: リンパ浮腫ケア (吉原) 15回: がん医療および緩和ケアに関する現状・倫理的課題及び看護ケア (金正)			
【自学実習に関するアドバイス】 第1回: がん医療の問題や緩和ケアについて、新聞記事や文献を収集し、自分の意見をまとめ、学習への動機づけとする (5時間) 第2、3、5回: 「成人看護学 緩和ケア」「緩和ケア・ターミナルケア看護論」の該当部分を読む。(25時間) 日本看護協会のHPの専門看護師、認定看護師についてのページを読む。(5時間) 第4回: 「臨床病態学」の該当部分を読み、講義資料を熟読する。(5時間)			

第6、7、10、11、13、14回：講義資料を復習し、行った演習について練習する。（5時間）
第8、9、12：「成人看護学 緩和ケア」「緩和ケア・ターミナルケア看護論」の該当部分を読む。（25時間）
第15回：講義資料を復習し、行った演習について復習する。（5時間）
自由課題レポートを作成する。（10時間）

教科書・参考書等

参考書

・ナーシング・グラフィカ、成人看護学 緩和ケア、宮下光令編、メデイカ出版、2015.

オフィスアワー 金正：学生の希望に応じて、日時の調整を行う

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・各自が将来のキャリア形成を志向する際の参考になると考えられるとともに、就職後の看護実践にも役立てられると期待している。

教員の実務経験との関連

がん看護、慢性・終末期看護の臨床経験を持ち、病を持つ人とその家族へのケアリングを基盤とした関わりを行い、身体的、心理的、社会的側面の理解を深める看護学教育を行います。

ナンバリングコード B3NRS-bdcM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 762980) スピリチュアルケア論 Spiritual Care	科目区分	時間割 前期後半木3	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3NRS	DP・提供部局 bdcM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 清水 裕子, 上原 星奈	関連授業科目 成人看護学概論、成人慢性期援助論		
	履修推奨科目 看護クリティカルシンキング		
学習時間	講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>看護者が実践上課題とする死の看取りについて焦点をあて、日常生活上の苦悩や病の問題から、スピリチュアリティを明確にする。人とのかかわりから得られるケアの本質的な要素として「存在」を取り上げ、具体的な看護方法を学習する。</p> <p>また、死の看取りについての具体的な臨床事例を紹介し、ケアの具体的な方法論を提示し、癒しにおける看護師の役割について討論する。さらに、苦悩する人間の存在について、ハイデガーの理論を準用し、死までの時間を如何に生きるべきかについて考察する。</p>			
授業の目的			
<p>看護者が日々の生活や看護活動の中で体験する命の営みを科学的に問い直し、「生」と「死」にどのように向かうかを考える。</p> <p>また、「人間の尊厳」について理解を深めて、霊的な次元で苦悩する人間へのケアリングとスピリチュアルケアの方法を習得する。ことが目的である。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護者が行う死の看取りにおける実践上の課題を述べるができる。(DP コード b:知識・理解 に対応) 2. 患者の日常生活上の苦悩や病の問題から、スピリチュアルペインを説明できる。(DP コード b:知識・理解 に対応) 3. 看護場面における看護者の「存在」の意味を説明できる。(DP コード b:知識・理解 に対応) 4. 死の臨床の「癒し」における看護師の役割と適用可能なスピリチュアルケアの技術を説明できる。(DP コード c:問題解決・課題探求能力に対応) 5. 死までの時間にいる人間の存在と苦悩および生のあり方について記述できる。(DP コード d:倫理観・社会的責任に対応) 			
成績評価の方法と基準			
参加度・成果物を総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回	スピリチュアルケアの基本概念	清水	
第2回	病をもつ人の心の危機的状態とスピリチュアリティ	清水・上原	
第3回	ドイツのスピリチュアルケア1	清水	
第4回	ドイツのスピリチュアルケア2	清水	
第5回	臨地実習事例の振り返りとスピリチュアルケア看護過程	清水・上原	
第6回	臨地実習事例の振り返りとスピリチュアルケア看護過程	清水・上原	
第7回	医療専門職のスピリチュアルケアコンピテンシー	清水	
第8回	看護と人間の尊厳、まとめ	清水・上原	
【自学自習へのアドバイス】			
第1回	指定書を読んでおく (5時間)		
第2回	3年生の実習で課題となった看護過程の気になるところを見いだししておく (5時間)		
第3回	ドイツの社会体制や医療システムの自己学習を準備 (3時間)		
第4回	ドイツの社会体制や医療システムの自己学習を準備 (2時間)		
第5回	3年生の実習事例を振り返り、不全感となった場面を再構成する (2時間)		
第6回	3年生の実習事例を振り返り、不全感となった場面を再構成する (3時間)		
第7回	新しいスピリチュアルケアの看護計画をイメージする (5時間)		
第8回	指定図書・参考書を用いて看護と人間の尊厳について考えておく (5時間)		
<p>*スピリチュアル関係の学会及び講演をフィールドワークの学習時間に振り返ることができるため、担当教員と相談する。</p> <p>*基本的に感染予防対策を取りながら、学内演習とディスカッションを行う。感染拡大状況によっては、一部リモートとする。</p>			

教科書・参考書等

1. 清水裕子, ヒューマンケアと看護学, ナカニシヤ出版, 2013.
2. ワルデマール・キッペス, スピリチュアルケア, サンパウロ, 2000.
3. 清水哲郎, 医療現場に臨む哲学, 勁草書房, 1998.
4. 小玉正博, レジリエンス思考, 河出出版新社, 2014.
5. 木村登紀子, つながりあう「いのち」の心理臨床, 新耀社, 2013.
6. 神谷美恵子, 生きがいについて, みすず書房, 2005.
7. V,E, フランクル, 生きる意味を求めて, 春秋社, 2000.
8. 寺本松野, 看護の中の死, 看護協会出版会, 1992

オフィスアワー 授業日の次の日の16:20-17:00

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

スピリチュアルケア論は、看護探求科目の選択科目です。慢性期、終末期、危機的状況にある患者の言語化不能な問題をも解決する方法として有用です。

教員の実務経験との関連

がん研究センターでの看護経験、ドイツのスピリチュアルケア研修の経験などを元に授業を行います。

ナンバリングコード B3PHN-bcdM-20-LE 授業科目名 (時間割コード: 763150) コミュニティケースワーク論 Community Casework Theory	科目区分	時間割 前期前半火3~4	対象年次及び学科 4~ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 LE	単位数 2	
担当教員名 辻 京子, 芳我 ちより	関連授業科目 ヘルスプロモーション演習, 離島保健・看護論, 公衆衛生看護対象論, 健康教育論		
	履修推奨科目 人間理解に関連する一般教養科目		
学習時間	講義・演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)		
授業の概要			
行政・産業・学校に共通している、保健師として必要な技術とその内容について学ぶ。保健指導の技術は知識として身に着けた上で、実際に技術を用いて対象に関わることができるよう学習する。最終的には、様々な技術の中から、対象や対象集団に応じた支援の方法を選択でき、実施できるようになることを目指す。			
授業の目的			
公衆衛生の理念に基づき、家庭や地域社会の生活の場において提供する看護技術の方法理解、習得し、提供の場に応じた看護職の役割や機能を学習する。			
到達目標			
1. 公衆衛生看護活動の一手段としての家庭訪問および健康相談場面での保健指導の意義を説明できる (DP「知識理解」) 2. 家庭訪問援助のプロセスを学び、家庭訪問援助計画を立案し、情報集、アセスメント、援助方法、記録、評価の方法を理解できる。 (DP (DP「知識理解」) 3. 個人、地域を対象に応じた保健指導の方法を選択し、説明できる (DP「問題解決・課題探求能力」) 4. 地域にある社会資源を活用した家庭訪問計画を立案できる。 (DP「問題解決・課題探求能力」) 5. 保健指導で求められる保健師の役割を説明できる。(DP「倫理観・社会的責任」)			
成績評価の方法と基準			
試験(50%) 出席状況・学習態度(10%) レポート (40%) など総合的に判断する。 試験は、出席2/3以上を条件とします。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面授業を基本として実施します。遠隔授業に変更する場合はWeb Classにて周知しますので確認のこと。			
第1回 ガイダンス・保健指導の主な技術 第2回 家庭訪問の目的と特徴/家庭訪問の機能 第3回 家庭訪問のプロセス 第4回 家庭訪問の具体的手順 第5回 DVD資料を用いた家庭訪問の演習1 第6回 DVD資料を用いた家庭訪問の演習2 第7回 DVD資料を用いた家庭訪問の演習3 第8回 模擬事例を用いた家庭訪問計画の立案 第9回 立案した家庭訪問計画に沿った家庭訪問ロールプレイ 第10回 家庭訪問ロールプレイの振り返り 第11回 健康相談の目的・対象、方法と特徴 第12回 健康診査の目的・対象、方法 第13回 保健指導の演習1 第14回 保健指導の演習2 第15回 試験、まとめ			
【自学自習】 ・家庭訪問の目的や方法、保健師の役割を整理し、まとめる(5時間) ・自分の生活や環境を振り返り、図や言葉で表現できるように整理まとめる(10時間) ・対象者の環境や生活をイメージした看護計画を立案する(10時間) ・保健指導の目的や方法、保健師の役割を整理し、まとめる(10時間)			
教科書・参考書等			
教科書 村嶋幸代編 最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社			

参考書

中村裕美子編 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院
宮崎美砂子編 最新 公衆衛生看護学 総論 日本看護協会出版会

オフィスアワー 授業終了後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義と演習により構成していますので、自主的に学習してください。
個別の関りから、小集団、組織、地域との関連などについてまとめましょう。

教員の実務経験との関連

保健所保健師としての実務経験があります。その経験を活かして授業を展開します。

ナンバリングコード B3PHN-bdcM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 762580) 産業保健・看護論 Occupational Health Nursing	科目区分	時間割 前期前半火1	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 bdcM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 1	
担当教員名 辻 京子, 芳我 ちより	関連授業科目 公衆衛生学 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護 対象論 コミュニティアセスメント論 健康教育論		
	履修推奨科目 人間理解に関連する一般教養科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
授業の概要 産業保健の意義・目的と看護職の役割を理解するとともに、労働者や職場の健康課題を把握する方法を学習し、「作業管理」「作業環境管理」「健康管理」を踏まえ、“労働と健康の調和”を目指す支援の在り方についての基礎的能力を養う。			
授業の目的 複雑多様化した労働形態と労働者の健康について理解し健康問題の現状を把握し、現代の産業保健における看護職の機能と役割、活動の実際について学ぶ。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の定義・目的を述べることができる (DP「知識・理解」) 2. 労働者の健康管理体系の特徴を説明することができる (DP「知識・理解」) 3. 労働者と職場の健康を保持増進する仕組み・方法について説明することができる (DP「知識・理解」) 4. 産業保健の定義・目的をふまえた看護職の役割を説明することができる (DP「知識・理解」) 5. 産業保健活動の課題を理解するとともに、対応策を考えることができる (DP「問題解決・課題解決探求能力、倫理観・社会的責任」) 6. 産業保健における関連職種・機関の役割や機能、協働のあり方について説明できる (DP「倫理観・社会的責任」) 			
成績評価の方法と基準 試験、出席状況、学習態度など総合的に判断する。 試験は、出席2/3以上を条件とします。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面授業を基本として実施します。遠隔授業に変更する場合はWeb Classにて周知しますので確認のこと。			
第1回 ガイダンス・産業保健の定義と目的、歴史と保健師の役割 (辻) 第2回 産業保健の基礎知識 (森山) 1. 労働者の健康問題の現状と動向 2. 労働者の健康障害 3. 作業態様による健康影響とその対策 第3回 労働衛生管理業務の概要 (森山) 第4回 産業看護の理念と目的・歴史 (赤澤) 1. 産業看護の目的、歴史 2. 産業構造と職業構造の変遷 3. 地域保健・看護との連携 第5回 産業看護の方法制度とシステム・産業看護の展開 (赤澤) 第6・7回 産業保健の場での保健指導 (辻) 第8回 まとめ (辻)			
【自学自習】 ・産業保健の歴史についてまとめる(3時間) ・労働者の健康課題についてまとめる(5時間) ・作業5管理についてまとめる。(3時間) ・作業保健に関連する法制度やシステムを整理する(5時間)			
教科書・参考書等			
教科書 金川克子 最新 保健学講座 3 公衆衛生看護活動論1 メヂカルフレンド社 参考書 厚生統計協会編 国民衛生の動向 厚生統計協会 最新版			

オフィスアワー 講義終了後

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義を主体とした展開ですが、自主的に学習してください。
労働者の健康課題についてまとめておきましょう。
作業5管理についてまとめておきましょう。

教員の実務経験との関連

保健師としての勤務経験があります。その実務経験をもとに、講義・演習をします。

ナンバリングコード B3PHN-ecdM-20-Ef 授業科目名 (時間割コード:762590) 離島保健・看護論 Community Health Nursing on Isolated islands	科目区分	時間割 後期集中4	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 ecdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 1	
担当教員名 辻 京子, 芳我 ちより	関連授業科目 ヘルスプロモーション演習, コミュニティアセスメント論, コミュニティケースワーク論		
	履修推奨科目 人間理解に関連する一般教養科目 ヘルスプロモーション演習		
学習時間	講義90分×8回+自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)		
授業の概要			
瀬戸内海の小離島をフィールドや島の診療所での実習、済生丸の乗船実習を通して、離島の地理や環境、文化や歴史、島民の暮らしを知ることで、地域特性や健康課題(顕在的・潜在的)を見出す過程や健康課題への支援計画を立案する過程、活動を展開し評価する過程をヘルスプロモーションの視点から学習する。			
授業の目的			
公衆衛生の理念に基づき、地域で暮らす人々が自らの健康を管理し、維持増進できるように、公衆衛生看護活動の方法を理解し、支援提供の場に応じた保健師の役割を学ぶ。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. フィールドワークや島民との関わりを通して、離島の文化や暮らし、生活課題を理解できる。 (DP「問題解決・課題探求能力、地域理解」) 2. 診療所実習や済生丸乗船実習を通して、離島での健康・医療課題を理解できる。 (DP「問題解決・課題探求能力、地域理解」) 3. 島民の健康課題に対応する活動のあり方を考えることができる。 (DP「地域理解、倫理観・社会的責任」) 4. 離島における医療・保健活動の課題に取り組む実践(案)を提言できる (DP「言語能力、倫理観・社会的責任」) 			
成績評価の方法と基準			
グループ学習の成果評価40%、個人学習の成果評価40%、フィールドワークや実習への参加態度20%			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面授業を基本として実施します。			
第1回	学内講義：離島を知ろう 離島・へき地保健医療対策、離島で暮らすということ		
第2-3回	島での講義 島民や関係者の話を聞こう 講師：コミュニティ協議会会長・コミュニティセンター長・ 高松市男木診療所 看護師・男木島図書館館長・高松市男木小中学校 教諭		
第4-6回	男木島フィールドワーク		
第7-12回	診療所実習・デーサービスセンター見学実習		
第13回	まとめ		
自学自習 フィールドワークを実施するため、グループでスケジュールを調整すること。(3時間) 担当する地域の情報を収集し、整理しておくこと。(20時間)			
教科書・参考書等			
資料は配付する			
オフィスアワー 授業終了後1時間			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
積極的に講義やフィールドワーク、実習に参加するしてください。 看護職として人間として多くの学びがあるので、積極的に授業に臨んでください。 フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険」等の保険に加入しておいてください。 フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」等の保険に加入しておくこと。			
教員の実務経験との関連			
離島での保健師経験があります。その経験をもとに講義を行います。			

ナンバリングコード B3PHN-bcdM-20-Lg 授業科目名 (時間割コード: 763160) 健康危機管理論 Health Risk Management	科目区分	時間割 前期前半水3~4	対象年次及び学科 4~ 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 bcdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Lg	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子, 白木 渡, 野々村 敦子, 磯打 千雅子, 野口 修 司	関連授業科目 保健医療福祉行政論 コミュニティアセスメント論 公衆衛生看護対象論、公衆衛生看護管理論		
	履修推奨科目 救急・災害看護		
学習時間	講義・演習等 90分×15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)		
授業の概要			
いつ・どこで発生するか分からない健康危機に対して、保健の専門家として、あるいは行政職員として保健師は、発生直後からの実態把握や救護(防疫)活動に従事し、その後の中長期的な支援活動を行う役割を担う。そのような活動や支援の実態を知るとともに、平常時からの準備や組織的対応の有り様について学ぶ。支援の実践者の実践事例も踏まえ、健康危機管理への関心を深め、身近な防災・減災行動について考える機会とする。			
授業の目的			
住民の生命・健康の安全を脅かす事態に対し、健康被害の発生予防、拡大防止、支援などの健康危機管理の実施と保健師の役割について学ぶ。			
到達目標			
1. どのようなものが健康危機管理とされているか概観できる。(DP;「知識・理解」) 2. 避難所で起こる様々な出来事に対応していく模擬体験を通して、避難所の運営について理解できる。(DP;「問題解決・課題探求能力」) 3. 災害時のメンタルヘルスケアについて理解できる。(DP;「倫理観・社会的責任」) 4. 危機管理体制の現状について理解できる。(DP;「問題解決・課題探求能力」) 5. 健康危機管理で求められる保健師の役割を説明できる。(DP;「倫理観・社会的責任」)			
成績評価の方法と基準			
・定期試験: 70% ・レポート: 20% ・出席状況・受講態度 (10%)			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面にて実施予定です。			
第1回 公衆衛生看護管理としての健康危機管理 (芳我) 第2回 危機管理の基礎的知識 (白木) 第3回 災害時保健師活動 (芳我) 第4回 住民と防災力 (野々村) 第5/6回 避難所運営 (HUG) (磯打) 第7回 防災のまちづくり (磯打) 第8/9回 自分のまちを調べてみよう【演習】 (辻) 第10回 危機管理の実際 児童虐待一虐待通報や措置対応 (辻) 第11回 感染症対策(新興・再興感染症) (芳我) 第12/13回 危機管理の実際 I 感染症 (芳我) 第14回 健康危機におけるメンタルヘルスケア (野口) 第15回 まとめ 定期試験 (芳我)			
【自学自習のアドバイス】			
・近年の災害被害や感染症について、興味をもった内容について情報収集をしておきましょう。(5時間) ・災害時における健康問題について調べてみましょう。(5時間) ・避難所での実際の事例について調べてみましょう。(5時間) ・平常時に地域で取り組む防災・減災の事例について調べてみましょう。(5時間) ・感染症にはどのような種類、対応の仕方があるかを調べる。(5時間) ・危機管理(マネジメント)とはどういうことかまとめる。(5時間)			
また、各回2時間の復習を行うこと。			
教科書・参考書等			
教科書 最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論			

参考書

標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 最新版
国民衛生の動向 最新版 厚生労働統計協会
新版保健師業務要覧 最新版（2018年版以降）、日本看護協会出版会

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

実践者や関係者の話を聞く機会やシミュレーション・見学研修等を取り入れる予定ですが、感染症拡大状況に応じて、授業予定を変更します。事前にWebclassを確認してください。

教員の実務経験との関連

行政保健師として災害派遣活動や新型インフルエンザ対策を行った経験も踏まえ、危機管理についての授業を行います。

ナンバリングコード B3PHN-ecbM-20-Ef 授業科目名 (時間割コード: 763170) ヘルスプロモーション演習 Health Promotion Practice	科目区分	時間割 通年水1~2	対象年次及び学科 4~ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 ecbM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 辻 京子, 芳我 ちより	関連授業科目	コミュニティアセスメント論 コミュニティケー スワーク論	
	履修推奨科目	離島保健・看護論	
学習時間	講義・演習・家庭訪問等90分×15回+自習時間(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)		
授業の概要	人々の生活と健康を継続的にアセスメントし、地域特性や健康課題(顕在的・潜在的)を見出す過程や健康課題への支援計画を立案する過程、活動を展開し評価する過程をヘルスプロモーションの視点から学習する。		
授業の目的	公衆衛生の理念に基づき、地域で暮らす人々が自らの健康を管理し、維持増進できるように、公衆衛生看護活動の方法を理解し、支援提供の場に応じた保健師の役割を学ぶ。		
到達目標			
1. 個人や地域への継続し関わりから、地域の特性を理解し、地域の健康課題を見出すことができる (DP「問題解決・課題探求能力」) 2. 地域の健康課題への支援計画を立案することができる (DP「問題解決・課題探求能力」) 3. 個人や地域の健康課題に取り組む実践(案)を提言できる (DP「言語運用能力、倫理観・社会的責任」)			
成績評価の方法と基準	授業の2/3以上の出席を条件とします。 グループ学習の成果評価40%、個人学習の成果評価40%、フィールドワークや実習への参加態度20%		
授業計画並びに授業及び学習の方法	この授業は対面授業を基本として実施します。 授業計画 第1-2回 担当する家庭や地域の情報・行政施策を整理する 第3-4回 地域住民へのインタビュー内容を検討する 第5-10回 担当する地域をフィールドワークする 地域住民へのインタビュー調査をする 第11-12回 得た情報をヘルスプロモーションの活動領域に基づき整理する 第13-14回 全体をまとめ発表しディスカッションする 第15回 まとめ ・ペアもしくはグループでフィールドワークし、健康課題の解決に向けた支援計画を作成する。 ・対象地域を助産院、高松市中央地域、離島の3か所とし、グループメンバーで話し合い、選択する。 自学自習 フィールドワークを実施するため、グループでスケジュールを調整すること。(5時間) 担当する地域の情報を収集し、整理しておくこと。(20時間)		
教科書・参考書等	随時資料を配布する。		
オフィスアワー	授業終了後1時間、家庭訪問前後随時		
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	看護職として人間として多くの学びがあるので、積極的に授業に臨んでほしい。 フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」等の保険に加入しておくこと。		
教員の実務経験との関連	行政保健師としての経験があります。個別の事例を通して、その事例が生活する家庭や地域を知り、地域の健康課題を見出し、支援すること、政策につなげていくことを学んでほしいと思います。		

ナンバリングコード B3PHN-bceM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 763180) 組織連携論 Organization Collaboration	科目区分	時間割 前期前半火2	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 bceM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 1	
担当教員名 辻 京子, 芳我 ちより	関連授業科目 公衆衛生看護学概論 保健医療福祉行政論 コミュニティアセスメント論		
履修推奨科目			
学習時間	講義90分×8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)		
授業の概要			
<p>公衆衛生看護活動の目的を果たすためには、地域の組織的な取り組み、地域組織や関係機関と協働するためのネットワークや連携が不可欠である。</p> <p>本授業では、地域組織活動とネットワーク化に関わる概念や理論について学び、活動対象となる人々や組織・関係機関等と支援目的、活動目的を共有すること、地域の住民組織や地域組織等の特性に合わせた支援・活動とするための組織アセスメントをすることについての理解を目指す。</p>			
授業の目的			
<p>地域組織活動を支援する目的と意義を理解し、公衆衛生看護活動の目的を果たすために地域組織等とどのような協働・連携を行っていく必要があるのか、理論や手段を理解したうえで地域組織等の組織アセスメントの必要性について学ぶ。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域組織等の育成・支援する目的と意義が理解できる。(DP「地域理解」) 2. 地域組織等への支援に必要な基本的知識・技術が理解できる。(DP「知識・理解」) 3. 地域組織の特性に合わせた支援・活動のための組織アセスメントの必要性が理解できる。(DP「問題解決・課題探求能力」) 4. 組織化・ネットワーク化に関連する概念と理論について理解できる。(DP「問題解決・課題探求能力」) 			
成績評価の方法と基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験：70点 ・レポート：20点 ・出席状況、受講態度；10点 			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>この授業は対面授業を基本として実施します。遠隔授業に変更する場合はWeb Classにて周知しますので確認のこと。</p> <p>第1回 地域組織活動の歴史や概念</p> <p>第2回 地域組織活動とネットワーク化に関わる主な理論</p> <p>第3回 地域組織活動のあり方と展開方法(ソーシャルキャピタル)</p> <p>第4回 自主グループ及び住民組織の育成と支援技術</p> <p>第5回 組織アセスメントの必要性と実際</p> <p>第6回 地域ケアシステムの構築とネットワーク化における組織連携</p> <p>第7回 地域組織活動への支援や組織連携における保健師の役割</p> <p>【自学自習のアドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源としての地域組織とはどのようなものかを調べる。(5時間) ・地域の自主グループ、自助グループ、地域組織にはどのようなものがあるか調べる。(5時間) ・自主組織がエンパワメントされることについて調べ、まとめる。(5時間) ・地域組織活動における保健師の支援目的や果たす役割を整理し、まとめる。(5時間) 			
教科書・参考書等			
<p>教科書</p> <p>村嶋幸代 最新 保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術 メヂカルフレンド社</p>			

参考書

新版保健師業務要覧 最新版（2018年版以降）、日本看護協会出版会
中村裕美子他著、標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院、最新版

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・教授されることだけでなく、自分の思考過程を意識して授業を受けてください。
- ・レポート提出があるので、期限は守ること。

教員の実務経験との関連

行政保健師としての活動経験を踏まえて、これからの地域組織活動、組織連携のあり方を考えられるように授業を進めます。

ナンバリングコード B3PHN-cdeM-20-Lp 授業科目名 (時間割コード: 763190) 公衆衛生看護管理論 Public Health Nursing Management	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 cdeM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lp	単位数 1	
担当教員名 芳我 ちより	関連授業科目 保健医療福祉行政論、コミュニティアセスメント論、公衆衛生看護対象論、健康危機管理論		
	履修推奨科目 公衆衛生看護学基礎実習 公衆衛生看護学実習		
学習時間 集中 > 講義・演習 90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
授業の概要			
<p>公衆衛生看護学実習で実践した内容を踏まえ、公衆衛生看護管理の8つの機能を用いて、地域でどのような管理(マネジメント)が行われていたのかを整理する。</p> <p>実習先市町の総合計画や地域診断から、どのような事業化・施策化がなされているか、それらの実施のために保健師だけでなく地区組織や自主グループがどのように関係しているかを整理し、保健師が果たすべき地域マネジメントの具体として理解できるよう講義と演習で教授する。</p>			
授業の目的			
公衆衛生看護管理の理念と目的、公衆衛生看護管理の仕組み、公衆衛生看護管理の具体的な対象となる組織・人材、社会資源管理、情報管理、予算管理、事業評価および健康危機管理等の現状と方法を理解する。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護管理の理念と目的を理解する。(DP「問題解決・課題探求能力」) 2. 公衆衛生看護管理における組織、人材、社会資源、情報、予算管理等の現状と方法を学ぶ。(DP「倫理観・社会的責任」) 3. 地域における健康危機管理の方法を習得する (DP「地域理解」) 4. 保健師が果たすべき地域マネジメントの具体が理解できる。(DP「問題解決・課題探求能力」) 			
成績評価の方法と基準			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習の成果物： (70%) ・ レポート： (20%) ・ 出席状況、受講態度： (10%) 			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この授業は対面にて実施予定です。			
<p>第1回 公衆衛生看護管理の目的・機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆衛生看護管理とは ・ 管理の捉え方 (マネジメント) ・ 基本となるもの ・ 6つの機能 (情報管理, 組織運営・管理, 事業・業務管理, 予算管理, 人事管理・人材育成, 地域ケアの質保証) の解説 <p>第2回 情報管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護職に必要な情報管理 ・ 実習で収集したい情報の種類と収集方法の検討 <p>第3回 地域ケアシステムとしての保健所・保健センターの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織のしくみ ・ 組織運営とその管理の方法 ・ 保健施策と保健計画, 業務の内容 <p>第4回 健康づくり計画と保健事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくり計画の位置づけ, 実施体制, 予算確保 (管理) ・ 実習地で行われている保健事業の概要 <p>第5回 地域ケアの質保証とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PDCAサイクルで行う看護実践 ・ 事業評価 ・ 地域に必要な資源づくり <p>第6回 人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健師のキャリアディベロップメント 			

- ・研修会の位置づけ
- ・リフレクションの必要性

第7回 今後の「私」のキャリアについて【演習】

第8回 まとめ

【自学自習のアドバイス】

- ・各授業の後，課題を出します。「管理」が看護職にとって身近な実践であることを実感しましょう。（5時間）
- ・実習において学ぶべき内容，情報収集したい項目などを考えましょう。（5時間）
- ・ご自身のキャリアディベロップメントについて，今後3～5年間の目標と計画を立ててみましょう。（5時間）

また、各回2時間の復習を行うこと。

教科書・参考書等

教科書：最新 保健学講座 5巻 公衆衛生看護管理論

参考書：国民衛生の動向 最新版 厚生労働統計協会

新版保健師業務要覧 最新版（2018年版以降）、日本看護協会出版会

オフィスアワー 授業終了後1時間

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・公衆衛生看護学基礎実習および公衆衛生看護学実習に向かう準備として，主体的な学習を期待しています。
- ・日程は予め「教育要項」において指示します。確認しておきましょう。

教員の実務経験との関連

行政保健師として活動した経験をもち，人材育成のための研修会講師にもなっています。

ナンバリングコード B3PHN-ecdM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 763200) 公衆衛生看護学基礎実習 Public Health Nursing Basic Practicum	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 ecdM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 2	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子, 渡邊 久美, 林 信平	関連授業科目 公衆衛生看護学概論、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、コミュニティアセスメント論、健康教育論、公衆衛生看護対象論、コミュニティーケースワーク論、産業保健・看護論、疫学、公衆衛生統計論、ヘルスプロモーション演習、健康危機管理論、組織連携論 離島保健・看護論		
	履修推奨科目 社会福祉・社会保障論		
学習時間 実習45時間×2週間 + 自己(事前)学習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 県内保健所および企業における実習を基礎実習として構成する。 保健所実習では、保健所の機能及び実施されている公衆衛生活動及び公衆衛生看護活動について、見学や体験を通じて、すでに学習してきた理論と実践を突き合わせて学びを深める。 産業保健実習では、企業組織において産業保健の機能と産業保健活動について、見学や体験を通して、産業保健師の役割を学ぶことを目指す。			
授業の目的 1. ヘルスケアシステムとしての保健所の機能と役割について、これまで学んだ理論を基に理解を深める。 2. 企業における保健活動の実際を学び、産業保健・看護活動のあり方について考察する。			
到達目標			
【保健所実習】 1. 保健所の組織体制とそれぞれの部署の活動目的、所属している職種の役割を説明できる。(DP「地域理解」) 2. 地域の健康情報を収集・分析し、広域的な健康課題を把握していることを説明できる。(DP「問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任能力」) 3. 新たな健康課題に対して、どのような保健事業が計画されているか説明できる。(DP「問題解決・課題探求能力」) 4. 広域的・専門的・技術的な保健サービスのあり方と提供方法について説明できる。(DP「地域理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任能力」) 5. 保健医療計画の概要を知り、具体的な内容を説明できる。(DP「地域理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任能力」) 6. 管内市町に対する市町支援の方法や活動内容を説明できる。(DP「倫理観・社会的責任能力」) 7. 健康危機管理における平時の保健師活動及び有事の体制づくりの必要性について説明できる。(DP「知識・理解、倫理観・社会的責任能力」) 8. 管内市町との保健・医療福祉介護等の包括ケアシステムを重層的な連携体制の構築について説明できる。(DP「倫理観・社会的責任能力」)			
【産業保健実習】 1. 企業における衛生管理組織の位置づけと役割が説明できる。(DP「地域理解」) 2. 労働安全衛生の5管理である「作業管理」「作業環境管理」「健康管理」「労働衛生教育」「総括管理」について説明できる。(DP「地域理解」) 3. 働く人々の健康課題とその支援方法が説明できる。(DP「問題解決・課題探求能力」) 4. 産業保健師の活動の実際と役割が説明できる。(DP「地域理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任能力」) 5. 地域における保健活動との連携とその必要性が説明できる。(DP「問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任能力」)			
成績評価の方法と基準 実習評価表に基づき、実習内容・実習態度・事前学習・記録・レポート等から総合的に判断する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法 この授業は対面にて実施予定です。ただし、感染状況によって方法を柔軟に変更します。Web Class等確認のこと。			
【保健所実習】 1. 保健所組織と各課(各部署)の所掌事務及び果たす役割と職種について、機構図等をもとに整理する。			

2. 保健所で扱う保健統計を把握し、その目的と統計結果が示す健康課題についてまとめる。
3. 管内市町への支援・協働、連携のあり方及び意義について説明を受ける。
4. 健康危機発生時に備え、平常時から行われている準備、予防活動、監視活動等について説明を受ける。
5. 保健所保健師としての活動と特徴と技術の実際について学ぶ。

【産業保健実習】

1. 事前に実習先の企業理念や組織体制を機構図や会社案内を用いて理解する。
2. 産業保健を推進するための衛生管理体制や関連規定、総括管理（予算、広報、情報管理等）を把握する。
3. 組織における衛生管理業務の位置づけや従事する職員の配置・役割を理解する。
4. 一般衛生対策、企業特有の化学的・生物的・物理的因子の管理、作業環境測定及び環境改善、メンテナンス、喫煙環境及び受動喫煙対策など、作業現場での作業環境管理、安全管理がどのように行われているかの説明を受け、理解する。
5. 作業管理として、作業方法の改善、労働負荷対策、保護具の整備について、具体的な方法を理解する。
6. 企業における健康課題の抽出プロセスやその対応について説明を聞き、理解する。
7. 健康管理のあり方（メンタルヘルス、障がい者支援、メタボ対策等疾病管理）を理解し、その支援方法あるいは対策手段（健康診断、健康相談、保健指導、健康づくり活動、救急対応、妊産婦対応、たばこ対策等）について理解する。
8. 産業保健師の役割ややりがい、今後の課題について体験や説明を聞き理解しまとめる。
9. 従業員の健康管理における地域との連携について考えることができる。

【自学自習について】

- ・事前学習として、実習先保健所管内の地区特性、産業保健分野の企業理念等を調べ、把握しておく。（30時間）
- ・実習中に活用できるように、事前学習内容を整理しておく（ファイル等に綴じておく）。（20時間）
- ・実習に必要な保健師としての支援技術、理論、知識を復習し、必要時「保健師ノート」として整理しておく。（10時間）

教科書・参考書等

参考書 国民衛生の動向 最新版 厚生労働統計協会
その他、各講義で紹介・使用したテキスト及び参考図書

オフィスアワー 実習期間中は、担当教員が学内もしくは実習先への巡回指導で対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・事前学習及び実習内容の詳細や留意点についてはオリエンテーションで説明する。
- ・自らが学び取る姿勢で主体的・積極的に実習を行い、質問や確認等を自ら十分に行うこと。
- ・報告や記録提出は、決められた日時・方法で滞りなく提出すること。
- ・実習場所への移動時、交通事故等に留意すること。

教員の実務経験との関連

行政保健師経験のある教員が主に実習指導・巡回を行います。

ナンバリングコード B3PHN-ecbM-20-Px 授業科目名 (時間割コード: 763210) 公衆衛生看護学実習 Public Health Nursing Practicum	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学 科
	水準・分野 B3PHN	DP・提供部局 ecbM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 3	
担当教員名 芳我 ちより, 辻 京子, 林 信平	関連授業科目 公衆衛生学、保健医療福祉行政論、コミュニティア セスメント論、健康教育論、公衆衛生看護対象論、コミュニティーケ ースワーク論、産業保健・看護論、疫学、公衆衛生統計論、ヘルス プロモーション演習、健康危機管理論、組織連携論、離島保健・看 護論、公衆衛生看護管理論 履修推奨科目 社会福祉・社会保障論		
学習時間	実習45時間×3週間 + 自学自習(準備学習 45時間 + 事後学習 45時間)		
授業の概要			
<p>市町での保健活動の実際を体験し、地域の人々の健康な暮らしを支援するために市町で掲げる理念を理解し、公衆衛生看護活動の目的を果たすための手段(個別支援、保健計画、仕組み等)について明確化を図る。</p> <p>個別支援から集団、地域へと視野を広げ、事業化・施策化の実際を理解するとともに、保健・医療・福祉の包括的支援の必要性と連携のあり方について学ぶ。これら市町での実習や体験を通して、保健師の役割を明確にすることを旨とする。</p>			
授業の目的			
<p>地域の特性を理解し、人々の生活と健康を多角的・継続的にとらえ、見出した地域の健康課題の解決を目指した対応策について、健康政策や保健事業・サービス資源等から考える一連のプロセスを学ぶ。</p>			
到達目標			
<p>【市町実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人、家族、集団、地域をシステムとして捉え、モデルを用いた地域アセスメントを実施することができる。(DP「地域理解」に対応) 2. 地域の特性を把握し、健康課題および強みをアセスメントすることができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 個人および家族のニーズを把握し、支援の方向性について計画できる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 個人・集団に対する健康相談・保健指導など、保健師として必要な技術の活用(または応用)について説明できる。(DP「知識・理解」に対応) 5. 地域の健康課題を解決・改善するための地域組織への支援のあり方や協働することの意義を理解できる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. 保健事業の法的根拠を知り、企画から実施、評価のプロセスを経験することができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 7. 健康レベルの向上を可能にする社会資源の活用と関係機関との連携の意義について理解できる。(DP「地域理解」に対応) 8. 地域の健康危機管理について予防策や発生時の対応について説明できる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 9. 公衆衛生活動における保健師の機能および果たす役割と、保健・医療・福祉の連携ならびにチームの一員としての機能および役割を考察することができる。(DP「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<p>・実習評価表に基づき、実習内容・実習態度・事前学習・記録・レポート等から総合的に判断する。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>この授業は対面にて実施予定です。ただし、感染状況によって方法を柔軟に変更します。Web Class等確認のこと。</p> <p>【市町実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行政の仕組みや役割・財政について説明を受け、行政における保健師の役割について学ぶ。 2. 既存資料等から、情報を多角的・経年的に整理し、実習市町(または担当地区)の概要を把握する。 3. 地区視診及び地域住民や関係者にインタビューを行い、把握した地区概要と合わせて、地域のあるべき姿や健康課題の抽出を行う。 4. 個別支援において、対象者のニーズを把握し、支援方針や支援を行うために必要な知識・技術等について学ぶ。 5. 集団への支援のあり方や技術、保健師が果たす役割について説明を受け、その視点をもって市町保健師に同行・体験(参加)する。 6. 保健事業の背景・目的・実施計画・評価・今後の課題等についてプロセスを理解したうえで実習・参加し、PDCAサイクルの実際について学ぶ。 7. 健康教育の実施を通して、テーマ設定のあり方、目的、企画・運営・評価の流れとその手法を学ぶ。 			

8. 住民組織、関係機関にインタビューを行い、地域づくりまたは地域の健康課題解決に不可欠な住民組織、関係機関と協働・連携することを理解する。
9. 保健計画の概要と実際に行われている事業との関係について説明を受け、保健師が果たしている役割について整理する。
10. 集いの場やネットワークに参加し、対話の中で共通する価値観やそれらの必要性について学ぶ。
11. あらゆる健康危機に対応するための平常時からの予防活動をどのように行っているかの説明を受け、保健師の役割について整理し、今後の課題について考察する。

【自学自習（事前学習）について】

- ・事前学習として、実習先市町の地区概況・特性を調べ、把握しておく。（45時間）
- ・実習中に活用できるよう、事前学習内容を整理しておく（ファイルに綴じておく）。（20時間）
- ・実習に必要な保健師としての理論や支援技術を復習し、整理しておく。（25時間）

教科書・参考書等

各講義で紹介・使用したテキストおよび参考図書

オフィスアワー 実習期間中は、担当教員が学内もしくは実習先への巡回指導で対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・事前学習及び実習内容の詳細や留意点についてはオリエンテーションで説明する。
- ・自らが学び取る姿勢で主体的・積極的に実習を行い、質問や確認等を十分に行うこと。
- ・報告や記録提出は、決められた日時・方法で滞りなく提出すること。
- ・実習場所への移動時、交通事故等に留意すること。

教員の実務経験との関連

行政保健師経験のある教員が実習指導・巡回指導をします。

ナンバリングコード B4SHN-cbxM-20-Eg 授業科目名 (時間割コード: 763020) 教育実践演習C Complementary practice of School Health	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B4SHN	DP・提供部局 cbxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Eg	単位数 1	
担当教員名 山岸 知幸, 山本 美輪, 芳我 ちよ り, 辻 京子, 尾崎 典子	関連授業科目 教職実践演習、学校保健、養護原論、養護実習		
	履修推奨科目 学校保健、養護原論、養護実習		
学習時間 実習 × 8回 + 自学自習 (準備学習8時間+事後学習8時間) 演習 × 7回 + 自学自習 (準備学習7時間+事後学習7時間)			
授業の概要 本授業は、養護実習の基礎実習を含む事前指導と事後指導で構成される。 事前指導および基礎実習では、養護実習の意義・目標・課題への認識を深めるとともに、学習指導や生徒指導、保健室経営の実際について学ぶ。また、教職に対する使命の自覚、法令遵守、社会規範やモラル、マナーの向上を図る。 事後指導では、養護実習についての反省的考察を行う。			
授業の目的 事前指導においては、実習校を理解し、実習に関する心構えや基本的事項を習得する。 事後指導においては、養護実習を内省的に振り返るとともに、教職に就くことに向けた自らの課題を明らかにする。			
到達目標			
1. 養護実習校の特徴を説明できる。(DP コード: 知識理解に対応) 2. 養護実習に関する心構えや基本的事項を身に付けることができる。(DP コード: 問題解決・課題探求能力に対応) 3. 養護実習を内省的に振り返り、教職に就くことに向けた自己の課題を明確にすることができる (DP コード: 問題解決・課題探求能力に対応)			
成績評価の方法と基準 附属学校からの評価資料及び成果物、参加度を含めて総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 オリエンテーション 第2回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第3回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第4回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第5回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第6回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第7回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第8回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第9回 附属学校における事前指導 (基礎実習) 第10回 養護実習事前指導 第11回 養護実習事前指導 第12回 養護実習事前指導 第13回 養護実習事前指導 第14回 全体事後指導 第15回 全体事後指導 なお、(1)～(13)は前期、(14)～(15)は後期に開講する。			
【授業及び学習方法】 授業は対面を予定していますが、その時の状況 (感染症等) により、遠隔授業となります。その場合、アンケートやレポートにより理解の確認を行います。			
【自己学習へのアドバイス】 養護実習では、教育者としての知識、態度が求められる。そのことをしっかりと理解し、これまでの大学での学習を復習するとともに、事前指導で学ぶ新たな内容を確実に自己のものにしていくことが重要である。(各回1～2時間の自主学習を行うこと)			

教科書・参考書等

養護原論、学校保健に掲載の図書

オフィスアワー 演習終了後**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

事前指導は、附属学校での見学実習と演習です。事後指導は演習です。
内容と実施場所が多様ですので、オリエンテーションでしっかり確認してください。

教員の実務経験との関連

長年、看護学教育・学校保健に携わってきた教員による講義・演習を行います。

ナンバリングコード B4SHN-cdxM-20-Lx 授業科目名 (時間割コード: 763030) 教職実践演習 (養護教諭) Educational training of School Health	科目区分	時間割 後期前半金1~2	対象年次及び学科 4~ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B4SHN	DP・提供部局 cdxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Lx	単位数 2	
担当教員名 山岸 知幸, 山本 美輪, 芳我 ちよ り, 辻 京子, 尾崎 典子	関連授業科目	学校保健、養護原論、養護実習、教育実践演習C	
	履修推奨科目	学校保健、養護原論、養護実習、教育実践演習C	
学習時間	講義90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要			
<p>学生が、個人の学習履歴をまとめたものをもとに、5つの事項{①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や保健室経営等に関する事項、④教科の内容や保健教育等の指導力に関する事項、⑤教育課題の探求に関する事項}において、自らの資質能力を確認のうえ課題を明確にする。その課題解決に向けて、主体的に演習や研修会等に参加し、「教育者」の資質・能力を一層高めることが期待される。また、班活動等での交流を通して、学習成果を自己評価する。</p>			
授業の目的			
<p>学生はこれまでの教職課程の授業科目や教職課程以外での様々な活動を通して身につけた資質・能力を点検し(以上、DPの「問題解決・課題探求能力」に対応)、養護教諭として最小限必要な資質・能力が目標に照らして有機的に形成・統合されたかについて確認し(以上、DPの「倫理観・社会的責任」「教職に対する使命感」に対応)、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図る。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育者の使命感を含む基本的姿勢を理解した行動ができる。 (DPコード: 倫理観・社会的責任に対応) 2. 対人関係を良好に保つ基本的態度を理解し行動できる。 (DPコード: 倫理観・社会的責任に対応) 3. 子ども理解のための基本的な知識を説明できる。 (DPコード: 問題解決・課題探求能力に対応) 4. 指導力の基本的な内容を理解し行動できる。 (DPコード: 問題解決・課題探求能力に対応) 5. 養護教諭として職務を遂行するための専門知識と幅広い教養を身につけている。 (DPコード: 倫理観・社会的責任に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<p>参加度、成果物評価、最終レポートをもって評価する。 毎回の講義と演習への参加度と成果物評価は、ルーブリックに基づいて行う。 最終レポートは、学生自身の課題の明確化と教育者としての可能性を基準に評価を行う。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<p>第1回 オリエンテーション 第2回 「学びの履歴」による自己点検、及び自己課題の明確化についてのグループ協議 第3回 「教育課題の探究」に関する講義及び演習 第4回 「教育課題の探究」に関する講義及び演習 第5回 「保健教育」に関する講義及び演習 第6回 「保健教育」に関する講義及び演習 第7回 「保健室経営」に関する講義及び演習 第8回 「保健室経営」に関する講義及び演習 第9回 「健康相談」に関する講義及び演習 第10回 「健康相談」に関する講義及び演習 第11回 学校現場や関連教育施設における現地調査や実務研修 第12回 学校現場や関連教育施設における現地調査や実務研修 第13回 学校現場や関連教育施設における現地調査や実務研修 第14回 学校現場や関連教育施設における現地調査や実務研修 第15回 全体交流によるまとめ</p>			
【授業及び学習方法】			
<p>授業は対面を予定していますが、その時の状況(感染症等)により遠隔授業となります。その場合、アンケートやレポートにより理解の確認を行います。</p>			

【自学自習のアドバイス】

- ◎これまでの「教師になるための学びの計画と履歴」を振り返ろう。（8時間）
- ◎第3～10回は、それぞれの講義内容について十分に予習して基本を把握し、実習での経験を踏まえた上で、演習に望もう。（各回5時間）
- ◎現地調査は、研修内容を予習して参加し、現場での学びを振り返ろう。（4時間）
- ◎幅広い教育関係者と交流しよう。（スクールボランティア）。（8時間）

教科書・参考書等

「教師になるための学びの計画と履歴」「教職実践演習 基本テキスト」
他、適宜関連資料を配付する。

オフィスアワー 看護学科担当教員 演習終了時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 本授業は、開講場所が幸町キャンパスと医学部キャンパスとで授業日によって異なります。十分確認してください。
2. 実地調査は県内での移動を伴います。
3. 原則、公共交通機関を使用すること。なお、費用は自己負担となります。
4. 履修登録の方法については、後日掲示等で指示します。

教員の実務経験との関連

長年、看護学教育・学校保健に携わってきた教員による講義・演習を行います。

ナンバリングコード B4SHN-cdxM-20-Px 授業科目名 (時間割コード:763010) 養護実習 Clinical practice of School of Health	科目区分	時間割 前期集中	対象年次及び学科 4～ 医(看・臨) 看護学科
	水準・分野 B4SHN	DP・提供部局 cdxM	対象学生・特定プログラムとの対応 20
	授業形態 Px	単位数 4	
担当教員名 山本 美輪, 芳我 ちより, 辻 京子, 尾崎 典子	関連授業科目 学校保健、養護原論、教職実践演習、教育実践演習C		
	履修推奨科目 養護原論、学校保健		
学習時間 実習1単位(45時間)×4単位+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 養護実習は大学で学んだ一般教養に関する科目、養護に関する専門科目、教科または教職に関する科目等の知識や技術を実際の教育現場で実践し、実習を通しての学びを統合することにより、養護教諭(教育者)としての資質や自覚を高める。児童生徒の健康の保持増進に関しての養護教諭の果たすべき責任と役割を理解し、求められている資質や能力(実践的・研究能力等)を育成する。			
授業の目的 児童生徒の健康の保持増進のための、保健教育および保健管理の実際を体験し、児童生徒の心身の成長・発達や健康維持および健康上の課題に対する指導や支援の在り方について理解する。そのために、学校教育全体の組織、運営を理解するとともに、学校保健安全計画の実践に参加し、学校保健安全活動における養護教諭の役割と機能、活動内容および方法を理解する。さらに、実習経験に基づいて養護教諭としての自覚を高め、教育者としての倫理観や人間性を身につける。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 成長発達過程にある児童・生徒の特性や学校生活について説明することができる。 (DPコード:問題解決・課題探求能力に対応) 2. 学校保健安全活動における養護教諭の役割について述べるすることができる。 (DPコード:問題解決・課題探求能力に対応) 3. 保健室の管理・運営および機能について説明することができる。 (DPコード:問題解決・課題探求能力に対応) 4. 児童生徒への保健教育について計画し、実施することができる。 (DPコード:問題解決・課題探求能力に対応) 5. 学校保健全般に関わる組織・運営のあり方について説明することができる。 (DPコード:問題解決・課題探求能力に対応) 6. 求められる養護教諭像や教職の使命について説明できる。 (DPコード:倫理観・社会的責任に対応) 			
成績評価の方法と基準 参加度、各実習場所の評価資料、教育実習前後の成果物などを総合的に評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習校の概要(実習校オリエンテーション時に確認) <ol style="list-style-type: none"> (1) 沿革史 (2) 教育の使命・理念,教育目標等 (3) 学校運営機構(学務分掌機構・児童生徒会活動・委員会活動・クラブ活動等) (4) 在籍児童生徒数,教職員数,担任 (5) 学級(小学校),ホームルーム構成と学年構成(中学校) (6) 年間行事 (7) 教育課程 <ol style="list-style-type: none"> ①教育課程(中学校) ②年間・週の授業時間数 ③日課表・時程 ④教育指導体制(児童・生徒の成長発達に合わせた特別活動,総合的学習,教科指導,児童生徒の自治活動等) ⑤学校校舎図・施設等 2) 日常保健活動に関する実習 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学校保健安全活動計画の立案と運営 <ol style="list-style-type: none"> ①実習校の年間活動計画立案までの企画,運営・評価方法,及び養護教諭の役割を学習する。 ②学校保健安全計画の運営に参加する。 (2) 養護教諭執務計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> ①学校行事及び学校保健安全計画との関連を基本にして養護教諭の執務計画を1日,1週間単位で立案する。 			

- ②上記で立案した執務計画に基づいて実習し、計画の立て方及び計画した内容を自己評価する。
- (3) 児童生徒および教職員の健康管理
- ①保健調査を行う目的と運営方法を学習する。
 - ②定期（臨時）健康診断の計画と実施方法、事後指導の方法を学習する。
 - ③健康診断の結果に基づく事後指導や予防対策について観察・参加する。
 - ④学級活動や授業参観の中で、児童生徒の健康観察を行う。
 - ⑤健康診断票、歯の検査票、学校保健日誌等の学校保健情報を利用して健康課題を分析する。
- (4) 救急処置
- ①事故及び傷病者への救急処置及び観察を行う。
 - ②必要があれば医療機関へ連絡・搬送する（観察又は参加）。
 - ③上記①②の状況を学級担任及び保護者に連絡し、所定の記録用紙に記載する（観察又は参加）。
- (5) 保健室の整備
- ①医薬品、衛生材料の整備・補給、検査機器の点検を行う。
 - ②救急処置、休養、相談・指導が行えるよう室内を整える。
 - ③保健室内の備品の管理、書類の整理・保管を行う。
- (6) 学校環境衛生と安全管理整備
- ①校内を巡視して、水のみ場、足洗い場、手洗い場、トイレ、ゴミ捨て場等の厚生施設の衛生状況・安全性を観察する。
 - ②教室、廊下・体育運動施設等の学習環境の採光・換気、机・椅子等の衛生安全状況を観察する。
 - ③学校環境衛生検査の実施を理解して、適宜実習する。
- (7) 保健教育
- ア. 学級単位（集団指導）
- ①指導教諭と相談して原則、保健教育を少なくとも1回は実施する。
 - ②保健教育の内容は、日常生活における心身の健康課題を児童生徒が判断し対応できる能力の育成を目的としたものとする。
 - ③学級と日時が決まれば、学級担任教諭や養護教諭との連絡を密にし、指導を受けながら指導案を作成する（学校規定の様式でもよい）。
 - ④実施後、関係者で評価会を開き、指導を仰ぎ実習効果を高める。
- イ. 個人単位（個人指導）
- ①健康教育のあり方や方法論や健康相談活動（ヘルスカウンセリング）の基本姿勢を学習する。
 - ②保健室を訪れた児童生徒に対する個別指導としての健康相談、保健指導を見学あるいは実施する。
- (8) 組織活動への参加指導
- ①学校保健委員会活動及び児童生徒保健委員会活動に参加し、組織活動や構成員の役割を理解する。
- 3) 保健関係行事に関する実習
- (1) 疾病予防に関する行事
疾病予防の知識の普及を図るため、厚生労働省等が主催する予防デーや予防週間に関連して行われる学校保健関連行事又は学校独自で行う感染症・食中毒予防活動へ参加する。
 - (2) 学校行事に伴う保健活動
修学旅行、遠足、運動会、マラソン大会、その他校外学習等の学校行事について、事故防止のため事前に行う健康チェックや保健指導、健康相談、および学校行事当日の救急活動に参加する。
2. 養護実習の具体的方法
- 1) 実習施設
主な実習場所は保健室であるが、教室を含めた校内の学習環境についても健康との関連性から観察する。
- 2) 具体的方法
- (1) 観察
児童生徒との直接的対応をする前に、まず客観的に児童生徒の生活行動を観察する。そしてその生活行動に対して養護教諭がどのように支援しているかを観察する。観察範囲は保健室だけでなく、児童生徒の学級担任や保健主事との関係も観察する。
 - ①児童生徒の状況
心身の発達状態と保健行動との関連性を理解する。
学校生活の状況、家庭生活との関連性を理解する。
 - ②学級における保健活動の状況
学級保健指導時及び授業参観時の状況から理解する。
給食摂取状況、調理運搬状況から理解する。
 - ③養護教諭の状況
保健室内外の活動内容と方法について、児童生徒との関係、他教諭との関係、保健主事との関係、学校医・学校歯科医・学校薬剤師との連携について理解する。
 - (2) 参加及び実施
 - ①養護教諭の日常の執務活動に、実習生として補助的立場で参加する。
 - ②学校生活活動に参加する。
 - ③養護教諭の指導監督の基に、実習生が自主的に計画立案し、それを主体的に実践する。
 - ④健康保持、疾病予防を目的とした保健指導を行う。

その他、実習の手引きを参照

【授業及び学習方法】

実習を予定していますが、その時の状況（感染症等）により実習日数が短縮されたり、演習等に変更になる場合があります。

【自主学習のためのアドバイス】

自主学習で実習の準備と事後学習を十分に行い、実習での学びを自分のものとして咀嚼すること。（1日3時間の自主学習を行うこと）

教科書・参考書等

養護原論や学校保健の授業時に紹介された図書

オフィスアワー 養護実習担当教員 実習指導時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

1. 教職課程の時間割と全学共通科目ならびに看護学科の時間割を把握して、履修計画を立てること。
2. 自学自習で教育実習時の教材資料を早期から収集しておくこと。
3. 特別支援学校実習があるので、教育学部開講科目「特別支援教育学基礎論」を聴講すること。

教員の実務経験との関連

長年、看護学教育・学校保健に携わってきた教員による講義・演習を行います。

ナンバリングコード B4NRS-cadM-20-Ef 授業科目名 (時間割コード: 762800) 看護研究 Nursing Research	科目区分	時間割 通年集中	対象年次及び学科 4~4 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B4NRS	DP・提供部局 cadM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Ef	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美, 加藤 育子, 西村 亜希子, 塩田 敦子, 藤井 豊, 前川 泰子, 市原 多香子, 清水 裕子, 山本 美輪, 谷本 公重, 川田 紀美子, 芳我ちより, 松本 啓子, 石上 悦子, 辻京子, 金正 貴美, 武智 尚子, 大西敏美, 上原 星奈, 西村 美穂, 森河佑季, 尾崎 典子, 鈴木 麻友, 赤垣衣美, 林 信平, 藏本 綾	関連授業科目 看護研究基礎論、看護統計論、情報リテラシー		
履修推奨科目 看護研究基礎論、看護統計論、情報リテラシー			
学習時間 講義・演習90分 × 30回 + 自学自習 (事前学習60時間+事後学習60時間)			
授業の概要			
<p>本科目では、看護に焦点を当てた学問知識を洗練し、看護の知識体系を他の学問と区別して、看護分野の専門職として責任と権限を持つことができるよう看護研究方法を習得することを目的としています。そのため、学生が主体となって、研究の全プロセス（研究の計画立案、実施、論文作成）を経験する過程において教授していきます。</p>			
授業の目的			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的配慮を行いながら、テーマに沿った研究計画を立案し、実践できる 2. 論文をまとめて、完成することができる 3. 研究発表の方法について説明できる <p>これらを通して、看護が取り扱う課題に対して、自ら探究し、問題の解決・改善策を提示できる力を身につける</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究対象者への倫理的配慮ができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 2. 研究目的に沿った研究方法を選択できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 3. 研究計画を立案し研究活動を行うことができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 4. 文献検索と文献検討の結果を研究過程に活用することができる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 5. 研究協力者の必要性和依頼の仕方が説明できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 6. データの解析、分析を適切な手法により実施できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 7. 論文の書き方および発表の仕方がわかる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 8. 一連の看護研究活動における研究姿勢について自己評価できる (DPの「問題解決・課題探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
研究への取り組みおよび研究論文の内容に基づき、研究指導担当単位の教員が評価する。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。また配属領域によって内容、進行は異なりますが、一般的な授業計画を示します。			
第1回	ガイダンス 看護研究の学習方法の説明 (グループ編成) 抄録集作成担当係りの選出		
第2-3回	看護研究の準備 文献レビュー		
第4-5回	研究計画書の作成		
第6回	方法の信頼性と妥当性を検討		
第7回	倫理面を検討		
第8回	研究対象の検討		
第9回	対象の同意書の検討		
第10回	インタビューガイドの作成および質問紙の構成		
第11-12回	予備的研究の実施		
第13-17回	看護研究の開始 データ収集		
第18-22回	データ分析		
第23回	結果から図表作成		
第24-28回	論文作成		

第29回 抄録作成
第30回 学会発表の意義と方法

【自学自習のためのアドバイス】

先行研究を多く読み、その文献を批判的に読む力を養いましょう。近年の文献だけでなく、これまでの研究の動向なども大きくつかんでおくことも大切です。個人またはグループで、研究の問い（リサーチ・クエスション）を見出し、量的研究では、その問いに答える仮説を考え、仮説を検証していく研究デザインを検討していきます。研究テーマを考えるときには、その意義や新規性、そして実現可能性についても考える必要があるため、担当の指導教員に相談して進めてください。また、相談する際には、それまで調べたことをまとめ、なぜその研究テーマに取り組んでいきたいのか、今までその領域で何が明らかになっているのかなどを記述した資料を準備して、説明、発表します。

実施していく研究の方向性やテーマを絞り込みながら、倫理的配慮についても検討し、様々な先行研究を参考にして計画書作成を完成させた後、研究を実施していきます。研究計画書作成や論文執筆にあたっては、学生間で相互に推敲を重ね、読みやすい文章や論文構成にしていくことも心がけましょう。研究成果を科学的な論文として完成させ、公表していくためには、論理的に内容を展開していくことが必要となります。自分たちの研究で明らかにされたことについて、先行研究と比較した検討を行い、文献からの引用も、的確に参照できるよう、再度、文献にあたります。看護研究のみならず、保健医療福祉をはじめとする周辺領域の研究にも触れ、視野を広げていきましょう。

（各回4時間の自学自習を行うこと）

教科書・参考書等

参考図書；

坂下玲子他著『系統看護学講座 別巻 看護研究』医学書院、2016年

足立はるゑ著『看護研究サポートブック 改訂第4版』メディカ出版、2017年

看護研究基礎論の資料等も参照すること。その他状況に応じて、指導教員より適宜追加される。

オフィスアワー 各指導教員による

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

研究は個人、または少人数グループで行う。研究の進み具合により夏休みを利用することもあるので、担当教員と常に十分、相談をしながら進めること。

教員の実務経験との関連

この科目は学生が主体の実験・実習（+講義）科目です。看護、医療分野での研究を行ってきた教員が、経験をもとに研究の立案、文献検索、方法、解析、考察等について助言、指導していきます。

ナンバリングコード B2NRS-edbM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード: 764000) ボランティア活動 Volunteer Activities	科目区分	時間割 通年未定	対象年次及び学科 1~4 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 edbM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 1	
担当教員名 清水 裕子	関連授業科目 看護とコミュニケーション、看護クリティカルシン キング		
	履修推奨科目 心と体のケアリング、看護とコミュニケーション、 公衆衛生看護学概論、家族看護学、看護倫理		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)に相当する学外でのボ ランティア活動が単位認定の対象になる。			
授業の概要			
<p>地域・社会貢献に対する学生のボランティア活動が推奨されている。そこで、ボランティア意識を向上させるために、学生が主体的に計画し参加したボランティア活動に対して一定の基準を満たすものに対して単位を認定し、ボランティア活動の活性化を計る。</p> <p>本科目は、平成24年度に新しく新設した科目である。この科目は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の後、国内外の多くの人々が被災者支援のために活動し、その成果が教育活動に資するものであることを期待して開設された。この科目の履修を通して、人間関係の絆を再確認し、生きる意欲を相互に高めあうことができることを学ぶ。</p>			
授業の目的			
この授業では、学内での講義は、ボランティアを行うための基礎的な知識を学習するにとどめ、そのガイダンスをもとに、学外実地でのアウトリーチを主体的に実施することを学習活動の中心とする。これにより、人間関係の相互性、自立性を確認し、相互発展的な関係を築き、自らが保護的、支援的存在であることを確かめることを目的とする。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動の主体となる人間の存在と相互関係について理解できる。(DP コード b:知識・理解に対応) 2. 利他的行動と自己愛的行動を明確化できる。(DP コード d:倫理観・社会的責任 に対応) 3. 自然災害と支援の相互発展的過程を理解できる。(DP コード d:倫理観・社会的責任 に対応) 4. 自然と人間の調和的關係とコミュニティーの形成過程を理解できる。(DP コード e:地域理解に対応) 5. 人間の愛と尊厳について洞察できる。(DP コード d:倫理観・社会的責任に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 支援を求める人々のニーズを理解し、自分にできる支援の可能性を説明できる。 2. 自分の支援的役割を明らかにし、関連する人々との連携方法を説明できる。 3. 自分の能力の限界を知り、安全に活動できる計画を立て、評価できる。 4. ボランティア活動によって得られた新たな価値について説明できる。 5. 生きるを支えるものとは何か、について自分の意見を明らかにできる。 <p>以上を自己評価と共に客観評価を行う。</p>			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
第1回 ボランティア活動のガイダンス 第2回 ボランティア活動の計画書を作成する 第3回 ボランティア活動の実際(フィールドワーク) 1 第4回 ボランティア活動の実際(フィールドワーク) 2 第5回 ボランティア活動の実際(フィールドワーク) 3 第6回 ボランティア活動の実際(フィールドワーク) 4 第7回 レポート作成 第8回 評価			
【自己学習へのアドバイス】			
第1回 自分の希望するボランティア活動を見いだしておく。(2時間) 第2回 ボランティアとしてどのような支援役割ができるかを明らかにし事前調査などの準備を行う。(3時間) 第3回 先方受け入れ先との打ち合わせを行い、健康管理を十分におこなないながら可能な範囲で役割を果たす。(2時間) 第4回 ボランティア活動を行う前に必要な物品を準備する(5時間) 第5回 ボランティア活動を行う前に必要な物品を準備する(5時間) 第6回 ボランティア活動を行う前に必要な物品を準備する(5時間) 第7回 参考書を用いて、期待されたことに対してできたことを振り返り、まとめることができる。(3時間) 第8回 自己評価を行うことができる。(5時間)			

○候補となるボランティア活動

香川県教育委員会主催英語キャンプ、香川県等国際交流協会主催の活動、各小中高等学校での学校保健等のボランティア活動、医学部国際交流委員会主催の短期留学生対応ボランティア、瀬戸内芸術祭ボランティア、災害地自治体・NPO等のボランティア、患者会（ALS香川県支部、病児保育など）関連ボランティア、香川大学男女共同参画推進室香大っ子サポーター等。

○履修登録の特例

年度初めの履修登録ができていない場合でも、担当教員の指導とフィールドワークをまとめた後、認定されれば履修登録ができる。登録方法についても担当教員に連絡をとること。

○Covid-19感染拡大防止のために、フィールドの制限の範囲の中で実施する。

基本的には、感染対策を講じたうえで、フィールド現場の責任者の了承の下で、対面で実施する。

教科書・参考書等

参考図書

1. ヒューマンケアと看護学, 清水裕子, ナカニシヤ出版, 2013.
2. Martin E. P. Seligman, Authentic Happiness ; 小林裕子訳, 世界でひとつだけの幸せ, アスペクト, 東京, 2004.
3. M. Simone Roach, The Human Act of Caring, ; 鈴木智之, 操華子, 森岡崇訳, アクト・オブ・ケアリング, ゆみる出版, 東京, 1994.
4. 岩崎正子・上野轟・大江米次郎・夏目誠, 幸せを築く対人援助, 星雲社, 東京, 2008.
5. 草野篤子・柿沼幸雄・金田利子・間野百子編, 世代間交流学の創造, あせび書房, 東京, 2010.
6. 大橋謙策ほか, 福祉・地域・まちづくり, シネルヴァ書房, 京都, 2014.
7. 田中雅文, ボランティア活動とおとなの学び: 事故と社会の循環的発展, 学文社, 東京, 2011.

オフィスアワー 随時対応できるが、事前にアポイントをとること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ボランティアに参加するに際して健康上および経済的問題がないこと、学生保険に加入する必要がある。必要に応じて、予防接種の有無を確認することがある。

本科目は、何度途中の登録も可能である。また、複数のフィールド活動を合わせて単位としてまとめることもできるので、単位希望者は担当教員に相談すること。

教員の実務経験との関連

これまでの東京都、千葉県でのオストミー患者への社会適応支援のボランティア体験、東京都NPO法人地球ととなりのほっぴい空間池袋の池袋医療班を創設・無料医療相談の経験、香川県ALS協会支援と学生派遣の体験などを元に、指導を行います。

ナンバリングコード B2NRS-ecdM-20-Pf 授業科目名 (時間割コード:764001) 国際交流活動 International Exchange Activities	科目区分	時間割 通年未定	対象年次及び学科 1~6 医(看・臨) 看護 学科
	水準・分野 B2NRS	DP・提供部局 ecdM	対象学生・特定プロ グラムとの対応 20
	授業形態 Pf	単位数 1	
担当教員名 山本 美輪, 和田 健司, 日下 隆, 三 宅 実	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 事前準備 + 派遣先での研修 + 報告会 + 自学自習30時間 (事前の英語学習、実習内容に関する予習、派遣後の振り返り) + その他、国際交流にかかわる活動 (受け入れ学生との論議への参加等)			
授業の概要			
香川大学医学部の国際交流の理念は、『国際交流をとおして、グローバルスタンダードを有した「学生」「医師」「看護師」「心理援助者」「研究者」の育成を行うとともに、人類の福祉や地域への貢献を行う。』としている。この理念のもとに、全学年を通して、学生には様々な国際交流活動に参加する機会が与えられている。こうした活動に積極的に参加することで、国際的感覚を涵養し、国際社会の一員としての自覚に目覚めることは、これからのグローバル社会において重要であり、医学・看護学の面でもグローバルスタンダードを自覚するためのまたとないチャンスである。本プログラムでは、①事前の十分な準備を行うこと、②実習を自主的かつ勤勉に行うこと、③報告書を提出すること、④報告会において発表すること、を求めている。対象となる活動は、香川大学医学部が交流をしている協定校において開設されるプログラムに参加するものに限る。それぞれのプログラムについては、活動の時期、内容、定員が異なるため、それらに対応する準備や勉強が求められる。いずれのプログラムにおいても、語学(英語)は重要であり、一定程度の語学力が求められる。語学プログラム(上級英語など)への参加が望ましい。なお、国際交流委員会の議を経て、海外派遣と同等の教育効果を有する活動を含める場合がある。			
授業の目的			
学生の中に、海外での経験を積むことにより、世界に通用する広い視野を獲得する。また他国での医学や看護学の状況を見聞することで日本の医学や看護学について考える機会を得る。			
到達目標			
1) 派遣先の大学で、医学、看護学、もしくは臨床心理学の研修(実習、講義、見学など)に自主的に参加することができる。 2) 派遣先の大学で行われている、医学、看護学、もしくは臨床心理学の現状を理解し、日本の医学もしくは看護学と比較・分析できる。 3) 派遣先の大学の学生や教員と交流ができ友好を深める行動ができる。なお、海外派遣が困難である場合には遠隔講義等を活用して同等の目的の達成を図る。			
いずれもDPの「言語運用能力」と「問題解決・課題探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準			
1) 派遣先の大学もしくは受け入れ科で発行する修了証。 2) 報告書および報告会での発表の評価。 以上より判断し「了」をもって合格とする。			
授業計画並びに授業及び学習の方法			
対象となる派遣は以下のものに限る ・夏季休暇中: チェンマイ大学での研修(医学科・看護学科) ・夏季休暇中: ブルネイ・ダルサラーム大学での研修(医学科) ・春季休暇中: 中国医科大学もしくは河北医科大学での研修(医学科・看護学科ほか) 上記の派遣において以下のとおりの活動を行うこと。 1) 事前の十分な準備を行うこと。 2) 実習を自主的かつ勤勉に行うこと。 3) 報告書を提出すること。 4) 報告会において発表すること。 その他、医学部が実施する国際交流事業においても積極的に参加すること。			
【自学自習のためのアドバイス】 事前の英語学習、実習内容に関する予習、派遣後の振り返りについて30時間の自己学習を行うこと。			
教科書・参考書等			
※			

オフィスアワー 募集案内に記載の各コーディネータで随時受け付ける。 あらかじめアポイントメントを取り相談に行くこと。
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 医学部で開催される様々な国際交流活動に、積極的に参加してください。
教員の実務経験との関連